



# RS-D7 $x$

SYSTEM CONTROL TUNER/CD  
OPTICAL DIGITAL REFERENCE SYSTEM

取扱説明書

*Pioneer*

carrozeria $x$



オプティカル デジタル リファレンス システム  
システム コントロール チューナー/CD

# RS-D7x

## 取扱説明書

このたびはカロッツェリア Xシリーズ  
ODRシステムをお買い上げいただき  
まことにありがとうございます。

ご使用になる前に、この説明書を必ずお読みください。  
お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので  
保証書と一緒に大切に保管してください。

それでは、光デジタルの世界へご案内いたします。

# 安全のために必ずお守りください

## 絵表示について

この説明書、取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



## 警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



## 注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意(警告を含む)しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止(やってはいけないこと)の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

## 警告

### [異常時の処置]

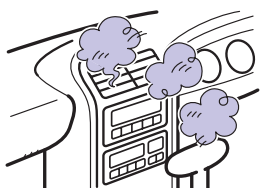
#### 故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

#### 異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

#### ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

# 目次

## 本書のみかた

－必ずお読みください－ ..... vi

本システムを使いこなすために、まず“本書のみかた”をご覧になり、本書を効果的にお使いください。

## 準備と予備知識 ..... 1

ようこそ光デジタルの世界へ ..... 2

ご使用になる前にお読みください ..... 4

メニュー表示のオープン/クローズ  
状態について ..... 6

本機のフロントパネルについて ..... 7

使用環境を設定する ..... 11

編集モードで文字を入力する ..... 22

初めてお使いになるときは、必ずお読みください。最初に行わなければならないことや、確認してほしいことが記載されています。

組み合わせたシステムを確認し、そのシステムに合わせて、環境設定を行きましょう。

## 共通の操作 ..... 25

電源を入れる・電源を切る ..... 26

音量調節 ..... 28

便利な機能 ..... 30

まず、ボリューム調節やソース切り換えなど、共通の操作を行います。

## 内蔵CDの操作 ..... 31

CDの正しい使いかた ..... 32

内蔵CDを操作する ..... 34

本機に内蔵のCDプレーヤーの操作を行います。

## チューナーの操作 ..... 43

ラジオを操作する ..... 44

本機に内蔵のAM/FMチューナーの操作を行います。

マルチCDの操作 ..... 53

マルチCDを操作する ..... 54

別売のマルチCDを本機に接続したときの操作を行います。

DVDプレーヤーの操作 ..... 67

DVDプレーヤーをご使用になる前に ..... 68

DVDプレーヤーを操作する ..... 69

別売のDVDプレーヤーを本機に接続したときの操作を行います。

テレビの操作 ..... 79

テレビを操作する ..... 80

別売のTVチューナーを接続したときの操作を行います。

オーディオ調整 ..... 87

オーディオメニューについて ..... 88

メインメニュー <Main> ..... 90

イコライザーメニュー <Equalizer> ..... 105

ネットワークメニュー <Network> ..... 115

調整したオーディオメニューの

メモリー機能 ..... 128

オーディオ設定者の表示機能について ..... 135

ここでは、オーディオユニットのDSP機能による、様々な音質コントロールのしかたを説明しています。車に合った音場空間を創造し、その内容を記憶させて、オリジナルの車内音場を楽しんでみましょう。

付録 ..... 137

故障かな？と思ったら ..... 138

オーディオ調整情報 ..... 142

機能別索引 ..... 146

仕様 ..... 148

メモ ..... 149

“あれ？故障かな？”と思ったときは、修理に出す前に必ず「故障かな？と思ったら」の項をお読みください。

また、「オーディオ調整情報」では、メモリー内容を控えるためのメモリーデータメモを記載しました。

本書の検索には、「機能別索引」をお役立ててください。

## 本書の見かた - 必ずお読みください -

この取扱説明書は、お使いになる機能に応じて、必要な部分をお読みいただけるような構成になっています。本書を効果的にお使いになり、光デジタルの世界を存分にお楽しみください。

### マークについて

本書および別冊の取付説明書の中には、次の3つのマークが使用されています。



危険防止のために絶対に行わないでください

使いかたを誤ると危険をおよぼす可能性のある事項が記載されています。



故障を防ぐために必ずお守りください

使いかたを誤ると故障の恐れがある事項が記載されています。



より詳しい情報を知るために

機能や仕様上の制限，操作上の注意点，本システムを使いこなすためのテクニックなど，補足的な事項が記載されています。

### クローズ状態で行うことができる操作について (リモコンマーク)



本システムはリモートコントローラーのカバーの開閉により、使用できる機能が異なります。

本書の中でリモコンマークが付いている操作は、カバーを閉じた状態で操作することができます。

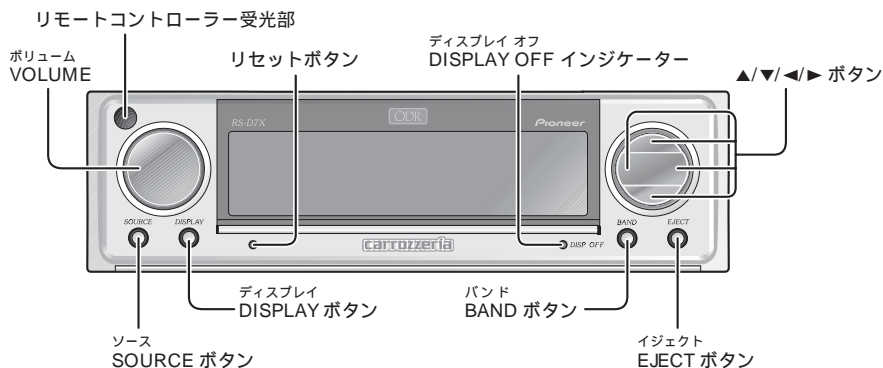
リモコンマークが付いていない操作は、カバーを開けた状態で行います。



## 各部の名称

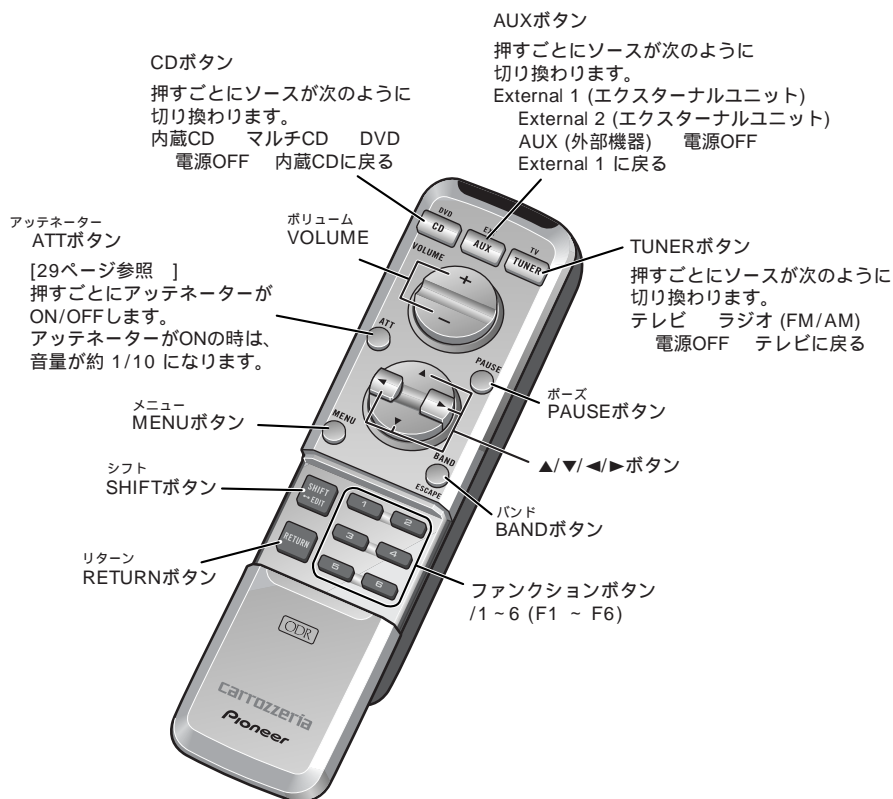
本システムは、一部の機能は「RS-D7x」本体で操作しますが、ほとんどの機能はリモートコントローラーで操作します。操作に使用するボタンは、本書の中では次のように表しています。

### システムコントローラーチューナー/CD「RS-D7x」



### リモートコントローラー

リモートコントローラーのボタン操作および開閉操作は、必ず、リモートコントローラーを本体のリモートコントローラー受光部に向けて行ってください。リモートコントローラーの位置によっては、正しく操作できないことがあります。



## ディスプレイの遷移図

このディスプレイ遷移図は、ODRシステムの機能（主にオーディオ調整の機能）を、簡単に紹介した物です。

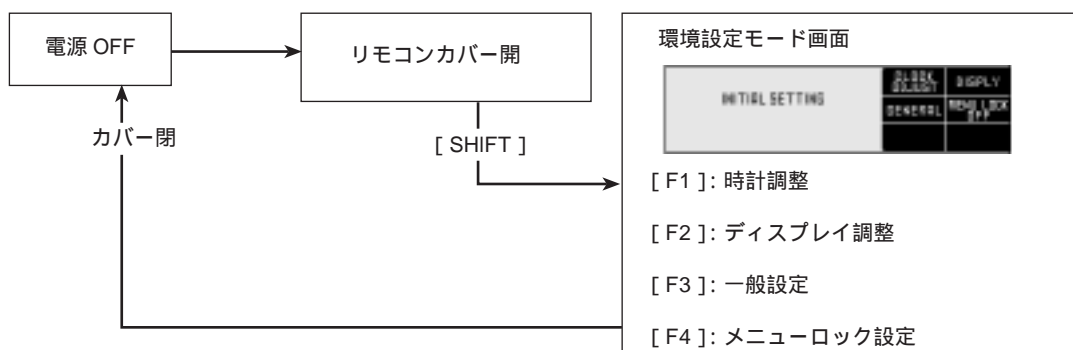
ディスプレイ遷移図では、リモートコントローラーで行う操作を紹介しています。

操作の対象となるボタン名称は、[ ] 内に記載しています。（例えば、ファンクションボタン/3は [F3] と表記しています。なお、ボタン名称の詳細については、“本書の見かた”の項 [vi] ページを参照してください。

オーディオメニューの機能は、「RS-P70x」接続時と、それ以外のオーディオユニット接続時で操作が異なる箇所があります。詳しくは、“オーディオ調整”の項 [87ページ] をご覧ください。

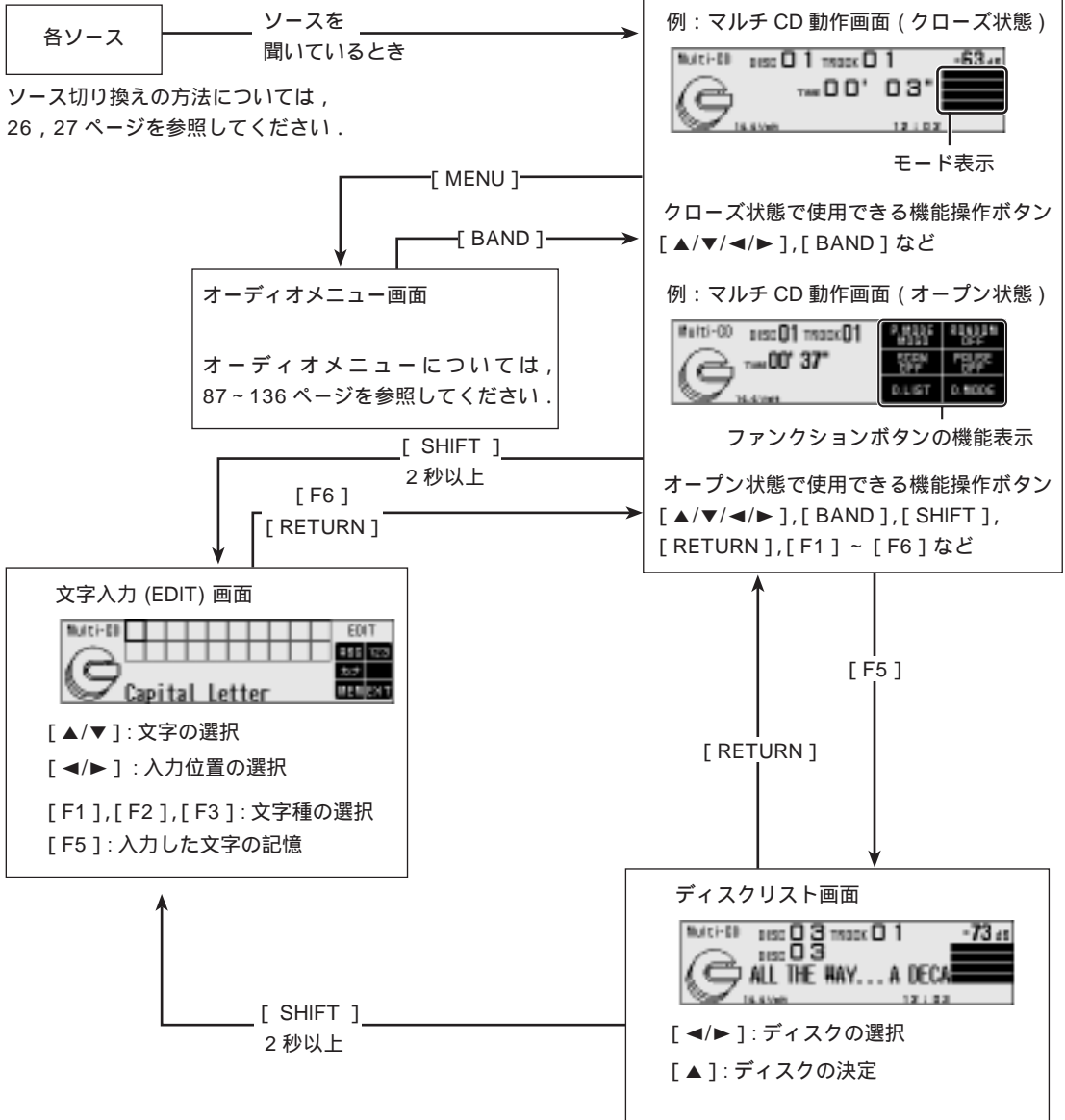
ここで説明している機能操作の詳細については、各メニューの説明箇所をご覧ください。

### 環境設定モード

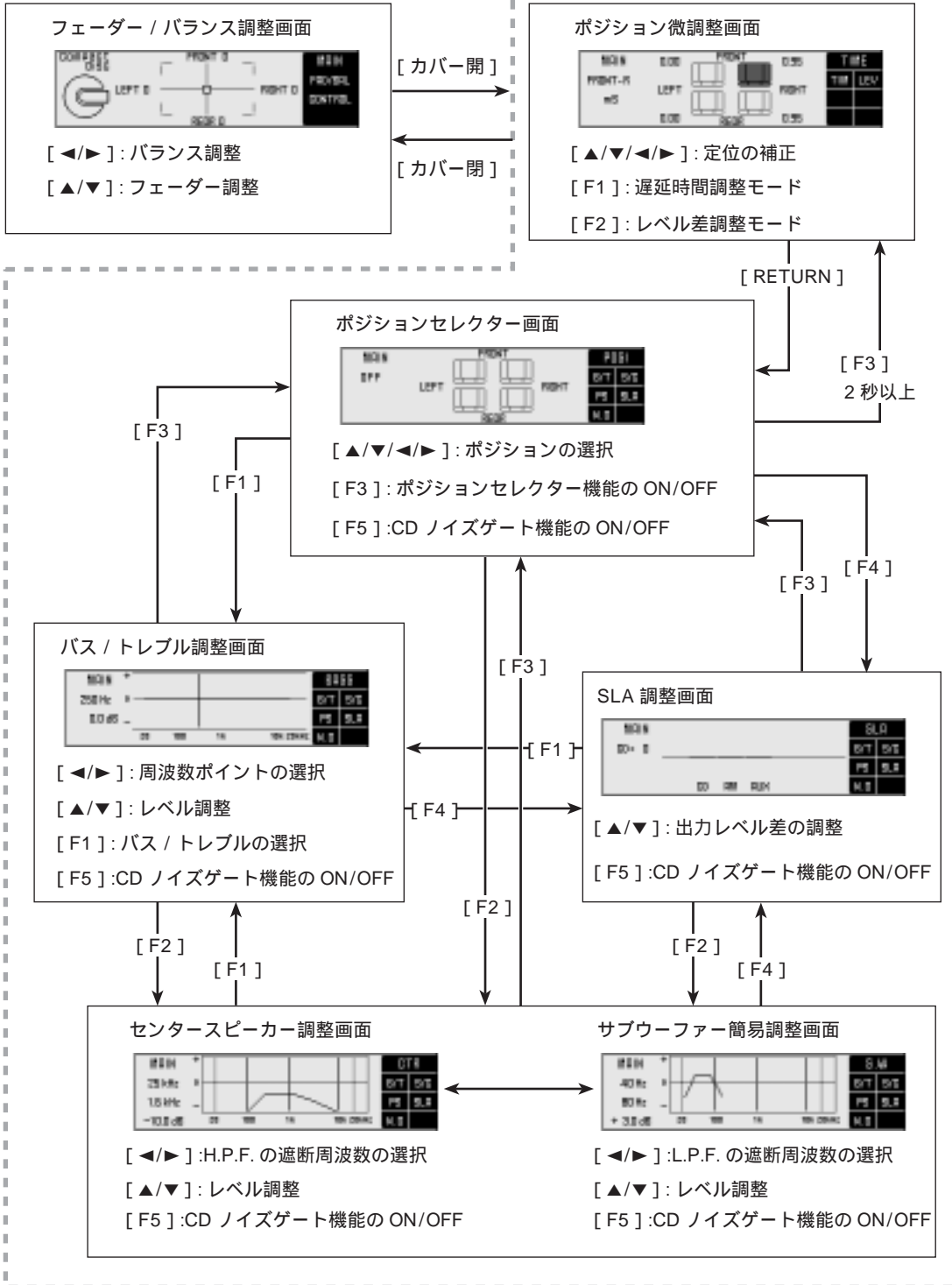


[ ▲/▼/◀/▶ ] およびファンクションボタン /1 ~ 6 で、それぞれ環境の設定を行います。

## 共通の操作 / 各ソースの操作



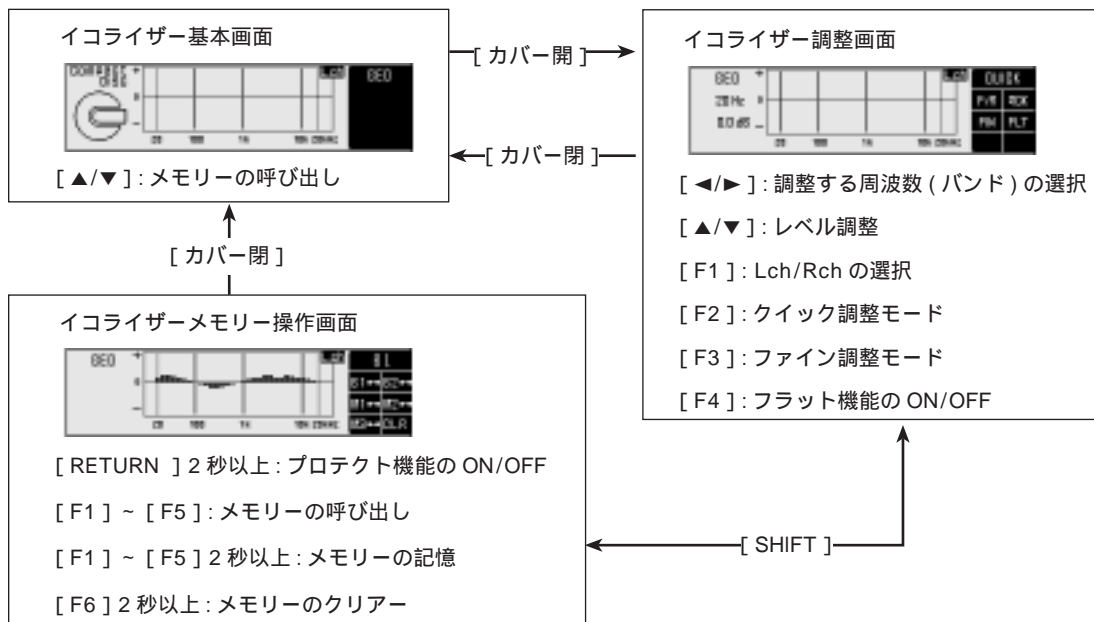
# メインメニュー <Main>



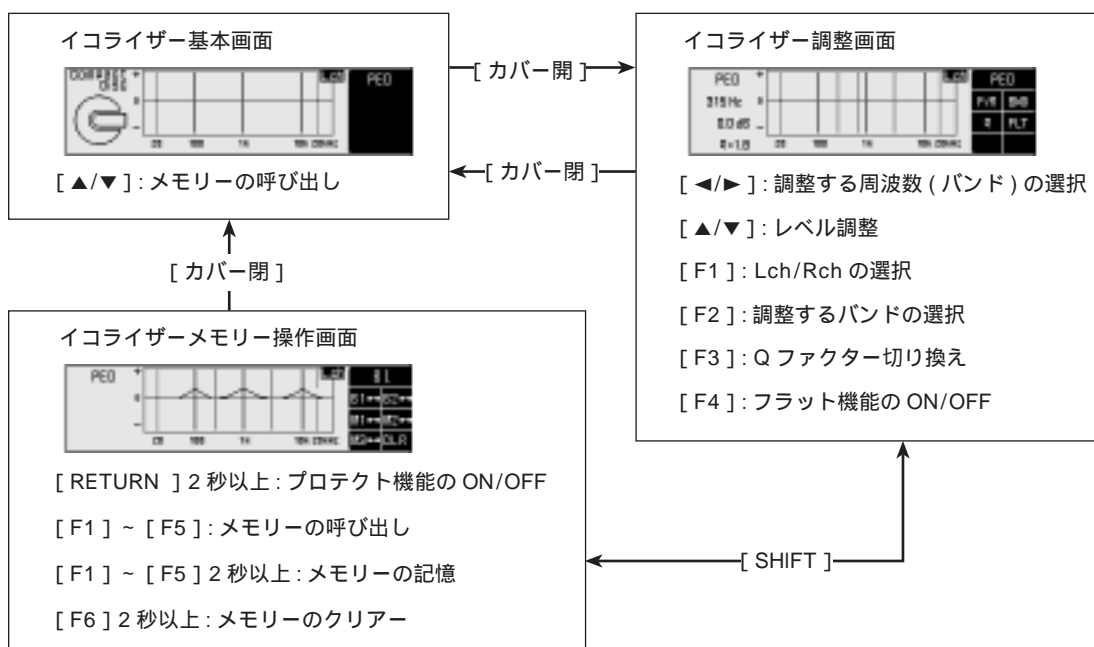
# イコライザーメニュー <Equalizer>

## グラフィックイコライザー

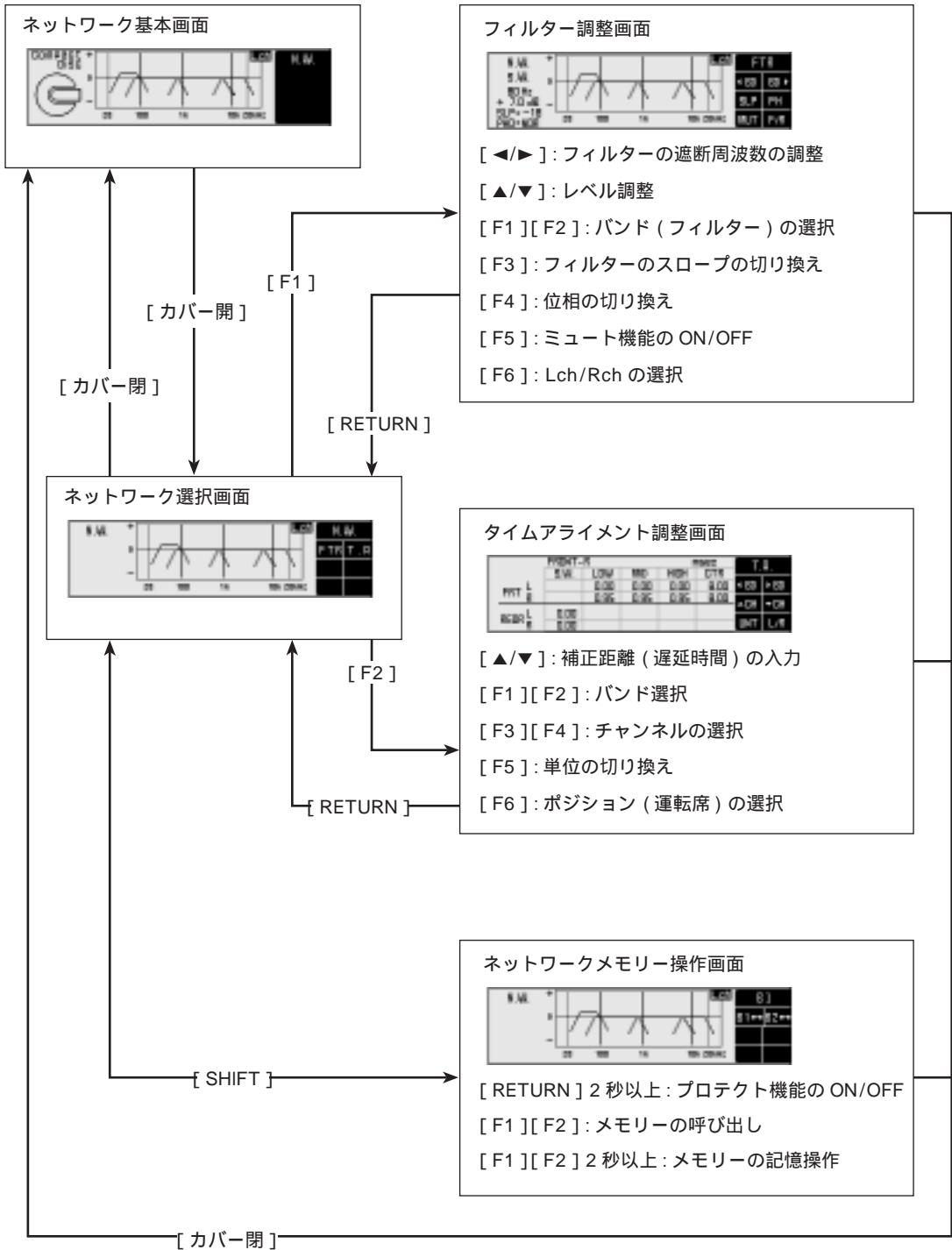
画面イラストは 31 バンド グラフィック イコライザーの例ですが、16 バンド グラフィック イコライザーでも同様の操作を行うことができます。



## パラメトリックイコライザー



## ネットワークメニュー <Network>



# 準備と予備知識

ご使用になる前に、行わなければならないことや、確認してほしいことが記載されています。  
組み合わせたシステムを確認し、そのシステムに合わせて、環境の設定を行きましょう。

## 内 容

ようこそ光デジタルの世界へ .....	2
より良い音質を求めて .....	2
ODRシステムとは? .....	2
ご使用になる前にお読みください ...	4
保証書は受け取りましたか? .....	4
本システムの取り扱いについて .....	4
リモートコントローラーの準備 .....	5
メニュー表示の	
オープン/クローズ状態について .....	6
本機のフロントパネルについて .....	7
フロントパネルの使いかた .....	7
デタッチャブルフロントパネルの使いかた .....	8
使用環境を設定する .....	11
環境設定モードに切り換える .....	11
時計の設定をする .....	12
ディスプレイの設定をする .....	15
一般環境の設定をする .....	17
メニューロックの設定をする .....	21
環境設定モードを解除(終了)する .....	21
編集モードで文字を入力する .....	22

## ようこそ光デジタルの世界へ

### より良い音質を求めて 理想の音場空間を創造するために

車室内での音響環境には様々な制限があります。車自体の形状、広さ、スピーカーの位置関係、電装品から発生するノイズなど、通常のホームオーディオとは全く異なる環境で音楽に接しています。

このような環境の車室内に、“より自然な状態で、最良の音を届けたい。”理想的な音場空間を創造する。ここから、ODRシステムは誕生しました。

### ODRシステムとは？

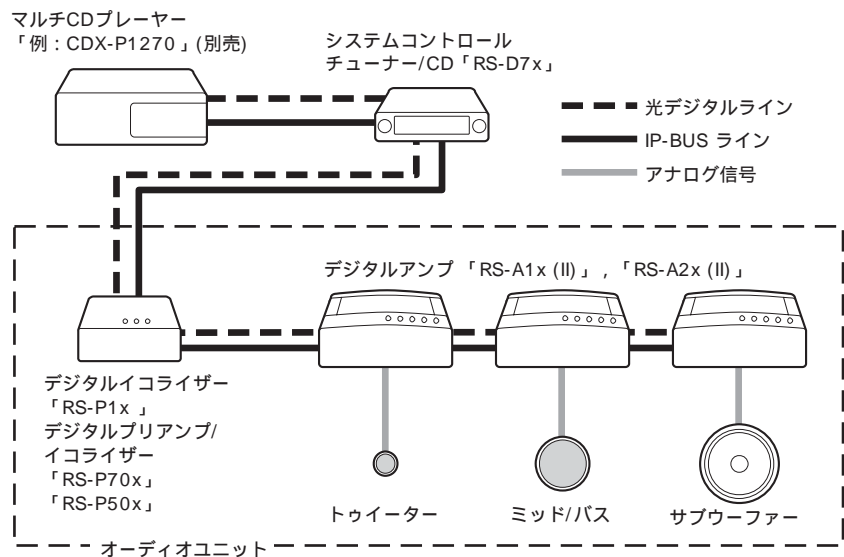
光デジタル伝送により音質劣化のない音を再現

ODR システムは、オーディオ信号が通る各ユニット間を、パワーアンプまで全て光ケーブルで接続し、オーディオ信号をデジタル信号で伝送することにより、音質の劣化を最小限に抑えたシステムです。

CDやDVDなどのデジタル信号はダイレクトで、チューナーなどのアナログ信号は一度デジタル信号に変換して、次のユニットへ送られます。音の出口であるスピーカー直前まで、デジタル信号を光で伝送するため、電源ノイズやその他の車特有のノイズの影響を受けずに、音を再現することが可能です。

ODR = Optical Digital Reference (オプティカル デジタル リファレンス)

システム構成例1：フル光デジタル伝送





## システムアップを容易にするデータ通信方式

各ユニット間のデータ通信方式には、当社独自のIP-BUSを採用。各ユニット間で相互にデータのやりとりを行い、制御することにより、ユニット単位で様々な機能を持つことが可能になり、大規模なシステムへのシステムアップも簡単にできるようになりました。

IP-BUS = Interactive PIONEER BUS (インターラクティブパイオニアバス)

## 全ての機能操作を車内から集中コントロール

各ユニットで持つ機能は、システムコントロールセンターチューナー/CDで集中コントロール。実際のボタン操作はリモートコントローラーで行うようにし、「RS-D7x」本体のディスプレイに256×64ドットのOELを採用することによって、機能に応じた多彩な表示が可能になりました。

OEL = Organic Electro Luminescence (有機EL)

## デジタル信号だからできる多彩な音質コントロール - DSP -

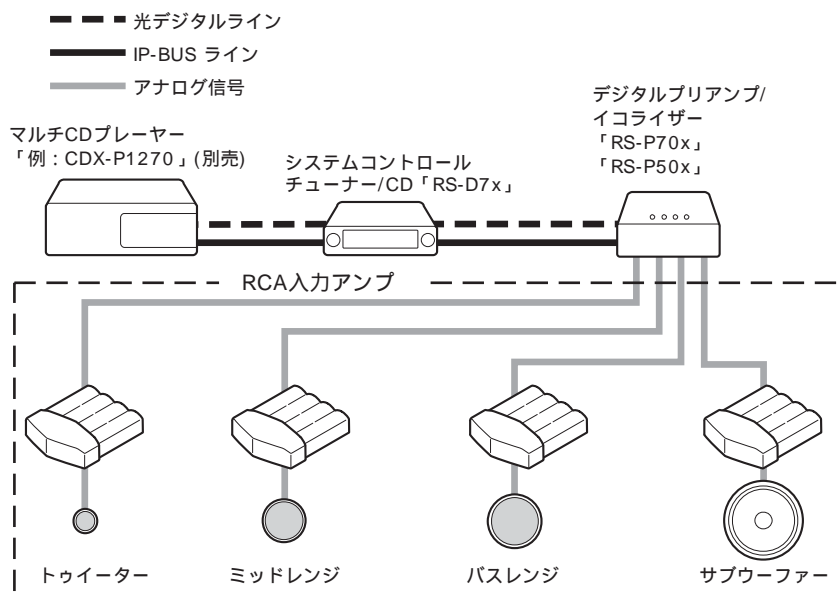
ODRシステムのオーディオユニット(デジタルイコライザーやデジタルアンプ)には、DSPによるデジタル信号処理を応用した数々の機能を搭載しており、きめ細かい微妙な音質コントロールを行うことができます。また、その機能は組み合わせるオーディオユニットによって、変化させることができます。

オーディオ信号の処理はデジタルで行われるため、信号処理の際の音質劣化は極めて少なく、高音質のまま、車独特の音響特性に応じた音づくりを実現します。

## RCA入力のアナログアンプを組み合わせることも可能です

すでにRCA入力のアナログアンプをお持ちのときは、アナログアンプを使用してシステムを構成することも可能です。

## システム構成例2：お手持ちのアナログアンプを使用する場合



## ご使用になる前にお読みください

### 保証書は受け取りましたか？

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されている事をお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容を良くお読みのうえ、大切に保管してください。

### 本システムの取り扱いについて

#### 車のバッテリーを取り外したときは

車のバッテリーを外すと、本機のメモリー（環境設定の内容、チューナーのプリセット、およびディスクタイトルなど）が全てリセットされます。再度セットしなおしてください。



#### バッテリーあがりに関するご注意

ODRシステムは、組み合わせる製品により消費電流が異なります。本システムに“Pure Class A”のデジタルパワーアンプ「RS-A1x (II)」を組み合わせたときは、消費電流が大きくなります。車のバッテリーあがりを防止するため、次のことにご注意ください。

\*車のエンジン停止中や5分以上のアイドリング中は、ODRシステムを使用しないでください。（システムの電源はOFFにしてください。）

\*車全体での消費電流が大きくなる次のような条件下では、ODRシステムを使用しないでください。（システムの電源はOFFにしてください。）

例1：「RS-A1x (II)」を2台使用 + 渋滞時 + 夜間走行

+ リアウィンドデフォグ（曇り取り）スイッチをON

例2：「RS-A1x (II)」を2台使用 + 渋滞時 + 夜間走行 + エアコンを強で使用

例3：「RS-A1x (II)」を2台使用 + 渋滞時 + 夜間走行 + 消費電流の大きい

アクセサリ類（例：フォグラмп）を使用

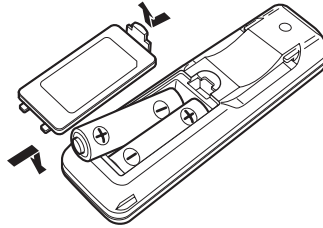


#### 供給電圧表示について

本機は、バッテリーからの供給電圧を、ディスプレイに表示させることができます。バッテリーからの供給電圧をチェックすることで、バッテリー上がりの防止に役立てることができます。[19ページ参照]

## リモートコントローラーの準備

裏ボタンを開けて、単4電池 (R03) 2本をセットします。



リモートコントローラーの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

### ⊘ リモートコントローラー取り扱い上の注意

リモートコントローラーのボタン操作および開閉操作は、必ず、リモートコントローラーを本体のリモートコントローラー受光部に向けて行ってください。

リモートコントローラーの位置によっては、正しく操作できないことがあります。

リモートコントローラーを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。

本体に直射日光が当たっていると、リモートコントローラーの操作ができないことがあります。このようなときは、本体にリモートコントローラーを近づけて操作してください。

乾電池は充電しないでください。

電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。

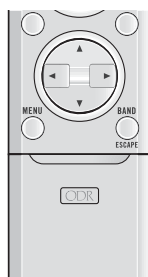
不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

## メニュー表示のオープン/クローズ状態について

本システムはリモートコントローラーの状態により、使用できる機能およびディスプレイのメニュー表示が異なります。

リモートコントローラーの状態		ディスプレイのメニュー表示
リモートコントローラー	ドア閉	クローズ状態
	ドア開	オープン状態

### メニュー表示クローズ状態

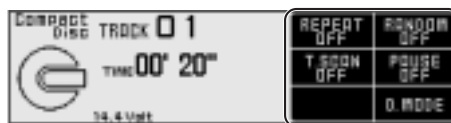


メニュー表示クローズ状態  
現在のモード状態や、ONになっている機能が表示されます。

### メニュー表示オープン状態



ファンクションボタン /1 ~ 6 とディスプレイのメニュー表示の位置関係は対応しています。



メニュー表示オープン状態  
ファンクションボタン /1 ~ 6 で操作できる機能が表示されます。



### 操作の途中でカバーを閉じたときは

それまでの操作が解除されて、メニュー表示がクローズ状態に戻ります。

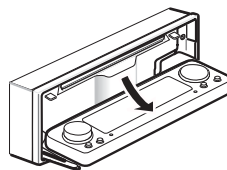
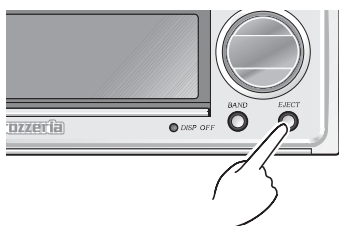
## 本機のフロントパネルについて

### フロントパネルの使いかた

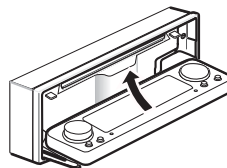
ディスプレイをより大きく、見やすくするために、本機のフロントパネルにはスライドダウン機構が採用されています。フロントパネルを開けると、ディスク挿入口が現れます。

#### フロントパネルの開閉

EJECTボタンを押すと、フロントパネルが開きます



EJECTボタンを押すと、フロントパネルが開まります



#### 開閉時のご注意

フロントパネルを開けた時、フロントパネルの上に物を置いたり、下に向けて強い力を加えないでください。故障の原因となります。

開閉させる際に、指や物をはさまないように注意してください。

フロントパネルを全開にしたまま走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをすることがあります。



#### 内蔵CDを再生しているときは

内蔵CDを再生しているときは、EJECTボタンを2秒以上押すごとに、CDを再生したままで、フロントパネルの開閉ができます。

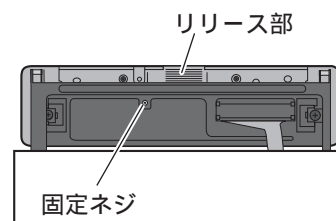
## デタッチャブル フロントパネルの使いかた

本機のフロントパネル部には、盗難を抑制する方法の一つとして、デタッチャブル機構を採用しています。車から離れるときに、簡単にフロントパネルを取り外し、携帯することができます。

### フロントパネルの固定ネジについて

フロントパネルを着脱できるようにするときは、フロントパネルを固定しているネジを、あらかじめ取り外してください。固定ネジを取り外さないと、フロントパネルは着脱できません。

- 1 フロントパネルを固定しているネジを取り外します

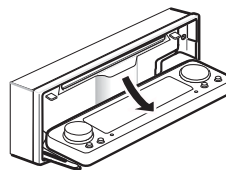
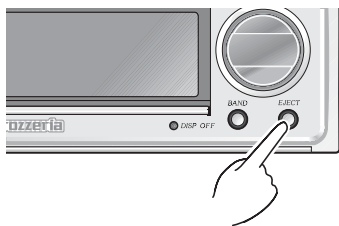


デタッチャブル フロントパネルを使用しないときは

フロントパネルを着脱する必要がない場合は、固定ネジは取り付けたままでご使用ください。

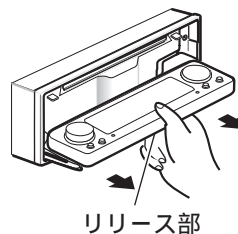
## フロントパネルの取り外しかた

- 1 EJECTボタンを押して、フロントパネルを開けます



- 2 リリース部を持って、フロントパネルを手前に引き抜きます

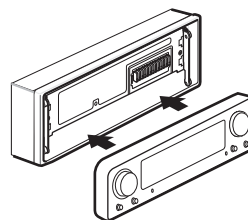
数秒後、フロントパネルが自動的に閉じます。この時、指などを挟み込まないように注意してください。



## フロントパネルの取り付けかた

### 1 フロントパネルを本体に押しつけます

このときに、操作ボタンやディスプレイは押さないでください。



## ⊘ フロントパネルの取り扱いについて

フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。

取り外し、取り付けの際にディスプレイやボタンを強く持たないでください。

落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。

高温になる場所や、直射日光の当たる場所に置かないでください。

分解しないでください。

ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけるしないでください。表面が侵されることがあります。

フロントパネルおよび本体の端子部を触らないでください。接触不良になる恐れがあります。汚れたときは、きれいな乾いた布でふいでください。

## 👉 フロントパネルが正しく取り付けられていないときは

各操作ボタンを押しても動作しない場合があります。このときはフロントパネルを軽く押してください。



## 使用環境を設定する

ディスプレイの明るさの調節や時計の調節など、本機を使用する環境の設定を行います。また、本システムには、ここで設定しておかなければ使用できない機能があります。ご使用になるシステムに合わせて、環境設定を行ってください。

### 環境設定モードに切り換える

環境設定は全て環境設定モードで行います。最初に環境設定モードに切り換えてください。環境設定モードに切り換えるには、次の方法で行います。

1 システムの電源をOFFにします

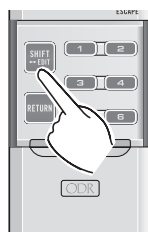
システムの電源がOFFになっていないと、環境設定モードに切り換えることはできません。[電源OFFについては、26, 27ページをご覧ください。]

2 リモートコントローラーのカバーを開けます



3 SHIFTボタンを押して、環境設定モードに切り換えます

環境設定モード/初期画面に切り換わります。



### 環境設定モードでの操作

環境設定モードでは、次の設定を行います。

時計の設定 [12ページ]

ディスプレイの設定 [15ページ]

一般環境の設定 [17ページ]

メニューロックの設定 [21ページ]

環境設定モードの解除 (終了) [21ページ]

## 時計の設定をする

### 時計調節画面に切り換える

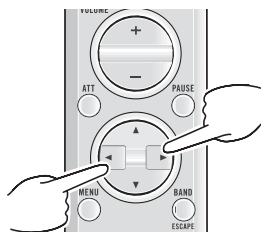
初期画面のときに、ファンクションボタン/1を押します

時計調節画面に切り換わり、時計の設定を行うことができます。



### 時計を合わせる

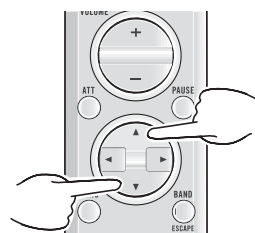
- 1 ◀▶ボタンを押して、調節したい部分(時、分)にカーソルを合わせます



- 2 ▲▼ボタンを押して、調節します

ボタンを押し続けると連続して送られます。

秒表示はありませんが、分を調節したときは、調節後ボタンから手を離すと0秒からスタートします。

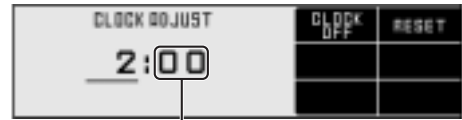


## 時報合わせをする

ファンクションボタン/2を押すと、分がリセットされます

0分0秒からスタートしますので、時報などで合わせてください。

00～29分のときは、分は切り捨てられます。30～59分のときは、1時間繰り上げられます。

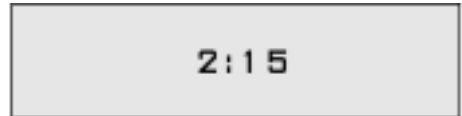


分がリセットされて“00”になります。

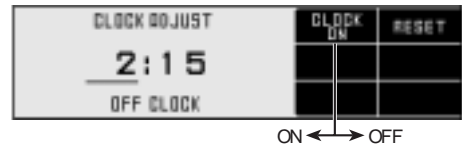
## 時計表示のON/OFF

システムの電源がOFFになっているときでも、ディスプレイを時計表示にすることができます。

電源がOFFのときの時計表示



ファンクションボタン/1を押すごとに、電源OFFのときの時計表示のON/OFFが切り換わります



## ⊘ バッテリー上がりを防止するために

車のエンジン停止中は、時計表示の長時間のご使用はお控えください。



電源がONのときは

各ソースの動作画面になっているときは、常に画面上に時刻が表示されます。



## 初期画面に戻る

RETURNボタンを押します

初期画面に戻ります。

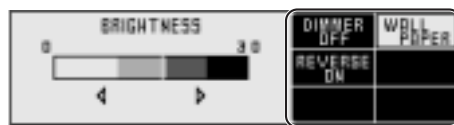


## ディスプレイの設定をする

### ディスプレイ設定画面に切り換える

初期画面のときに、ファンクションボタン/2を押します

ディスプレイ設定画面に切り換わり、ディスプレイの設定を行うことができます。

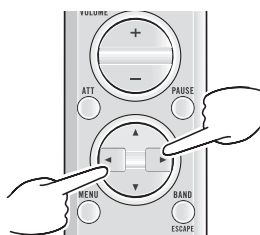


ファンクションボタンの機能表示

### ディスプレイの明るさを調節する

ディスプレイの明るさをお好みに合わせて調節することができます。

◀/▶ ボタンを押して調節します

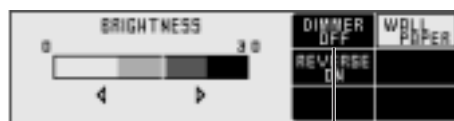


“0”～“30”の範囲で調整できます。

### 夜間のディスプレイの明るさを切り換える

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなります。

ファンクションボタン/1を押すごとに、ディマーのON/OFFが切り換わります



ON ← → OFF

## 背景のパターンを選ぶ

ディスプレイに表示される文字などの背景のパターンを選ぶことができます。

ファンクションボタン/2を押すごとに、壁紙が切り換わります

3つのパターンの中から選択してください。

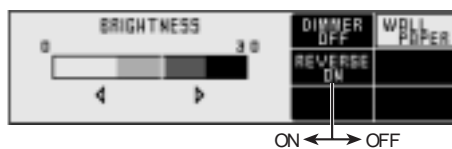


3種類の中から選択できます。

## ディスプレイの反転表示のON/OFF

各ソースを聞いているときに、約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は10秒間隔で行われます。

ファンクションボタン/3を押すごとに、反転表示のON/OFFが切り換わります



ON ← → OFF

## 一般環境の設定をする

### 一般環境設定画面に切り換える

初期画面のときに、ファンクションボタン/3を押します

一般環境設定画面に切り換わり、一般環境の設定を行うことができます。



ファンクションボタンの機能表示

### AUX (外部入力) の設定

本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

別売のRCA/IP- BUSインターコネクター(「CD- RB20」または「CD- RB10」)を使うとRCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。詳しくは、RCA/IP- BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

AUXの設定をONにしないと、AUXソースには切り換わりません。

[ソース切り換えについては、26, 27ページをご覧ください。]

ファンクションボタン/1を押すごとに、AUX設定のON/OFFが切り換わります



ON ← → OFF



外部機器を接続していない場合は

AUX設定はOFFのままでご使用ください。

IP- BUS入力端子の詳しい接続方法は

別冊の取付説明書をご覧になり、正しく接続してください。

## 外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

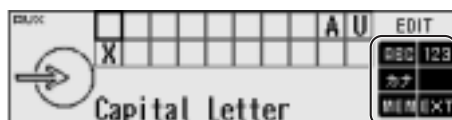
### 1 ソースをAUXに切り換えます

AUXの設定をONにしないと、AUXソースには切り換わりません。

[ソース切り換えについては、26、27ページをご覧ください。]

### 2 SHIFTボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換えます

文字入力画面に切り換わり、外部機器の名称を入力することができます。



ファンクションボタンの機能表示

### 3 外部機器の名称を入力して、記憶させます

22ページを参照して、入力を行ってください。

### 4 記憶させた名称が、ディスプレイ上に表示されます



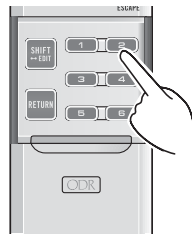
DATと入力した場合



## 供給電圧表示の設定

本機はバッテリーからの供給電圧を常にチェックしており、現在供給されている電圧をディスプレイに表示することができます。バッテリーからの電圧をチェックすることで、バッテリー上がりの防止に役立ちます。

ファンクションボタン/2を押すごとに、供給電圧表示のON/OFFが切り換わります



クローズ状態での電圧表示



### 電圧が10 V 未満になったとき

現在供給されている電圧が10 V 未満になったときは、「--- Volt」と表示されます。このような表示になった場合は、バッテリーが充電されるまでの間、本システムの電源をOFFにしてください。

## 操作確認音をON/OFFする

ボタンを押したときに鳴る操作確認音 (“ ピッ ”という音) をON/OFFすることができます。

ファンクションボタン/3を押すごとに、操作確認音のON/OFFが切り換わります



## FMダイバーシティシステムの設定

FMダイバーシティシステムを使用するときはONに、使用しないときはOFFに設定します。

ファンクションボタン/4を押すごとに、FMダイバーシティの設定のON/OFFが切り換わります



### FMダイバーシティシステムとは

FM放送を2本のアンテナで受信するシステムです。メイン用アンテナの受信感度が悪いときは、自動的にサブ用アンテナに切り換えて受信します。

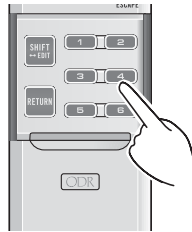
### FMダイバーシティシステムを使用しないときは

必ず設定OFFで使用してください。設定ONで使用すると、感度が悪くなったり、雑音が増加する場合があります。

## メニューロックの設定をする

メニューロックは、オーディオの設定をあやまって消去または再設定しないように、オーディオメニューの詳細設定をロックする機能です。

初期画面のときにファンクションボタン/4を押すごとに、メニューロックのON/OFFが切り換わります

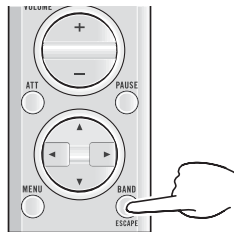


メニューロックがONの状態のときは、オーディオメニュー時でのリモートコントローラーの開閉操作は受け付けなくなります。

## 環境設定モードを解除 (終了) する

BANDボタンを押して、環境設定モードを解除します

解除すると、環境設定モードにする前の状態に戻ります。



リモートコントローラーのカバーを閉じて、環境設定モードが解除されます。  
各ソースに切り換えても、環境設定モードが解除されます。[26, 27ページ参照]

## 編集モードで文字を入力する

外部機器の名称入力 [18ページ]，ディスクタイトル入力 [40，62，77ページ]，およびオーディオ調整メニューの設定者名の入力 [135ページ] では，編集モードに切り換えて文字を入力し，その内容を記憶させます．ここでは，編集モードでの文字の入力のしかたを説明しています．

ディスクタイトルは20文字まで入力できます．(組み合わせたマルチCDやDVDプレーヤーによっては，最大10文字までしか入力できないこともあります．)

外部機器の名称およびオーディオ設定者名は20文字まで入力できます．

編集モードへの切り換えかたについては，それぞれのページを参照してください．



### 事故防止のために

文字の入力操作は画面を長く見る必要があります．事故防止のため運転中は文字の入力操作を行わないでください．

### 文字の入力

- 1 ファンクションボタン/1，2，3を押して，文字の種類を選びます  
押し続けると連続して送られます．

押すボタン	選べる文字
1ボタン (1ボタンを押すごとに切り換わります)	アルファベットの小文字 (a~z) アルファベットの大文字 (A~Z)，数字 (0~9)，記号 (!，#，&など)
2ボタン	数字 (0~9) 記号 (!，#，&など)
3ボタン (3ボタンを押すごとに切り換わります)	カタカナ (ア~ン)，音引き (ー) 拗促音 (ア，ヨ，ツなど)，濁点，半濁点

## 2 文字を入力します

入力する文字を選びます

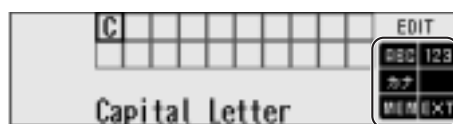
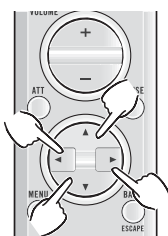
▲：次の文字を選ぶとき

▼：前の文字を選ぶとき

入力する位置を選びます

▶：左に移動させるとき

◀：右に移動させるとき



ファンクションボタンの機能表示

画面の大きさのため、入力は2段に分けて行います。

空白を作りたいときは、空白にしたい箇所の文字ボックスをとばしてください。

3 1, 2の操作を繰り返し行って、全ての文字を入力します

4 ファンクションボタン/5を押して、記憶させます



### 編集モードを解除する

ファンクションボタン/6を押します





# 共通の操作

- 共通の操作 -

ボリューム調節やソース切り換えなど、共通の操作を行います。

## 内 容

電源を入れる・電源を切る .....	26
ソース切り換え .....	26
音量調節 .....	28
音量調節 (ボリューム) .....	28
瞬時に音量を小さくする (アッテネーター) .....	29
便利な機能 .....	30
画面表示をOFFにする .....	30
ミュート機能 .....	30

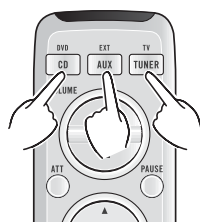
## 電源を入れる・電源を切る

### ソース切り換え

次の操作で組み合わせたソースを切り換えることができます。

#### リモートコントローラーでの操作

それぞれのボタンを押すと、それぞれのソースに切り換わります



#### CDボタン

内蔵CD   マルチCD   マルチDVD   電源OFF   内蔵CDに戻る

#### AUXボタン

External 1 (エクスターナルユニット) (別売)

External 2 (エクスターナルユニット) (別売)   AUX (外部機器)   電源OFF

External 1 (エクスターナルユニット) に戻る

#### TUNERボタン

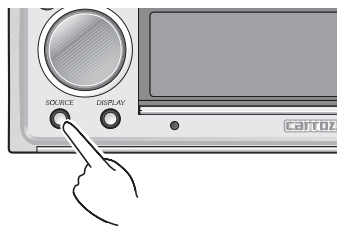
テレビ   ラジオ (FM/AM)   電源OFF   テレビに戻る

電源OFFにするときは、それぞれのボタンを押して、電源OFFを選んでください。



## 本体での操作

SOURCEボタンを押すごとに、次の順でソースが切り換わります



内蔵CD   マルチCD   マルチDVD   テレビ   ラジオ (FM/AM)  
External 1 (エクスターナルユニット) (別売)  
External 2 (エクスターナルユニット) (別売)   AUX (外部機器)  
内蔵CDに戻る

電源OFFにするときは、SOURCEボタンを1秒以上押してください。



### AUX (外部入力) について

AUX (外部機器) の設定 [17ページ] をONにしないと、AUXには切り換わりません。

#### こんなときそのソースには切り換わりません

組み合わせていないソース。

本機にCDがセットされていないとき。

マルチCDにマガジンがセットされていないとき。

DVDプレーヤーにディスク (マガジン) がセットされていないとき。

AUX (外部入力) の設定をOFFにしているとき。  
[17ページ参照]

#### 電源OFFからソースに切り換えたときは

ODRシステムは、電源がONになると、接続されている各製品の間で接続状態の確認を行います。このため電源をONにしてから音が出力されるまでに、数秒間かかることがあります。(車のイグニッションスイッチをOFFからONにしたときも同様です。)



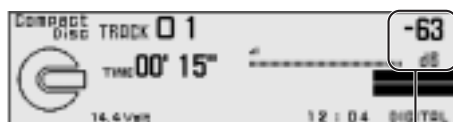
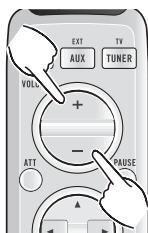
### External (エクスターナルユニット) について

External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2台のExternal (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External1, External2のどちらに切り換えても“External”が表示されます。2台のExternal (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External1, External2が自動的に設定されます。

## 音量調節

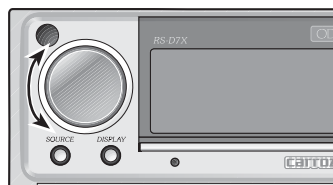
### 音量調節 (ボリューム)

リモートコントローラーでの操作：VOLUMEを押します  
押し続けると連続して調節できます。



--- dB ~ 00dB

本体での操作：VOLUMEを回します



#### ⚠ 音量は控えめに

運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご使用ください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。

#### ⊘ バッテリーあがりに関するご注意

車のエンジン停止中やアイドリング中は、大音量で長時間使用しないでください。

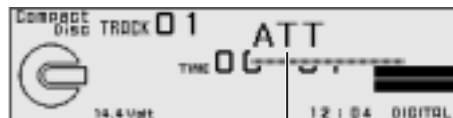
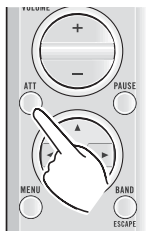
## 瞬時に音量を小さくする (アッテネーター)

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

リモートコントローラーのATTボタンを押します

ボタンを押すごとにON/OFFします。

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。



ATTが表示されます。

## 便利な機能

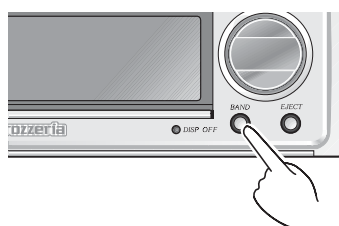
### 画面表示をOFFにする

画面表示をOFFにすることでノイズを抑え、音質への影響を防ぐことができます。

本体のBANDボタンを2秒以上押します

ボタンを押すごとにON/OFFします。

画面表示がOFFのときは、本体のDISPLAY OFFインジケータが点灯し、現在、システムの電源がONであることを知らせます。

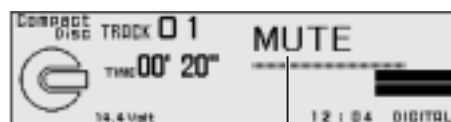


画面表示がOFFのときに、何かボタンを押すと、画面表示が約5秒間点灯し、再び消えます。

### ミュート機能

ミュート機能のある製品 (パイオニア製HDDナビゲーションサーバー「AVIC-H07」など) と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュート機能が働きます。ミュート機能が働いているときは、画面上に“MUTE”が表示され、音声がスピーカーから出力されなくなります。

ミュート機能が解除されると、自動的にもとの画面表示と音量に戻ります。



MUTEが表示されます。

# 内蔵CDの操作

## 内蔵CDの操作

内蔵CDのいろいろな機能を操作します。

### 内 容

CDの正しい使いかた .....	32
使用できるCDについて .....	32
取り扱い上のご注意 .....	32
保管上のご注意 .....	32
お手入れについて .....	33
CD再生の環境について .....	33
「CD TEXT」について .....	33
<b>内蔵CDを操作する .....</b>	<b>34</b>
内蔵CD再生のON/OFF .....	34
選局する(トラックサーチ)、 早送り/早戻しをする .....	37
リピート再生 .....	37
ランダム再生 .....	38
スキャン再生 .....	38
ポーズ .....	39
ディスプレイ表示を切り換える .....	39
CDのタイトルを表示させる .....	40
「CD TEXT」のタイトルや歌手名を 表示させる .....	41

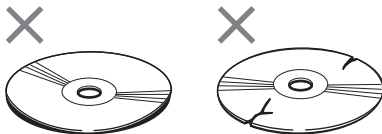
## CDの正しい使いかた

### 使用できるCDについて

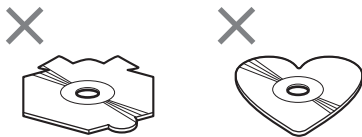
下記マークの付いているコンパクトディスク (光学式デジタル オーディオ ディスク) をご使用ください。



ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。



特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因となります。



音楽用CDレコーダーで録音したものの以外のCD-R/CD-RWディスクは、正常に再生できない場合があります。

音楽用CDレコーダーで録音したCD-R/CD-RWディスクでも、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。

音楽用CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。

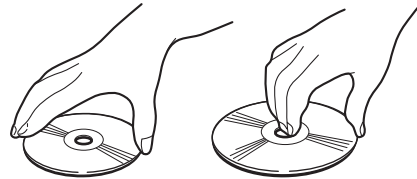
本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲を飛ばして再生します。

CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。

CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

### 取り扱い上のご注意

CDは、下図のように、信号記録面 (虹色に光っている面) をさわらないように持つてください。



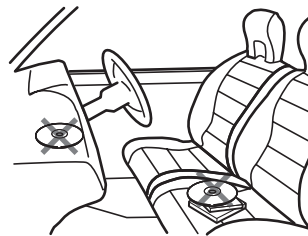
CDにキズをつけないでください。

CDにシールなどを貼り付けしないでください。



### 保管上のご注意

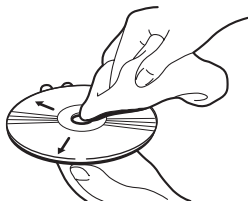
直射日光の当たるところや、高温になるところには、CDを保管しないでください。



CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

## お手入れについて

CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



当社ではCD用のクリーニングキット「JV-D11」を別売しています。カーステレオ販売店で買い求めください。

## CD再生の環境について

走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。

寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDについた露は柔らかい布でふいてください。

## 「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、ディスク名/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークの付いているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



「CD TEXT」には、タイトルを入力することはできません。そのため、「CD TEXT」再生中にタイトル入力 [40, 62ページ参照] の操作を行っても、タイトル入力モードには切り換わりません。

本機は、カナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字の表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。



### CD再生に関して

製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

## 内蔵CDを操作する

### 内蔵CD再生のON/OFF

#### ディスクのセット

#### ⊘ ディスクをセットする前に

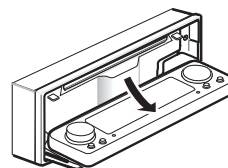
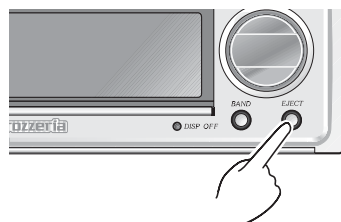
ディスクがセットされていないことを確認してから、ディスクをセットしてください。

ディスクを2枚重ねて差し込まないでください。故障の原因になります。

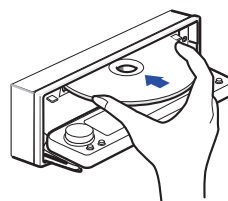
CDシングル (8cm CD) もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。

CD挿入口にはCD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。

#### 1 EJECTボタンを押して、フロントパネルを開けます



#### 2 タイトル面を上にして、CD挿入口に差し込みます



#### タイトル面を下にしたときは

間違えてタイトル面を下にして差し込んだ場合、ディスプレイがエラー表示になります。この場合は、EJECTボタンを押してCDを取り出し、CD挿入口に正しく入れ直してください。



### 3 自動的にフロントパネルが閉まり，CDの再生が始まります

タイトル画面の後，内蔵CD動作画面に切り換わります．リモートコントローラーのカバーの開閉により，メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります．

内蔵 CD 動作画面 (クローズ状態)



モード表示

内蔵 CD 動作画面 (オープン状態)



ファンクションボタンの機能表示



#### ディスクがすでにセットされているときは

CDボタンを押して，CD再生をON/OFFすることができます (ソース切り換え)．[26，27ページ参照]

#### 異常なディスクをセットしたときは

ディスクを差し込んで途中で止まってしまうときや，セットされても再生が始まらないときは，ディスクの異常が考えられます．このような場合は，ディスクの異常を確認してください．

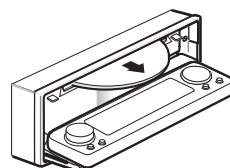
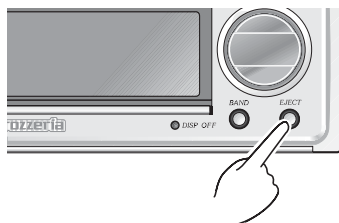
#### エラー表示について

CDプレーヤーが正常に動作できないときは，ディスプレイがエラー表示になります．この場合は，140ページの“CDプレーヤーのエラー表示”を参照して，その内容を確認してください．

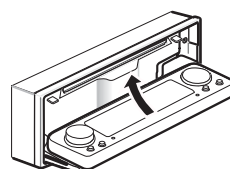


## ディスクを取り出す (イジェクト)

- 1 EJECTボタンを押して、ディスクを取り出します  
フロントパネルが自動的に開き、ディスクがイジェクトされます。

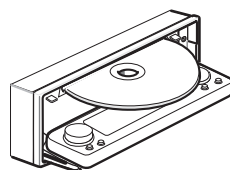


- 2 ディスクを取り出します
- 3 EJECTボタンを押して、フロントパネルを閉めます



### イジェクト後、ディスクはすぐに保管しましょう

ディスクを図の状態のまま長時間放置しないでください。ソリの原因となります。また 8 cm CDはこの状態のまま走行しないでください。走行中の振動により、ディスクが落下することがあります。



## 選曲する (トラックサーチ), 早送り/早戻しをする

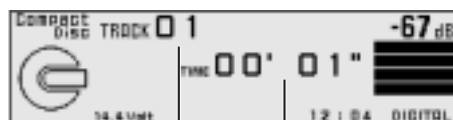
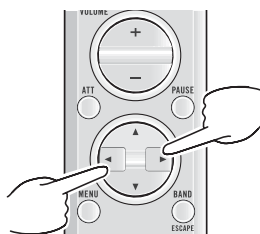
選曲 : ◀/▶ ボタンを0.5秒未満押す

早送り/早戻し : ◀/▶ ボタンを0.5秒以上押す

◀/▶ ボタンを押して, 操作します

▶ : 次の曲を選ぶ (または早送りする) とき

◀ : 前の曲を選ぶ (または早戻しする) とき



トラック番号

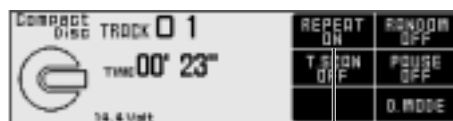
再生経過時間

「RS-D7x」本体の◀/▶ボタンでも, 同様の操作をすることができます.

## リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます.

ファンクションボタン/1を押すごとに, ON/OFFが切り換わります



ON ↔ OFF

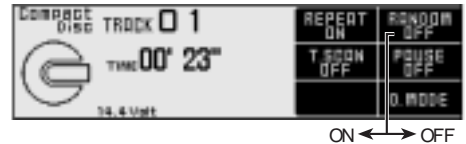
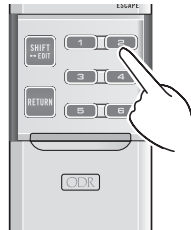
クローズ状態では, リピート再生中は“ REPEAT ”が表示されます.

## ランダム再生

選局をCDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

ファンクションボタン/2を押して、ランダム再生を始めます

解除するときは、もう一度ボタンを押します。



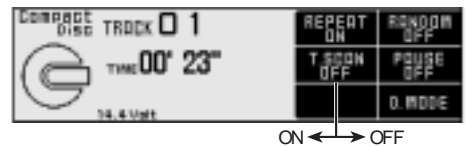
クローズ状態では、ランダム再生中は "RANDOM" が表示されます。

## スキャン再生

曲の初めの部分だけを約10秒間ずつ次々と聞くことができます。

- 1 ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を始めます

曲の始めから約10秒間を次々に再生します。



クローズ状態では、スキャン再生中は "T.SCAN" が表示されます。

- 2 聞きたい曲が再生されたら、もう一度ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を解除します

このとき再生している曲を継続して再生します。



### スキャン再生は自動的に解除されます

スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。

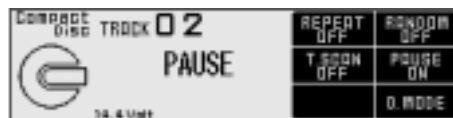
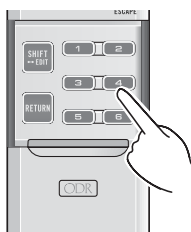
## ポーズ

CDの再生を一時停止することができます。

### リモートコントローラーオープン状態での操作

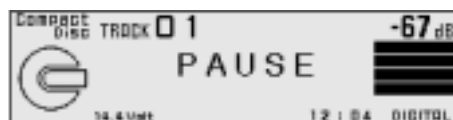
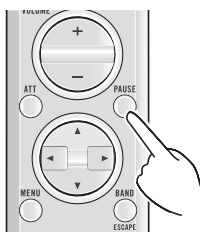
ファンクションボタン/4を押すごとに、ON/OFFが切り換わります

ポーズ中でも、早送り/早戻し以外の機能は操作することができます。



### リモートコントローラークローズ状態での操作

PAUSEボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります

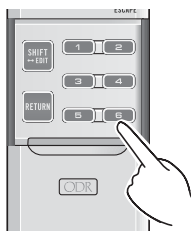


## ディスプレイ表示を切り換える

ディスプレイの表示を、通常画面とシンプル画面の間で切り換えることができます。

ファンクションボタン/6を押して、画面を切り換えます

シンプル画面



## CDのタイトルを表示させる

本機にセットされているCDに、タイトルを入力し、記憶させることができます。また、タイトル入力を行ったCDを再生すると、ディスプレイにそのタイトルが表示されます。

タイトルは20文字まで入力できます。(組み合わせた組み合わせたマルチCD、DVDプレーヤーによっては、最大10文字までしか入力できない場合があります。詳しくは販売店にご相談ください。)

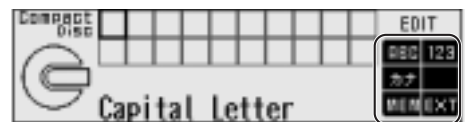
内蔵CDのタイトルは、48枚分の記憶ができます。

48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

### タイトルを入力する (編集モードに切り換える)

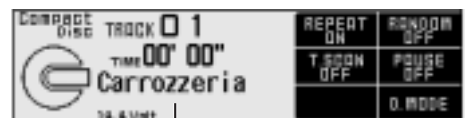
タイトルの入力、編集モードで行います。

- 1 タイトルを入力したいディスクを再生します
- 2 SHIFTボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換えます  
文字入力画面に切り換わり、ディスクタイトルを入力することができます。



ファンクションボタンの機能表示

- 3 タイトルを入力して、記憶させます  
22ページを参照して、入力を行ってください。
- 4 記憶させたディスクタイトルが、ディスプレイ上に表示されます



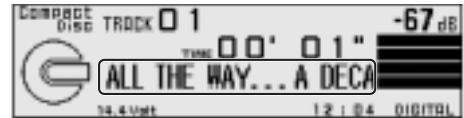
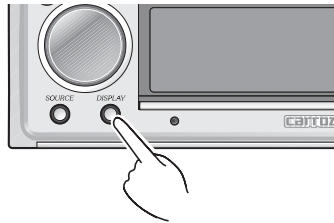
記憶させたタイトルが表示されます。

## 「CD TEXT」のタイトルや歌手名を表示させる

本機に「CD TEXT」をセットしたとき、トラックタイトルや歌手名などを表示させることができます。一度に20文字まで表示することができます。また、隠れている文字を順に表示させることもできます。

### 表示を切り換える

本体のDISPLAYボタンを押すごとに、以下のように切り換わります

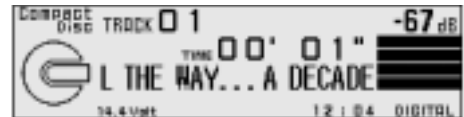
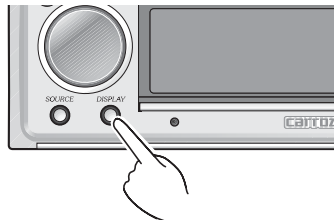


「CD TEXT」の文字情報が表示されます。

ディスクタイトル(ディスク名)    ディスクアーティストネーム(歌手名)  
トラックタイトル(曲名)    トラックアーティストネーム(歌手名)  
ディスクタイトルに戻る

### 隠れているタイトルを表示する

本体のDISPLAYボタンを2秒以上押します



隠れている文字が順番に表示されます。





# チューナーの操作

本機に内蔵のチューナーの操作を行います。

## 内 容

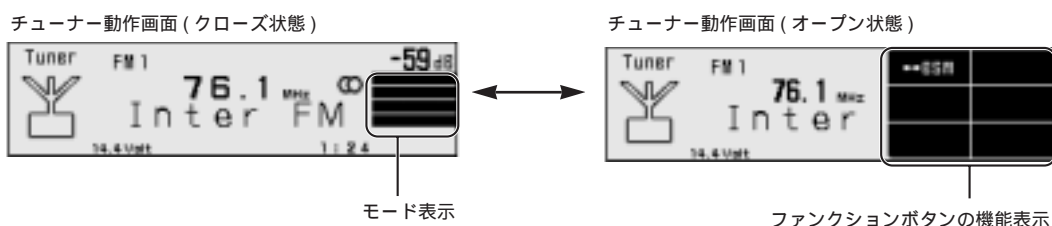
チューナーを操作する .....	44
チューナーのON/OFF .....	44
バンドを選ぶ .....	44
放送局を選局する .....	45
放送局を記憶させる .....	46
記憶させた放送局を呼び出す (プリセットチューニング) .....	48
放送局名を変更する .....	50

## チューナーを操作する

### チューナーのON/OFF

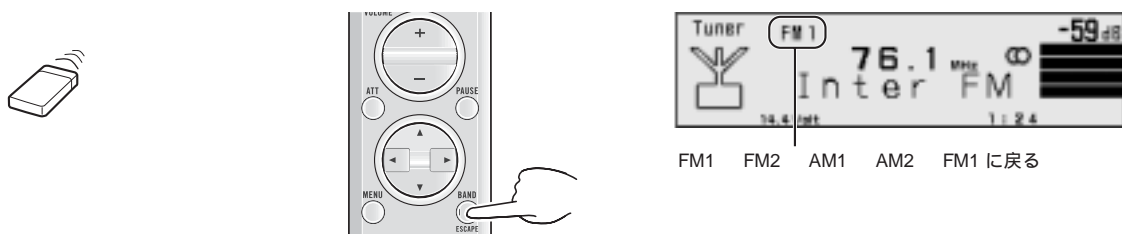
TUNERボタンまたはSOURCEボタンを押して、ソースをチューナーに切り換えます  
[26, 27ページ参照]

タイトル画面の後、チューナー動作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。



### バンドを選ぶ

BANDボタンを押すごとに、次の順で切り換わります



「RS-D7x」本体のBANDボタンでも、同様の操作をすることができます。



#### ステレオ放送の受信について

ステレオ放送を受信したときは、ディスプレイにステレオ表示 “ $\odot$ ” が点灯します。

#### 各バンドについて

バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと、バンド1に記憶させた放送局はそのままお使いになれます。

## 放送局を選局する

放送局を選局するには、次の2つの方法があります。

自動選局：◀/▶ ボタンを0.5秒以上押す

電波の強さが、ある一定レベル以上の放送局を自動的に選局します。

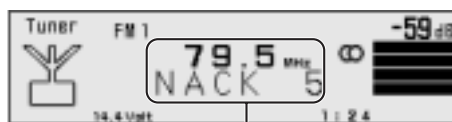
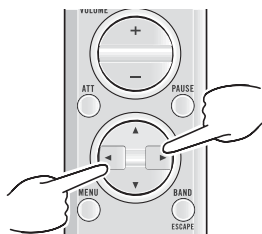
手動選局：◀/▶ ボタンを0.5秒未満押す

手動で周波数を合わせて選局します。電波が弱く、自動選局では飛ばしてしまう放送局を受信したいときにご使用ください。

◀/▶ ボタンを押して、選局します

▶：高い周波数の放送局を選局するとき

◀：低い周波数の放送局を選局するとき



周波数 / 放送局名表示

「RS-D7x」本体の◀/▶ ボタンでも、同様の操作をすることができます。

0.5秒以上押し続けている間、途中の放送局を飛ばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。

電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

本機はあらかじめ放送局名を記憶しています。ディスプレイに表示されている放送局名と受信している放送局名が異なるときは、受信している放送局名に変更することができます。[50ページ参照]

## 放送局を記憶させる

FM, AMそれぞれ12局ずつ (バンド1, 2で各6局), 放送局をファンクションボタン /1~6に記憶させておくことができます。

放送局を記憶させるには, 次の2つの方法があります。

受信中の1局を記憶させる (プリセットメモリー)

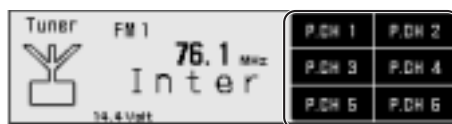
ファンクションボタン/1~6に, お好みの放送局を1局ずつ手動で記憶させます。

自動的に6局を記憶させる (BSM: ベストステーションズメモリー)

受信状態の良い放送局をさがして, 自動的にファンクションボタン/1~6に記憶させます。

### 受信中の1局を記憶させる (プリセットメモリー)

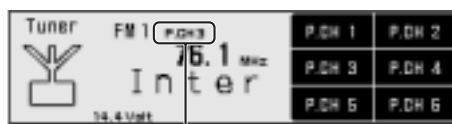
- 1 バンドを選びます
- 2 記憶させたい放送局を選局します  
◀▶ボタンを押して, 記憶させたい放送局を受信してください。
- 3 SHIFTボタンを押して, プリセット番号表示にします



プリセット番号表示

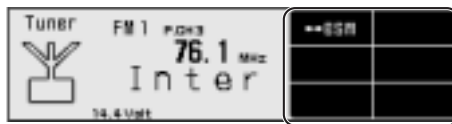
- 4 ファンクションボタン/1~6の1つを2秒以上押し続け, 記憶させます

放送局がすでに記憶されている場合は, 前の記憶が消去されて, 新しい放送局が記憶されます。



記憶させたプリセット番号が表示されます。

- もう一度，SHIFTボタンを押して，プリセット番号表示を解除します  
ファンクションボタンの機能表示に戻ります。



ファンクションボタンの機能表示

## 自動的に6局を記憶させる (BSM：ベストステーションズメモリー)

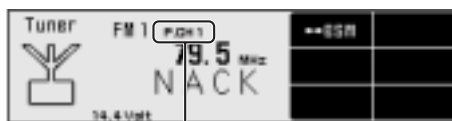
- バンドを選びます
- ファンクションボタン/1を2秒以上押し続け，BSMを始めます  
電波の強い放送局を自動的に受信して，ファンクションボタン/1～6に記憶します。  
BSM動作中にもう一度押すと，解除されます。



記憶終了まで点滅します。

このとき，リモートコントローラーのカバーを閉じても，BSMは継続されます。

- 記憶が終わると，点滅が止まり，ファンクションボタン/1に記憶した放送局を受信します



受信中の記憶番号



### BSM機能について

FM/AMのときは，ファンクションボタン/1～6に電波の強い順に記憶します。

強い電波の放送局が6局以上ないときは，前の記憶が残ることがあります。

強い電波の放送局が少ない地域では，BSMが終了するまでに30秒近くかかることがあります。

記憶させた放送局を呼び出すには，次ページのプリセットチューニングを参照してください。

### BSM機能の上手な使いかた

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば，バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など，どんな放送局があるのか知らない地域に行ったときに，バンド2に切り換えてBSMを使うと，バンド1に記憶させた放送局はそのまま使いになれます。

## 記憶させた放送局を呼び出す (プリセットチューニング)

記憶させた放送局を呼び出すには、次の2つの方法があります。

### 順送り/逆送り

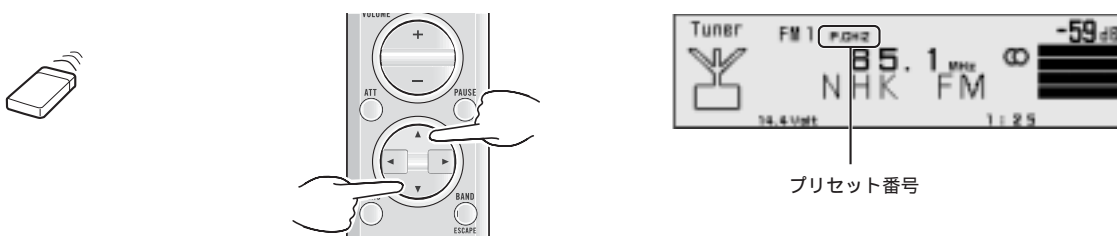
プリセット番号の順送り/逆送りで、記憶させた放送局を呼び出します。

### プリセット番号を直接指定する

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。聞きたい放送局が記憶されているプリセット番号を直接呼び出します。

### 順送り/逆送りで選ぶ

▲/▼ボタンを押すと、プリセット番号が順送り/逆送りされます



「RS-D7x」本体の▲/▼ボタンでも、同様の操作をすることができます。

## プリセット番号を直接指定する

### 1 SHIFTボタンを押して、プリセット番号表示にします

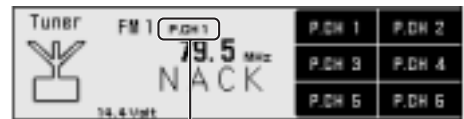
ボタンを押すごとに、ファンクションボタンの機能表示とプリセット番号表示が切り換わります。



プリセット番号表示

### 2 ファンクションボタン/1～6で、プリセット番号を選びます

聞きたい放送局が記憶されているプリセット番号を呼び出してください。



呼び出したプリセット番号が表示されます。

## 放送局名を変更する

ディスプレイに表示されている放送局名が、受信している放送局名と異なるときは、放送局名を変更することができます。

### 放送局名表示について

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は違うことがあります。

(例：FM 80.0MHzを使用している放送局は“ TOKYO FM ”、“ FM 青森 ”、“ FM 福岡 ”など複数あります。)

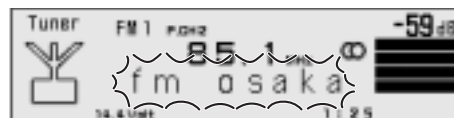
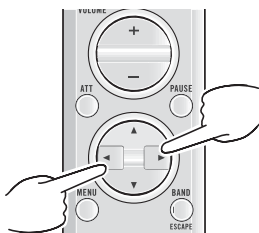
本機には、あらかじめ放送局名が記憶されています。ディスプレイに表示されている放送局名が受信している放送局名と異なるような場合は、放送局名を変更して表示することができます。

(例：福岡でFM 80.0MHzに周波数を合わせた場合、“ FM 福岡 ”を受信しますが、本機の初期設定のままお使いになると、表示は“ TOKYO FM ”となります。このようなときは以下の手順で放送局名を変更することができます。)

- 1 BANDボタンを押して、放送局名を変更するバンドを選びます
- 2 ◀▶ボタンを押して、放送局名を変更したい放送局を選局します
- 3 SHIFTボタンを2秒以上押して、放送局名設定モードにします

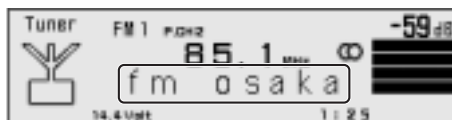
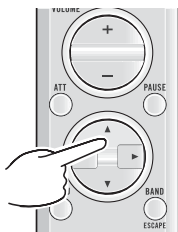


- 4 ◀▶ボタンを押して、放送局名を選びます



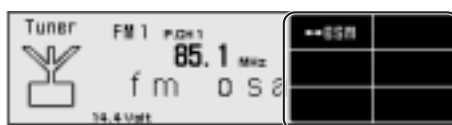


5 ▲ボタンを押して、決定します



6 RETURNボタンを押します

ファンクションボタンの機能表示画面に戻ります。



ファンクションボタンの機能表示

選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていないと、“NO DATA”が表示されます。

放送局名を表示させたくないときは、空白を選んでください。

パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。

パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数にあわせると、放送局名を“FM-TVsound”に変更して表示することができます。



# マルチCDの操作

マルチCDを組み合わせたときに

本機に、別売のマルチCDを組み合わせたときの操作を行います。

## 内 容

マルチCDを操作する .....	54
マルチCD再生のON/OFF .....	54
ディスクを選ぶ (ディスクナンバーサーチ) .....	55
選局する (トラックサーチ)、 早送り/早戻しをする .....	57
再生モードを選ぶ .....	58
ランダム再生 .....	59
スキャン再生 .....	60
ポーズ .....	61
ディスプレイ表示を切り換える .....	61
ディスクタイトル入力 .....	62
「CD TEXT」のタイトルや歌手名を 表示させる .....	63

## マルチCDを操作する

マルチCD (「CDX- P1270 (別売)」など) を接続したときは、本機でマルチCDをコントロールすることができます。

### マルチCD再生のON/OFF

- 1 マルチCDにマガジンがセットされていることを確認します  
[マルチCDプレーヤーの取扱説明書参照]
- 2 CDボタンまたはSOURCEボタンを押して、ソースをマルチCDに切り換えます  
[26, 27ページ参照]

タイトル画面の後、マルチCD動作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。

マルチCD動作画面 (クローズ状態)



モード表示

マルチCD動作画面 (オープン状態)



ファンクションボタンの機能表示



#### マルチCDが準備動作を行っているときは

マルチCDが準備動作 (ディスクの有無の確認やディスク情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると、“READY” が表示されます。

#### マルチCD再生中にマガジンを取り出したときは

システムの電源はOFFにならずに、ディスプレイに“NO MAGAZINE”が表示されます。バッテリーあがりを防ぐため、CD再生をしないときはシステムの電源をOFFにしてください。(再びマガジンをセットすると、CD再生を始めます。)

#### 光デジタルラインでマルチCDを接続しているときは

本機とマルチCDを、光デジタルラインで接続しているときは、画面上に“DIGITAL”が表示されます。

#### 「RS-M1x」を接続しているときは

本機に、2台以上の「RS-M1x」は接続できません。(「RS-M1x」の取扱説明書に2台以上の接続方法が記載されていますが、本機に接続できるのは1台だけです。)

同様に、「RS-M1x」と他のマルチCD (「CDX-P1270」など) を同時に接続することもできません。

## ディスクを選ぶ (ディスクナンバーサーチ)

ディスクナンバーサーチには、次の2つの方法があります。

### 順送り/逆送り

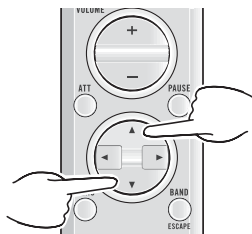
ディスク番号の順送り/逆送りで、ディスクを選びます。

### ディスク番号を直接指定する

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。聞きたいディスクを直接呼び出します。

### 順送り/逆送りで選ぶ

▲/▼ボタンを押すと、ディスクが順送り/逆送りされます



ディスク番号                      トラック番号  
再生経過時間

「RS-D7x」本体の▲/▼ボタンでも、同様の操作をすることができます。

## ディスク番号を直接指定する

- 1 SHIFTボタンを押して、ディスク番号表示にします



ディスク番号表示

- 2 SHIFTボタンを押して、ディスク番号を切り換えます  
SHIFTボタンを押すごとに1～6枚目 → 7～12枚目 → ファンクションボタンの機能表示へ切り換わります
- 3 ファンクションボタン/1～6で、ディスクを選びます



呼び出したディスク番号が表示されます。

- 4 RETURNボタンを押して、ディスク番号表示を解除します  
ファンクションボタンの機能表示に戻ります。



ファンクションボタンの機能表示



ディスクを入れていないディスク番号は選択  
できません

## 選曲する (トラックサーチ), 早送り/早戻しをする

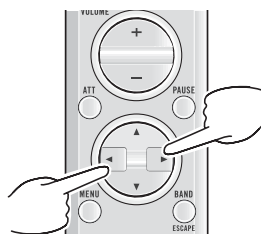
選曲 : ◀/▶ ボタンを0.5秒未満押す

早送り/早戻し : ◀/▶ ボタンを0.5秒以上押す

◀/▶ ボタンを押して, 操作します

▶ : 次の曲を選ぶ (または早送りする) とき

◀ : 前の曲を選ぶ (または早戻しする) とき



再生経過時間  
トラック番号

「RS-D7x」本体の◀/▶ボタンでも, 同様の操作をすることができます.

## 再生モードを選ぶ

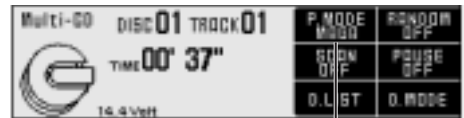
今聞いている曲を繰り返し聞いたり，1枚のCDを繰り返し聞くなど，繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲 (繰り返し聞く範囲) は次の中から選ぶことができます。

再生範囲	再生内容
マルチCDリピート (MAGA)	マルチCDにセットされているすべてのCDを通して再生します。 (通常はこのモードにしておきます。)
ディスクリピート (DISC)	再生中のCDを繰り返し再生します。
トラックリピート (REPEAT)	再生中の曲を繰り返し再生します。

ファンクションボタン/1を押すごとに，次の順でモードが切り換わります



クローズ状態では，それぞれのモードが表示されます。

マルチCDリピート (MAGA)    ディスクリピート (DISC)  
 トラックリピート (REPEAT)    マルチCDリピート (MAGA) に戻る



## ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 再生範囲を切り換えます

[58ページ参照]

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ファンクションボタン/2を押して、ランダム再生を始めます

解除するときは、もう一度ボタンを押します。



クローズ状態では、それぞれのモードが表示されます。

## スキャン再生

今聞いているCDの、曲の初めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのCDの、1曲目の初めの部分だけを次々に聞くこともできます。

### 1 再生範囲を切り換えます

[58ページ参照]

行いたいスキャン再生に合わせて、再生範囲を選択してください。

聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

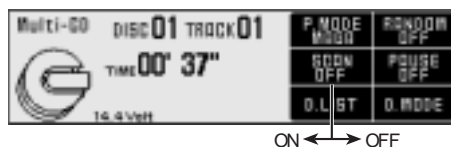
再生範囲をディスクリピートまたはトラックリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生できます。

聞きたいCDをさがすとき (ディスクスキャン再生)

再生範囲をマルチCDリピートに切り換えます。マルチCD内のすべてのCDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生できます。

### 2 ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を始めます

曲の始めから約10秒間が次々に再生されます。



クローズ状態では、それぞれのモードが表示されます。

### 3 聞きたい曲 (ディスク) が再生されたら、もう一度ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を解除します

このとき再生している曲 (ディスク) を継続して再生します。

スキャン再生を始めた曲 (またはCD) まで戻ると、スキャン再生は自動的に解除されます。

トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わります。

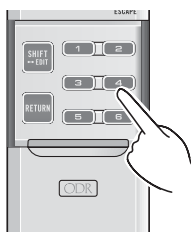
## ポーズ

### リモートコントローラーオープン状態での操作

CDの再生を一時停止することができます。

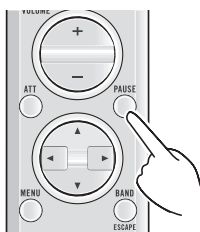
ファンクションボタン/4を押すごとに、ON/OFFが切り換わります

ポーズ中でも、早送り/早戻し以外の機能は操作することができます。



### リモートコントローラークローズ状態での操作

PAUSEボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります



## ディスプレイ表示を切り換える

ディスプレイの表示を、通常画面とシンプル画面の間で切り換えることができます。

ファンクションボタン/6を押して、画面を切り換えます

シンプル画面



## ディスクタイトル入力

タイトル入力は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。CDにタイトルをつけると、ディスクリスト [64ページ参照] で聞きたいICDを探すこともできます。「CD TEXT」に対応しているマルチCD（「CDX-P1270（別売）」など）では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルで同様にディスクリストをすることができます。

タイトル20文字まで記憶できます。（マルチCDによっては最大10文字までしか入力できない場合があります。詳しくは販売店にご相談ください。）

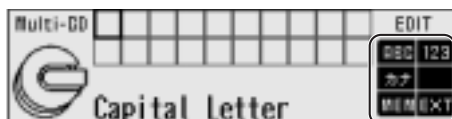
タイトルは、本体のタイトル入力機能と合わせて、最大100枚分の記憶ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

### タイトルを入力する（編集モードに切り換える）

タイトルの入力は、編集モードで行います。

- 1 タイトルを入力したいディスクを再生します
- 2 SHIFTボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換えます  
文字入力画面に切り換わり、ディスクタイトルを入力することができます。



ファンクションボタンの機能表示

- 3 タイトルを入力して、記憶させます  
22ページを参照して、入力を行ってください。
- 4 記憶させたディスクタイトルが、ディスプレイ上に表示されます



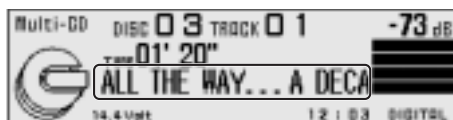
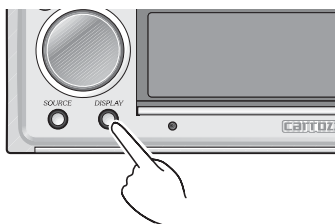
記憶させたタイトルが表示されます。

## 「CD TEXT」のタイトルや歌手名を表示させる

「CD TEXT」に対応しているマルチCD（「CDX-P1270（別売）」など）に「CD TEXT」をセットしたとき、トラックタイトルや歌手名などを表示させることができます。一度に20文字まで表示することができます。また、隠れている文字を順に表示させることもできます。

### 表示を切り換える

本体のDISPLAYボタンを押すごとに、以下のように切り換わります

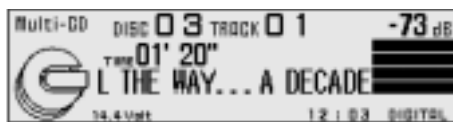
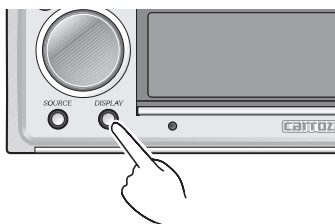


「CD TEXT」の文字情報が表示されます。

ディスクタイトル(ディスク名) ディスクアーティストネーム(歌手名)  
トラックタイトル(曲名) トラックアーティストネーム(歌手名)  
ディスクタイトルに戻る

### 隠れているタイトルを表示する

本体のDISPLAYボタンを2秒以上押します



隠れている文字が順番に表示されます。

## ディスクタイトルをリスト表示する

CDのタイトル (ディスクリスト) を見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

ファンクションボタン/5を押して、ディスクリストを表示させます  
ディスクリスト画面に切り換わり、ディスクタイトルが表示されます。

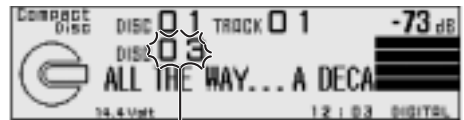
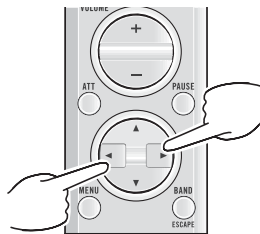
タイトルを入力していないCDは、何も表示しません。



現在演奏中のディスク番号が点滅します。

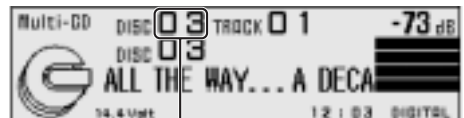
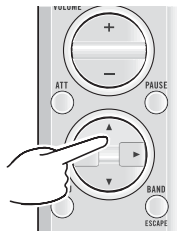
## ディスクリスト表示から再生するディスクを選ぶ

- 1 ◀▶ ボタンを押して、再生したいディスクを選びます



選択しているディスク番号が点滅します。

- 2 ▲ ボタンを押して、決定します



ディスクが切り替わり、再生が始まります。

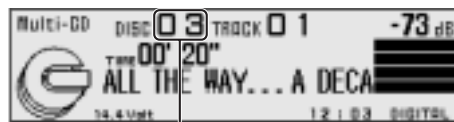


ディスクリスト表示のときは

SHIFTボタン、ファンクションボタンは使用できません。

## マルチCD動作画面に戻る

RETURNボタンを押すと、マルチCD動作画面に戻ります



再生中のディスク番号が表示されます。





# DVDプレーヤーの操作

## DVDプレーヤーを組み合わせたときに

本機に、別売のDVDプレーヤーを組み合わせたときの操作を行います。

### 内 容

DVDプレーヤーを	
ご使用になる前に .....	68
DVDプレーヤーを接続した場合 .....	68
DVDプレーヤーの設定 .....	68
ディスクメニュー画面について .....	68
DVDプレーヤーを操作する .....	69
DVD再生のON/OFF .....	69
ディスクを選ぶ(ディスクナンバーサーチ) .....	70
チャプター(トラック)を選ぶ、	
早送り/早戻しをする .....	72
再生モードを選ぶ .....	73
ランダム再生 .....	74
スキャン再生 .....	75
ポーズ .....	76
ディスプレイ表示を切り換える .....	76
ディスクタイトル入力について .....	77

## DVDプレーヤーをご使用になる前に

### DVDプレーヤーを接続した場合

本機に、光ケーブルとIP-BUSケーブルでDVDプレーヤー（例：「XDV-P9（別売）」）を接続し、IP-BUSケーブルでマルチCD（例：「CDX-P1270（別売）」）を接続した場合、マルチCD再生中に、DVDプレーヤーの本体またはDVDプレーヤーのリモコンでDVDの再生をONにすると、音声はDVDに切り換わります。

### DVDプレーヤーの設定

本機に、別売のパイオニア製DVDプレーヤーを組み合わせたときは、DVDプレーヤーの出力設定を変更する必要があります。下の表を参考にして、DVDプレーヤーを正しく設定してください。

	出力設定とダウンサンプル周波数
マルチDVD（例：XDV-P9） を接続したとき	出力設定 : LPCM ダウンサンプル周波数 : 48 kHz
1枚型DVD（例：SDV-P7） を接続したとき	出力設定 : LPCM ダウンサンプル周波数 : 48 kHzまたは 96 kHz

DVDプレーヤーの出力設定を正しく行わないと、DVDの音声を聞くことはできません。

96 kHzで収録されているディスクでは、DVDプレーヤーのダウンサンプル周波数を「96 kHz」に設定すると、デジタル出力から音声がなくなることがあります。この場合は、ダウンサンプル周波数を「48 kHz」に切り換えてご使用ください。[DVDプレーヤーの取扱説明書参照]

### ディスクメニュー画面について

DVDを再生しているときに、ディスクメニュー画面になっている場合は、本機のリモートコントローラーでは操作できません。DVDプレーヤー本体か、DVDプレーヤーのリモコンで操作してください。

ディスクメニュー画面



## DVDプレーヤーを操作する

DVDプレーヤー (例:「XDV- P9 (別売)」など) を接続したときは、本機でDVDプレーヤーをコントロールすることができます。

### DVD再生のON/OFF

- 1 DVDプレーヤーにマガジン (ディスク) がセットされていることを確認します

[DVDプレーヤーの取扱説明書参照]

- 2 CDボタンまたはSOURCEボタンを押して、ソースをDVDに切り換えます

[26, 27ページ参照]

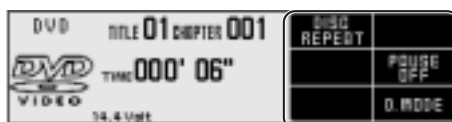
タイトル画面の後、DVD動作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。

DVD 動作画面 (クローズ状態)



モード表示

DVD 動作画面 (オープン状態)



ファンクションボタンの機能表示



DVDプレーヤーが準備動作を行っているときは

DVDプレーヤーが準備動作 (ディスクの有無の確認やディスク情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをDVDに切り換えると、“READY”が表示されます。

マルチDVD再生中にドアを開けたときは

システムの電源はOFFにならずに、ディスプレイに“DOOR OPEN”が表示されます。バッテリーあがりを防ぐため、DVD再生をしないときはシステムの電源をOFFにしてください。(再びドアを閉めると、DVD再生を始めます。)

マルチDVD再生中にマガジンを取り出したときは

システムの電源はOFFにならずに、ディスプレイに“NO MAGAZINE”が表示されます。バッテリーあがりを防ぐため、DVD再生をしないときはシステムの電源をOFFにしてください。(再びマガジンをセットすると、DVD再生を始めます。)

1枚型DVD再生中にディスクを取り出したときは

システムの電源はOFFにならずに、ディスプレイに“NO MAGAZINE”が表示されます。バッテリーあがりを防ぐため、DVD再生をしないときはシステムの電源をOFFにしてください。(再びディスクをセットすると、DVD再生を始めます。)

光デジタルラインでDVDプレーヤーを接続しているときは

本機とDVDプレーヤーを、光デジタルラインで接続しているときは、画面上に“DIGITAL”が表示されます。

## ディスクを選ぶ (ディスクナンバーサーチ)

本機にマルチDVDを接続したときは、ディスクナンバーサーチで、ディスクを選ぶことができます。ディスクナンバーサーチには、次の2つの方法があります。

### 順送り/逆送り

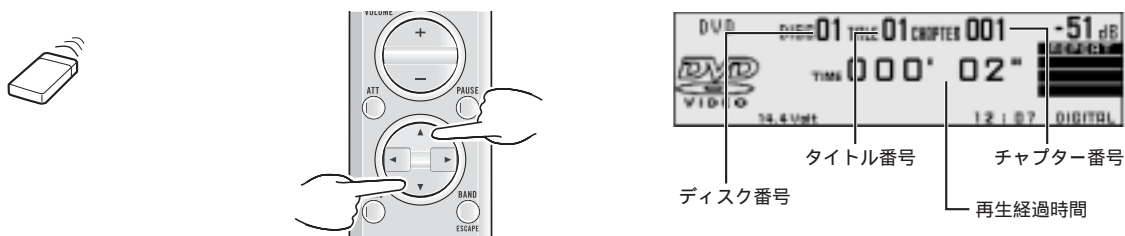
ディスク番号の順送り/逆送りで、ディスクを選びます。

### ディスク番号を直接指定する

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。再生したいディスクを直接呼び出します。

### 順送り/逆送りで選ぶ

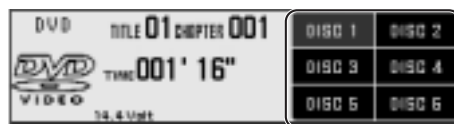
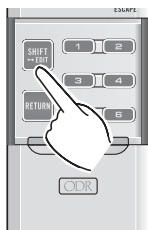
▲/▼ボタンを押すと、ディスクが順送り/逆送りされます



「RS-D7x」本体の▲/▼ボタンでも、同様の操作をすることができます。

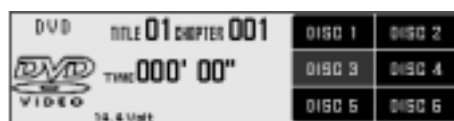
## ディスク番号を直接指定する

- 1 SHIFTボタンを押して、ディスク番号表示にします

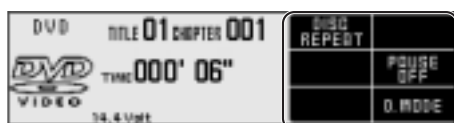


ディスク番号表示

- 2 ファンクションボタン/1～6で、ディスクを選びます



- 3 RETURNボタンを押して、ディスク番号表示を解除します  
ファンクションボタンの機能表示に戻ります。



ファンクションボタンの機能表示



ディスクを入れていないディスク番号は選択  
できません

## チャプター (トラック) を選ぶ, 早送り/早戻しをする

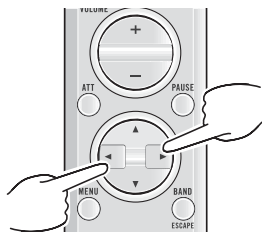
チャプター (トラック) 選択 : ◀/▶ ボタンを0.5秒未満押す

早送り/早戻し : ◀/▶ ボタンを0.5秒以上押す

◀/▶ ボタンを押して, 操作します

▶ : 次のチャプター (トラック) を選ぶ (または早送りする) とき

◀ : 前のチャプター (トラック) を選ぶ (または早戻しする) とき



再生経過時間  
チャプター番号

「RS-D7x」本体の◀/▶ボタンでも, 同様の操作をすることができます。

「チャプター」, 「タイトル」, および「トラック」の詳細については, 組み合わせたDVDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

## 再生モードを選ぶ

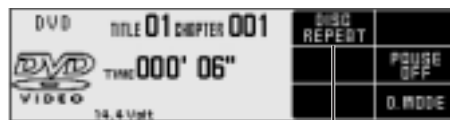
今再生しているチャプターを繰り返し再生したり，1枚のディスクを繰り返し再生するなど，繰り返し再生する範囲を選ぶことができます．

再生範囲について

再生範囲 (繰り返し再生する範囲) は次の中から選ぶことができます．

再生範囲	再生内容
ディスクリピート (DISC)	再生中のディスクを繰り返し再生します．
チャプターリピート (CHAPTER)	再生中のチャプターを繰り返し再生します． (マルチDVDプレーヤーでDVDを再生しているときの機能です)
タイトルリピート (TITLE)	再生中のタイトルを繰り返し再生します． (マルチDVDプレーヤーでDVDを再生しているときの機能です)
トラックリピート (REPEAT)	再生中のトラックを繰り返し再生します． (マルチDVDプレーヤーでCDを再生しているときの機能です)

ファンクションボタン/1を押すごとに，次の順でモードが切り換わります



以下の順で切り換わります．

クローズ状態では，それぞれのモードが表示されます．

### DVDを再生しているとき

ディスクリピート (DISC)    チャプターリピート (CHAPTER)  
 タイトルリピート (TITLE)    ディスクリピート (DISC) に戻る

### CDを再生しているとき

ディスクリピート (DISC)    トラックリピート (REPEAT)  
 ディスクリピート (DISC) に戻る

## ランダム再生

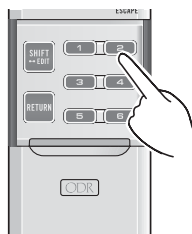
### DVDプレーヤーでCDを再生しているときの機能です

選曲をDVDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

ファンクションボタン/2を押して、ランダム再生を始めます

解除するときは、もう一度ボタンを押します。

再生範囲が、トラックリピート (REPEAT) になっている場合は、自動的にディスクリピート (DISC) になります。



クローズ状態では、ランダム再生中は "RANDOM" が表示されます。

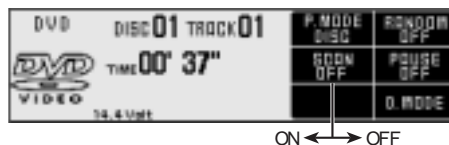


## スキャン再生

### DVDプレーヤーでCDを再生しているときの機能です

今聞いているCDの、曲の初めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。

- 1 ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を始めます  
曲の始めから約10秒間が次々に再生されます。



クローズ状態では、スキャン再生中は "SCAN" が表示されます。

- 2 聞きたい曲が再生されたら、もう一度ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を解除します

このとき再生している曲を継続して再生します。

スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は自動的に解除されます。

トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わります。

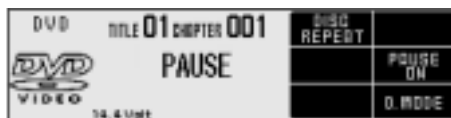
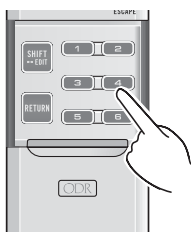
## ポーズ

## リモートコントローラーオープン状態での操作

DVD/CDの再生を一時停止することができます。

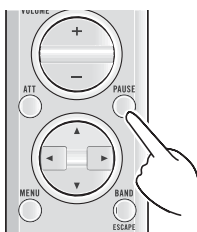
ファンクションボタン/4を押すごとに、ON/OFFが切り換わります

ポーズ中でも、早送り/早戻し以外の機能は操作することができます。



## リモートコントローラークローズ状態での操作

PAUSEボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります



## ディスプレイ表示を切り換える

ディスプレイの表示を、通常画面とシンプル画面の間で切り換えることができます。

ファンクションボタン/6を押して、画面を切り換えます

シンプル画面



## ディスクタイトル入力について

### DVDプレーヤーでCDを再生しているときの機能です

組み合わせたDVDプレーヤーによっては、この機能は操作できません。

タイトル入力は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。

DVDディスクにはタイトル入力することはできません。

タイトルは10文字まで記憶できます。

タイトルは、本体のタイトル入力機能と合わせて、最大100枚分の記憶ができます。

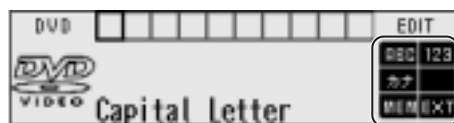
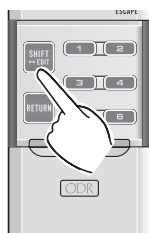
100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

DVDプレーヤーでは、「CD TEXT」にタイトルを入力することができますが、そのディスクを内蔵CDで再生した場合、入力したタイトルは表示されません。（「CD TEXT」のタイトルや歌手名などが表示されます。）

### タイトルを入力する（編集モードに切り換える）

タイトルの入力は、編集モードで行います。

- 1 タイトルを入力したいディスクを再生します
- 2 SHIFTボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換えます  
文字入力画面に切り換わり、ディスクタイトルを入力することができます。



ファンクションボタンの機能表示

- 3 タイトルを入力して、記憶させます  
22ページを参照して、入力を行ってください。
- 4 記憶させたディスクタイトルが、ディスプレイ上に表示されます



記憶させたタイトルが表示されます。



# テレビの操作

## テレビチューナーを組み合わせたときに

本機に、別売のテレビチューナーを組み合わせたときの操作を行います。

### 内 容

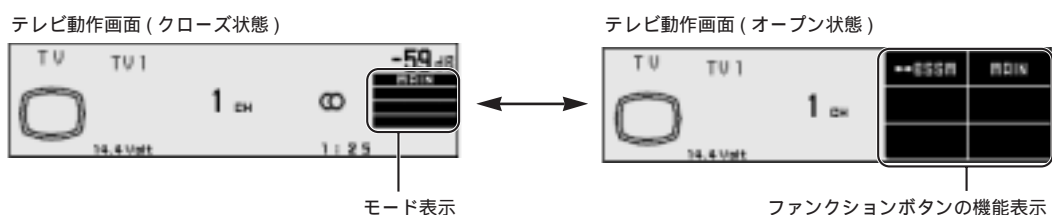
テレビを操作する .....	80
テレビのON/OFF .....	80
バンドを選ぶ .....	80
チャンネルを選ぶ .....	81
チャンネルを記憶させる .....	82
記憶させたチャンネルを呼び出す (プリセットチューニング) .....	84
音声を切り換える .....	86

## テレビを操作する

### テレビのON/OFF

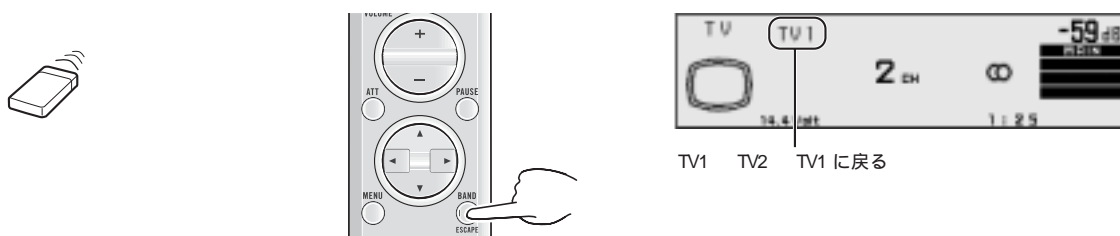
TUNERボタンまたはSOURCEボタンを押して、ソースをテレビに切り換えます  
[26, 27ページ参照]

タイトル画面の後、テレビ動作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。



### バンドを選ぶ

BANDボタンを押すごとに、次の順で切り換わります



「RS-D7x」本体のBANDボタンでも、同様の操作をすることができます。



#### ステレオ放送の受信について

ステレオ放送を受信したときは、ディスプレイにステレオ表示「」が点灯します。

#### 各バンドについて

バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。

## チャンネルを選ぶ

チャンネルを選ぶには、次の2つの方法があります。

自動選局：◀/▶ ボタンを0.5秒以上押す

電波の強さが、ある一定レベル以上のチャンネルを自動的に選局します。

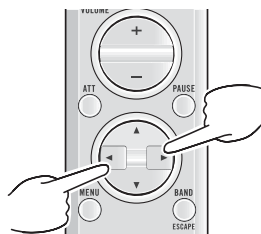
手動選局：◀/▶ ボタンを0.5秒未満押す

手動で周波数を合わせて選局します。電波が弱く、自動選局では飛ばしてしまうチャンネルを受信したいときにご使用ください。

◀/▶ ボタンを押して、選びます

▶：次のチャンネルを選ぶとき

◀：前のチャンネルを選ぶとき



チャンネル表示

「RS-D7x」本体の◀/▶ ボタンでも、同様の操作をすることができます。

0.5秒以上押し続けている間、途中のチャンネルを飛ばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。

電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

## チャンネルを記憶させる

各バンドに6局ずつ、チャンネルをファンクションボタン/1～6に記憶させておくことができます。

チャンネルを記憶させるには、次の2つの方法があります。

### 受信中の1局を記憶させる (プリセットメモリー)

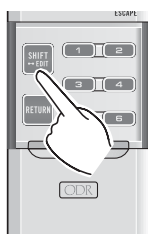
ファンクションボタン/1～6に、お好みのチャンネルを1局ずつ手動で記憶させます。

### 自動的に6局を記憶させる (BSSM：ベスト ステーションズ シーケンシャル メモリー)

受信状態の良いチャンネルをさがして、自動的にチャンネルの小さい順にファンクションボタン/1～6に記憶させます。

### 受信中の1局を記憶させる (プリセットメモリー)

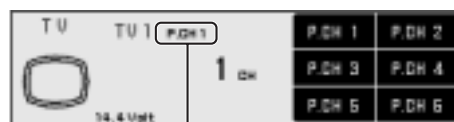
- 1 バンドを選びます
- 2 記憶させたいチャンネルを選局します  
◀▶ボタンを押して、記憶させたいチャンネルを受信してください。
- 3 SHIFTボタンを押して、プリセット番号表示にします



プリセット番号表示

- 4 ファンクションボタン/1～6の1つを2秒以上押し続け、記憶させます

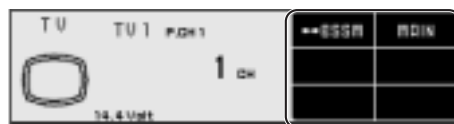
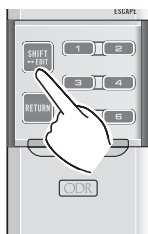
チャンネルがすでに記憶されている場合は、前の記憶が消去されて、新しいチャンネルが記憶されます。



記憶させたプリセット番号が表示されます。



- 5 もう一度，SHIFTボタンを押して，プリセット番号表示を解除します  
ファンクションボタンの機能表示に戻ります。



ファンクションボタンの機能表示

## 自動的に6局を記憶させる (BSSM：ベストステーションズシーケンシャルメモリー)

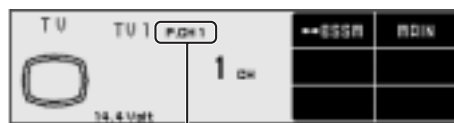
- 1 バンドを選びます
- 2 ファンクションボタン/1を2秒以上押し続け，BSSMを始めます  
受信状態の良いチャンネルを自動的に受信して，ファンクションボタン/1～6に記憶します。BSSM動作中にもう一度押すと，解除されます。



記憶終了まで点滅します。

このとき，リモートコントローラーのカバーを閉じても，BSSMは継続されます。

- 3 記憶が終わると，点滅が止まり，ファンクションボタン/1に記憶したチャンネルを受信します



受信中の記憶番号



### BSSM機能について

受信状態の良いチャンネルが6局より少ないときは，前の記憶が残ることがあります。

受信状態の良いチャンネルが少ない地域では，BSSMが終了するまでに30秒近くかかることがあります。

記憶させたチャンネルを呼び出すには，次ページのプリセットチューニングを参照してください。

## 記憶させたチャンネルを呼び出す (プリセットチューニング)

記憶させたチャンネルを呼び出すには、次の2つの方法があります。

### 順送り/逆送り

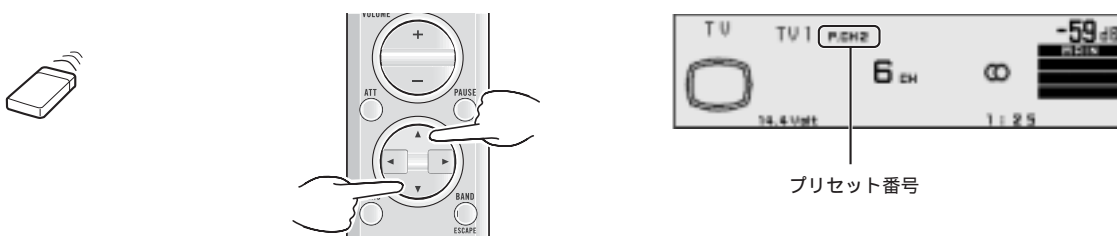
プリセット番号の順送り/逆送りで、記憶させたチャンネルを呼び出します。

### プリセット番号を直接指定する

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。聞きたいチャンネルが記憶されているプリセット番号を直接呼び出します。

### 順送り/逆送りで選ぶ

▲/▼ボタンを押すと、プリセット番号が順送り/逆送りされます

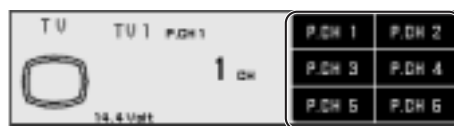
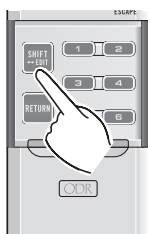


「RS-D7x」本体の▲/▼ボタンでも、同様の操作をすることができます。

## プリセット番号を直接指定する

### 1 SHIFTボタンを押して、プリセット番号表示にします

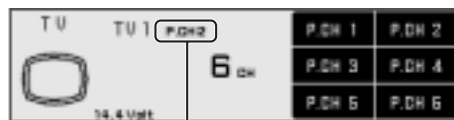
ボタンを押すごとに、ファンクションボタンの機能表示とプリセット番号表示が切り換わります。



プリセット番号表示

### 2 ファンクションボタン/1～6で、プリセット番号を選びます

聞きたいチャンネルが記憶されているプリセット番号を呼び出してください。



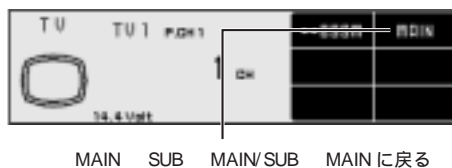
呼び出したプリセット番号が表示されます。

## 音声を切り換える

2カ国語放送 (音声多重放送) を受信しているときは、音声を切り換えることができます。

ファンクションボタン/2を押して、音声を切り換えます

ボタンを押すごとに、MAIN (主音声) とSUB (副音声) が切り換わります。



### 音声多重放送について

洋画やニュースの2カ国語放送のように、2種類の音声を持った放送のことを音声多重放送といいます。

2カ国語放送の場合は、一般的に主音声を日本語、副音声を外国語 (例えば英語) で放送します。(逆の場合もあります。)

# オーディオ調整

ここでは、オーディオユニットのDSP機能による、様々な音質コントロールのしかたを説明しています。車に合った音場空間を創造し、その内容を記憶させて、オリジナルの車内音場を楽しんでみましょう。

	内 容
オーディオメニューについて ..... 88	ネットワークメニュー
ODRシステムのオーディオメニュー ..... 88	< Network > ..... 115
オーディオメニューの切り換え ..... 89	マルチアンプシステムとは? ..... 115
オーディオメニューを解除する (各ソースの動作画面に戻る) ..... 89	ネットワークメニューに切り換える ..... 116
メインメニュー < Main > ..... 90	タイムアライメント調整 ..... 117
メインメニューに切り換える ..... 90	フィルター調整 ..... 122
フェーダー/バランス調整 ..... 91	調整したオーディオメニューの
パラメトリック バス/トレブル調整 ..... 92	メモリー機能 ..... 128
サブウーファー/センタースピーカーの調整 ..... 94	メモリーモードに切り換える ..... 129
リスニングポジションの調整 ..... 97	調整内容の記憶 ..... 130
ソースレベルアジャスター ..... 102	メモリーの呼び出し ..... 131
CDノイズゲート ..... 104	メモリーのプロテクト機能 ..... 133
イコライザーメニュー	メモリーのクリアー操作 ..... 134
< Equalizer > ..... 105	オーディオ設定者の
イコライザーメニューに切り換える ..... 106	表示機能について ..... 135
周波数特性と音質の関係 ..... 107	文字を入力する(編集モードに切り換える) ..... 135
31/16バンド	
グラフィックイコライザーの調整 ..... 108	
3バンド パラメトリックイコライザーの調整 ... 111	
フラット機能 ..... 114	

## オーディオメニューについて

車内空間には、ホームオーディオの空間とは異なる様々な制限があり、車内の音響特性に次のような影響を与えています。

車内空間の広さとその複雑な形状により、直接音に反射音が強く影響し、周波数特性が乱れ、音質が大きく劣化します。

スピーカーの設置位置が、乗車位置に対して左右非対称になったり、スピーカーが前後に分散して設置されたりするため、音像の定位が不自然になります。

このような音響的な制限を持つ車内空間において、理想的な音質や音場空間を創造するために、ODRシステムでは、DSPを応用した多彩な機能を搭載しています。

### ODRシステムのオーディオメニュー

本システムには、次の3つのオーディオメニューがあります。

メイン < Main > [90ページ]

フェーダー/バランス調整や音質調整の基本であるバス/トレブルのトーンコントロールを行います。また、乗車位置に合わせて音像定位を補正する、ポジションセレクターの設定や調整を行います。

イコライザー < Equalizer > [105ページ]

車内空間の複雑な周波数の乱れを補正します。

アドレス1に設定した製品の持つイコライザー機能で、周波数ごとに音質をきめ細かく調整することができます。

ネットワーク < Network > [115ページ]

マルチアンプシステムにした場合に、各音域(バンド)の周波数帯域(クロスオーバー周波数)やレベルを調整します。また、各音域のスピーカーごとに遅延時間(時間差)を設定することで、スピーカーの位置関係による音像定位の不自然さを補正します(タイムアライメント機能)。



#### 本システムのオーディオメニューについて

本機は、組み合わせたオーディオユニットによって、使用できる機能が異なります。

オーディオメニューは、本体のボタンでは操作できません。

#### NACメニューについて

本機は、NACの調整はできません。

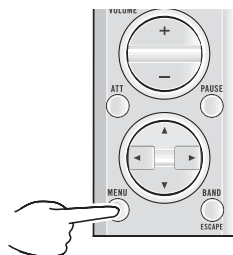
本機に「RS-P50x」を接続するときは、NACをOFFにして接続してください。また、本機に「RS-P1x」またはNACモードに設定した「RS-P50x」を接続すると、ディスプレイに注意文が表示され、NACの調整ができないことを知らせます。



## オーディオメニューの切り換え

システムの電源がONのときに、次の操作でオーディオメニューを切り換えることができます。

MENU ボタンを押すごとに、次の順でオーディオメニューが切り換わります



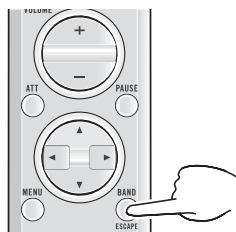
Main (メインメニュー) Equalizer (イコライザーメニュー)

Network (ネットワークメニュー) Main (メインメニュー) に戻る

## オーディオメニューを解除する (各ソースの動作画面に戻る)

BAND ボタンを押すと、オーディオメニューが解除されます

オーディオメニューを解除すると、お聞きのソースの動作画面に戻ります。



例：内蔵 CD 動作画面



こんなときそのメニューには切り換わりません

「RS-A1x(II)」 「RS-A2x(II)」のみのシステムを、ネットワークTHRU (スルー) モードで使用しているときは、ネットワークメニューには切り換わりません。

オーディオユニットの各モードの設定については、別冊の取付説明書およびオーディオユニットの説明書をご覧ください。

オーディオメニューを解除する他の方法

各ソースに切り換えると、オーディオメニューが解除されます。

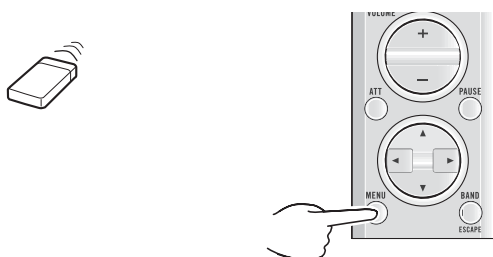
## メインメニュー < Main >

### メインメニューに切り換える

MENUボタンを押して、メインメニューに切り換えます

[89ページ参照]

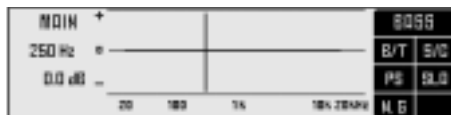
タイトル画面の後、メインメニューの操作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。



クローズ状態  
フェーダー/バランス調整画面



オープン状態  
バス/トレブル調整画面



### メインメニューでの操作

メインメニューでは、次の調整を行うことができます。

クローズ状態で行います

フェーダー/バランス調整 [91ページ]

オープン状態で行います

パラメトリック バス/トレブル調整 [92ページ]

サブウーファー/センタースピーカーの調整 [94ページ]

リスニングポジションの調整 [97ページ]

ソースレベルアジャスター [102ページ]

CDノイズゲート [104ページ]



メインメニューを解除するには

BANDボタンを押すと、メインメニューが解除されます。 [89ページ参照]

本機に「RS-P70x」を接続した場合

本機に「RS-P70x」を接続した場合は、「フェーダー調整」、「センタースピーカーの調整」および「CDノイズゲート」の機能は使えません。



## フェーダー/バランス調整

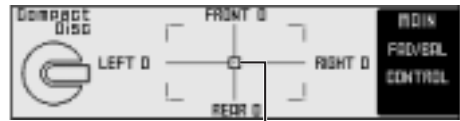
前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

- 1 リモートコントローラーのカバーを閉じます

フェーダー/バランス調整画面に切り換わります。



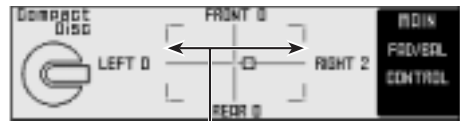
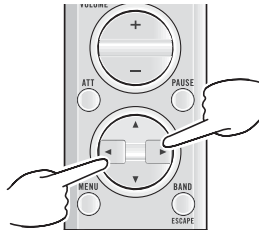
フェーダー/ バランス調整画面



現在のフェーダー/ バランスポジション

- 2 ◀▶ ボタンを押して、バランスを調整します

押し続けると連続して送られます (センターポジションで一度止まります)。

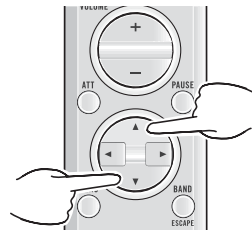


LEFT 9 ~ RIGHT 9

- 3 ▲/▼ ボタンを押して、フェーダーを調整します

本機に「RS-P70x」を接続したときは、フェーダーの調整はできません。

押し続けると連続して送られます (センターポジションで一度止まります)。



FRONT 9 ~ REAR 9

## パラメトリック バス/トレブル調整 < B/T >

パラメトリック バス/トレブルでは、バス (低音) /トレブル (高音) のレベル調整のポイントとなる周波数を、お好みに合わせてそれぞれ4つの周波数の中から選択することができます。選択できる周波数と、レベル調整幅は次の通りです。

バ ス : 63 Hz , 100 Hz , 160 Hz , 250 Hz

トレブル : 4 kHz , 6.3 kHz , 10 kHz , 16 kHz

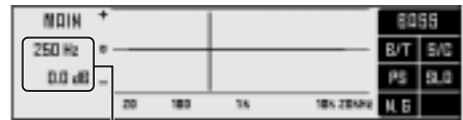
レベル調整幅 : - 12 dB ~ + 12 dB ( 1 dB/1ステップ)

### 1 ファンクションボタン/1を押します

バス/トレブル調整画面に切り換わります。



バス/トレブル調整画面



現在の設定が表示されます。

### 2 もう一度、ファンクションボタン/1を押して、バスまたはトレブルを選びます

ボタンを押すごとに、バス/トレブルが切り換わります。

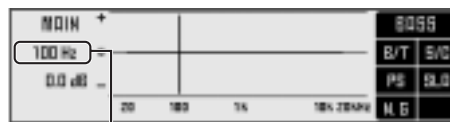
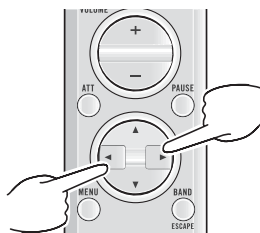


バス/トレブル調整画面



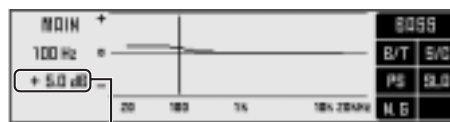
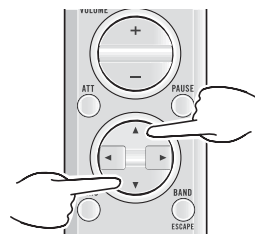
BASS ← → TREB  
バス ← → トレブル

- 3 ◀▶ ボタンを押して、周波数ポイントを選びます  
調節したい周波数ポイントに合わせてください。



バス : 63 Hz, 100 Hz, 160 Hz, 250 Hz  
トレブル : 4 kHz, 6.3 kHz, 10 kHz, 16 kHz

- 4 ▲/▼ ボタンを押して、レベルを調整します  
押し続けると連続して送られます。



- 12.0 dB ~ + 12.0 dB  
最小 最大



#### バス/トレブル調整の上手な使いかた

バス/トレブルのレベルを高くすると、歪が発生することがあります。バス/トレブル調整は、全体的な音質調整としてご使用ください。

## サブウーファー/センタースピーカーの調整 < S/C >

サブウーファーやセンタースピーカーを接続したときは、それぞれのスピーカーが再生する周波数帯域と、再生レベルを調整することができます。接続したスピーカーの特性や能力に合わせて、調整を行ってください。

サブウーファーやセンタースピーカーのないシステムの場合は、それぞれの調整モードには切り換わりません。(RS-P1xJのセンタースピーカー出力端子のように、オーディオユニットに出力端子がある場合は、スピーカーを接続していなくても調整モードに切り換わります。)

### サブウーファーの簡易調整

本機に「RS-P70x」を接続した場合は、「RS-P70x」が左チャンネル/右チャンネル共通モードのときに操作できます。

サブウーファーのローパスフィルター (L.P.F.) の遮断周波数と、再生レベルを調整します。

L.P.F. の遮断周波数：25 Hz～250 Hz (1/3オクターブ間隔、計11ステップ)

設定した周波数から上の音域 (高域) を遮断して、低域を再生します。

レベル調整幅：-24.0 dB～+10.0 dB (0.5 dB/1ステップ)

サブウーファーの簡易調整では、ハイパスフィルター (H.P.F.) の周波数は固定されています。現在の H.P.F. の周波数以下に、L.P.F. の周波数を調整することはできません。(H.P.F. の周波数はネットワークメニュー [122ページ] で調整することができます。)

### センタースピーカーの調整

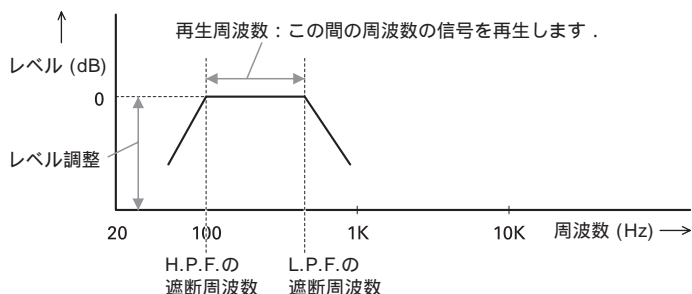
センタースピーカーのハイパスフィルター (H.P.F.) の遮断周波数と、再生レベルを調整します。

H.P.F. の遮断周波数：100 Hz～10 kHz (1/3オクターブ間隔、計21ステップ)

設定した周波数から下の音域 (低域) を遮断して、中高域を再生します。

レベル調整幅：- , -24.0 dB～0 dB (0.5 dB/1ステップ)

センタースピーカーの調整では、H.P.F. とL.P.F. の周波数間の幅は変化しません。H.P.F. の周波数の調整を行うと、自動的にL.P.F. の周波数も変化します。



H.P.F. の周波数を3.15 kHzより高い周波数に設定すると、L.P.F. は自動的にPAS (パス) に設定され、L.P.F. の効果がなくなります。[L.P.F. の周波数：630 Hz～PAS (パス) (1/3オクターブ間隔、計16ステップ)]

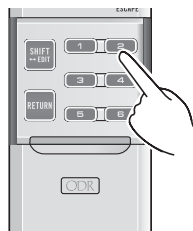


#### サブウーファーはさらに細かく調整できます

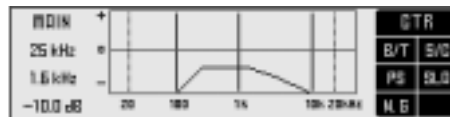
ネットワークメニューでは、サブウーファーの再生レベルやL.P.F. の周波数だけでなく、H.P.F. の調整や位相の切り換えなど、さらに細かく調整を行うことができます。[122ページ参照]

## 調整のしかた

- 1 ファンクションボタン/2を押して、サブウーファー/センタースピーカー調整モードに切り換えます

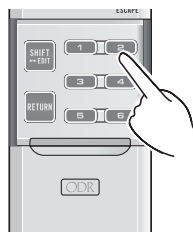


例：センタースピーカー調整画面

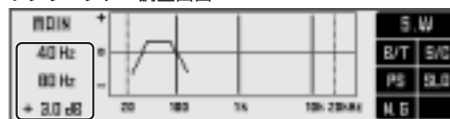


- 2 もう一度、ファンクションボタン/2を押して、サブウーファー簡易調整またはセンタースピーカー調整を選びます

ボタンを押すごとに、サブウーファー簡易調整画面と、センタースピーカー調整画面が切り換わります。

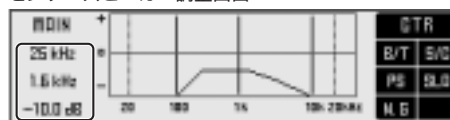


サブウーファー調整画面



現在の設定が表示されます。

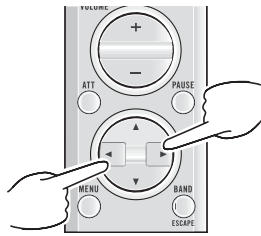
センタースピーカー調整画面



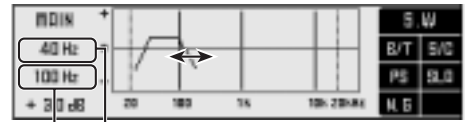
現在の設定が表示されます。

次ページへ続く

- 3 ◀▶ ボタンを押して、フィルターの周波数を調整します  
押し続けると連続して送られます。



サブウーファー簡易調整の場合



H.P.F. の周波数  
：ネットワークメニューで調整  
した周波数に固定されています。

L.P.F. の周波数  
：25 Hz ~ 250 Hz

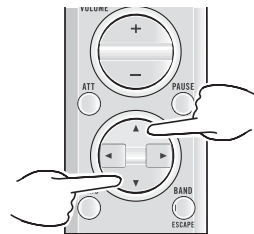
センタースピーカー調整の場合



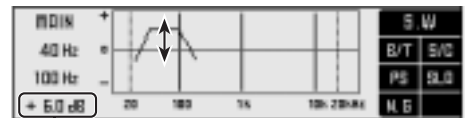
H.P.F. の周波数  
：100 Hz ~ 10 kHz

L.P.F. の周波数  
：ハイパスフィルターに合わせて、  
自動的に調整されます。  
(630 Hz ~ PASS)

- 4 ▲/▼ ボタンを押して、レベルを調整します  
押し続けると連続して送られます。



例：サブウーファー簡易調整画面

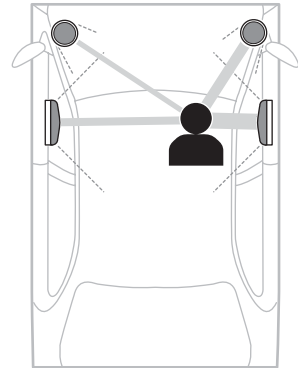


サブウーファー : - 24 dB ~ + 10.0 dB  
センタースピーカー : - 24 dB ~ 0 dB

## リスニングポジションの調整 < PS >

より自然な状態で音を聞くための条件の1つに“音像定位を明確にする(音場の中心で聞く)”ことがあげられます。スピーカーを前方に設置し、スピーカーの中心で聞くということは、ホームオーディオでは普通に行われていることです。

しかし車室内では、乗車位置に対して前後・左右のスピーカーの距離が異なります。各々のスピーカーから出る音が耳に届くまでの時間や、そのレベルにずれが生じてしまうため、音像の定位が不自然になってしまいます。(例えばボーカルの聞こえてくる方向がはっきりしなかったりします。)



ODRシステムでは、次の方法で音像をより自然に補正することができます。

### ポジションセクター機能

乗車位置に合わせて、音像の定位を適切に補正する機能です。

前後・左右のスピーカーに対して遅延時間を設定することができます。(距離的に近いスピーカーへの入力信号に遅延をかけることにより、各スピーカー間の時間差を補正します。)

各スピーカー間のレベル差を設定することにより、音像を前方に定位させます。

本機に「RS-P70x」を接続したときは、前後のスピーカーに対する遅延時間調整はできません。

### ポジション微調整機能

ポジションセクター機能に加えて、スピーカーの取り付け位置や車の形状などに応じて、遅延時間とレベル差を微調整することができます。



### ポジション微調整機能の上手な使いかた

ポジション微調整機能の遅延時間の調整は、ネットワークメニューの、各音域(バンド)のスピーカーごとに遅延時間を設定するタイムアライメント調整 [117ページ] と密接に関係しています。マルチアンプシステムにした場合は、“ポジション微調整機能での効果的な遅延時間調整” [101ページ] もご覧ください。

## ポジションセレクターの使いかた

- 1 ファンクションボタン/3を押して、ポジションセレクターモードに切り換えます

ポジションセレクター画面に切り換わります。



ポジションセレクター画面



現在の設定が表示されます。

- 2 もう一度、ファンクションボタン/3を押して、ポジションセレクター機能をONにします

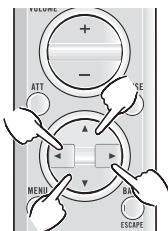
ボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります。



OFF ↔ ON (前回設定したポジションを選択)

- 3 ▲/▼/◀/▶ ボタンを押して、ポジションを選びます

乗車位置に合わせて、ポジションを設定してください。



- ▶ : FRONT-R : 運転席 (右ハンドル)
- ◀ : FRONT-R : 運転席 (左ハンドル)
- ▲ : FRONT : 前部座席
- ▼ : ALL : 前後部座席



乗車位置以外のポジションもお試しく下さい

基本的には乗車位置に合わせてポジションを設定しますが、車種やスピーカーの位置によっては、他のポジションの方が効果があるときもあります。聞きくらべて、より自然に聞こえるポジションに設定してください。



## ポジションの微調整

ポジションセレクター機能で選んだポジションに対して、遅延時間とレベル差を微調整することができます。スピーカーの取り付け位置や、車の形状などに応じて調整を行い、音像定位が最も自然で、まとまって聞こえるように補正してください。

遅延時間：0～10 msec. (0.05 msec./1ステップ)

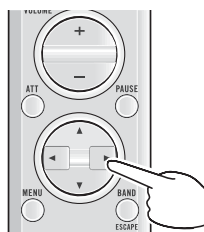
遅延時間の値が大きくなると、スピーカーから出る音が遅れて耳に届くようになり、スピーカーまでの距離が長くなったように感じます。したがって、遅延時間の値が0に近い方に音像が定位します。

レベル差調整幅：-30 dB～0 dB (1 dB/1ステップ)

レベルが小さくなると、スピーカーから出力される音量が小さくなり、スピーカーまでの距離が長くなったように感じます。したがって、レベル差の値が0に近い方に音像が定位します。

微調整は、それぞれのポジションに対して別々に行うことができます。また、微調整後の設定値はポジションごとに保持されます。(次にそのポジションを呼び出したときは、微調整後の設定値が呼び出されます。)

### 1 ポジションセレクター機能で、ポジションを選びます



例：FRONT-Rを選んだ場合



### 2 ファンクションボタン/3を2秒以上押し続け、微調整モードにします

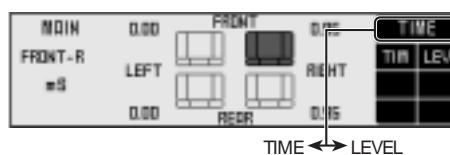
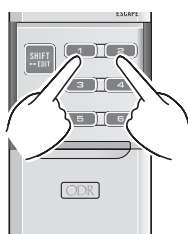
ポジション微調整画面に切り換わります。



左チャンネルの現在の設定が表示されます。

右チャンネルの現在の設定が表示されます。

### 3 ファンクションボタン/1, 2を押して、遅延時間調整またはレベル差調整を選びます

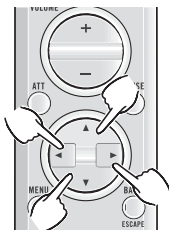


TIME ↔ LEVEL

次ページへ続く

4 ▲/▼/◀/▶ ボタンを押して、音像定位の補正を行います

押し続けると連続して送られます。(遅延時間調整の場合は、押し続けると0.1 msec/1ステップで送られます。)



遅延時間：0 ~ 10 msec.  
レベル差：- 30 dB ~ 0 dB

5 調整後、RETURNボタンを押して、微調整モードを解除します

設定値が記憶されて、ポジションセクター画面に戻ります。



微調整のポイント

ボーカルを聞きながら、ボーカルの音像が自然な状態(正面前方)に定位するように、遅延時間を調整してください。

微調整の際、参考にしていただくために、ポジションセクターの初期設定値を記載しました。一度ご覧ください。[142ページ]

サブウーファースの微調整について

ポジション微調整機能は、サブウーファーに対しては機能しません。

センタースピーカースの微調整について

レベル差の微調整は、前側の左右の調整量の間値が設定されます。遅延時間の調整は機能しません。

## ポジション微調整機能での効果的な遅延時間調整

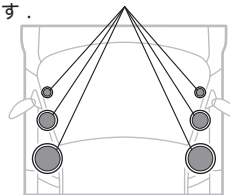
### - タイムアライメント調整との関係 -

スピーカーの遅延時間を調整するには、次の2つの方法があります。

ネットワークメニューのタイムアライメント調整 [115ページ]

左右チャンネルの各バンド（ハイ、ミッド、ロー、サブウーファー）のスピーカー1つ1つに対して、遅延時間の調整を行うことができます。

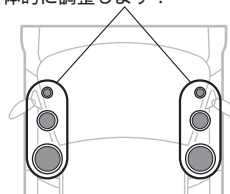
タイムアライメント機能  
1つ1つのスピーカーの遅延時間を調整します。



ポジション微調整機能の遅延時間調整

各バンドの区別はなく、左右のスピーカーを全体的に調整します。ハイ、ミッド、ローに対して、同じ調整が行われます。

ポジション微調整機能  
左右のスピーカーの遅延時間とレベル差を全体的に調整します。



2つの方法を組み合わせて、次のように調整すると、より有効に定位状態を設定することができます。

- 1 ネットワークメニューのタイムアライメント調整で、各スピーカーごとに遅延時間の調整を行います [117ページ参照]
- 2 ポジション微調整機能で、左右の全体的な遅延時間を調整します  
タイムアライメント調整の設定値を基準として、さらに全体的な定位バランスを微調整してください。
- 3 ポジション微調整機能で、左右の全体的なレベルバランスを調整します  
音像が正面に定位するように、左右のレベル差を調整してください。



ポジション微調整機能で遅延時間を調整したときは

ポジション微調整機能で遅延時間を調整後、タイムアライメント調整画面にすると、前回タイムアライメント機能で設定した値に、ポジション微調整機能で設定した値が加算されて、表示されます。

新たに、表示されている値をタイムアライメント機能の設定値（ポジション微調整機能の基準値）として記憶させたい場合は、どれか1つの値を ▲/▼ ボタンを押して、調整しなおしてください。表示されている値が記憶され、ポジション微調整機能で設定した遅延時間は、リセットされて0に戻ります。

タイムアライメント調整で遅延時間を設定しなおしたときは

ポジション微調整機能の遅延時間は、タイムアライメント調整の遅延時間を基準としています。タイムアライメント調整で遅延時間を設定しなおしたときは、基準値が変更されたことになるため、ポジション微調整機能で設定した遅延時間は、リセットされて0に戻ります。

## ソースレベルアジャスター < SLA >

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。

- 1 FM放送を受信して、FMの音量を確認します

[44ページ参照]

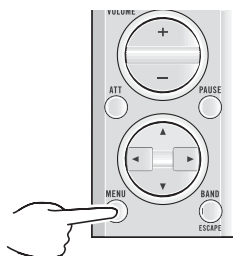
- 2 音量を調整したいソースに切り換えます

[26, 27ページ参照]

ソースを切り換えたときの音量差を確認してください。

- 3 MENUボタンを押して、メインメニューに切り換えます

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしてください。



- 4 ファンクションボタン/4を押して、SLAモードに切り換えます

SLA調整画面に切り換わります。



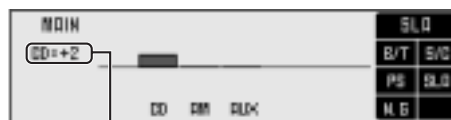
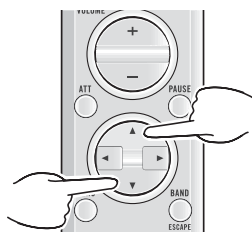
SLA 調整画面

MAIN		SLA
CD: 0		B/T S/O
		PS SLA
CD	FM	SLA
		N E

## 5 ▲/▼ ボタンを押して、出力レベルを調整します

FMと音量がそろうように、現在聞いているソースの音量を調整します。

現在お聞きのソースの出力レベルを調整することができます。



- 4 ~ + 4 の範囲で調整できます。

## 6 ほかのソースでも調整します

ほかのソースに切り換えて、それぞれ3~5の操作を行ってください。



### FMの出力レベルは調整できません

FMの音量を基準としているため、FMの出力レベルは調整できません。

### 各ソースのレベル調整について

内蔵CD，マルチCDおよびDVDは，全て同じ出力レベルに設定されます。

AMとテレビは，同じ出力レベルに設定されます。

AUX，External 1およびExternal 2は，全て同じ出力レベルに設定されます。

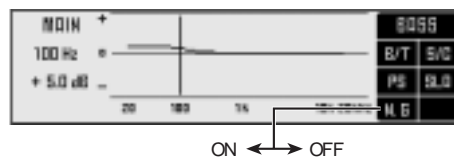
## CDノイズゲート < N.G >

本機に「RS-P70x」を接続したときは、この機能はありません。

CD再生中に、CDに信号が記録されていない状態が続いた場合、出力にミュートをかけて、システム全体のノイズを減らす機能です。

CDを再生しているときだけ、CDノイズゲート機能をON/OFFすることができます。

ファンクションボタン/5を押すごとに、ON/OFFが切り換わります



## イコライザーメニュー < Equalizer >

複雑な形状の車内空間において、周波数特性の乱れを改善することは、音づくりの重要な構成要素の1つになります。

車内では車自体の形状ばかりでなく、その広さ、シートの吸音性やガラスの反射性などが原因となって、直接音に反射音が大きく影響し、周波数特性の乱れが生じます。この周波数の乱れは、最終的に音質の劣化として認識されるようになります。

ODRシステムでは、オーディオユニットのシステム構成によって、3種類のデジタルイコライザーのいずれかを使用することができます。デジタルイコライザーの調整によって周波数特性の乱れを補正し、スムーズな音質に上げることが可能です。

本機に「RS-P1x」、「RS-P50x」、「RS-A1x(II)」、および「RS-A2x(II)」を接続している場合、フロントとリアを独立してイコライザー調整を行うことができます。

この場合、フロントスピーカーとリアスピーカーでは、設置条件が全く異なるため、フロント/リアのそれぞれに、違った内容の補正を行う必要があります。

オーディオユニットの中で、アドレス1に設定した製品の持つイコライザー機能を使用することができます。

### 31バンド グラフィックイコライザー (31B-GEQ)

「RS-P1x」をアドレス1に設定したとき、または「RS-P70x」を接続したとき

各チャンネル独立に31バンド (1/3オクターブ間隔) のレベル調整を行うことができ、きめ細やかに、思い通りの音場補正を行うことが可能です。

本機に「RS-P70x」を接続している場合は、「RS-P70x」のモードにより、左チャンネル/右チャンネル独立、または左チャンネル/右チャンネル共通に31バンド グラフィックイコライザーの調整を行うことができます。また、「RS-P70x」では、フロント/リアを独立して補正することはできません。(全てフロント定位となります。)

### 16バンド グラフィックイコライザー (16B-GEQ)

「RS-P50x」をアドレス1に設定したとき

フロント/リア独立に16バンド (2/3オクターブ間隔) のレベル調整を行うことができ、車室内を理想的な音響特性に補正することができます。

システムの中に「RS-P1x」がある場合は、16バンド グラフィックイコライザーは機能しません。

### 3バンド パラメトリックイコライザー (3B-PEQ)

「RS-A1x(II)」、「RS-A2x(II)」のみのシステム構成の場合

フロント/リア独立に3バンドのレベル調整を行うことができます。レベル調整のポイントとなる周波数を、必要に応じて31周波数 (1/3オクターブ間隔) の中から選んで調整します。また、それぞれのバンドで、イコライザーカーブの傾き (Qファクター) を調整することができます。

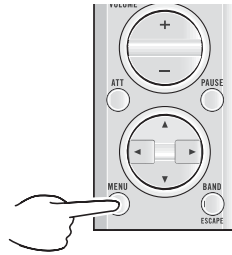
システムの中に「RS-P70x」、「RS-P1x」、または「RS-P50x」がある場合は、3バンド パラメトリックイコライザーは機能しません。

## イコライザーメニューに切り換える

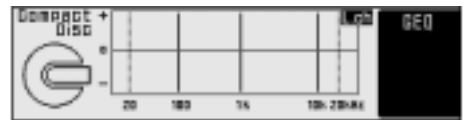
MENUボタンを押して、イコライザーメニューに切り換えます

[89ページ参照]

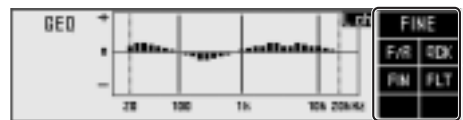
タイトル画面の後、イコライザーメニューの操作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。



クローズ状態  
イコライザー基本画面



オープン状態  
イコライザー調整画面



ファンクションボタンの機能表示

### イコライザーメニューでの操作

イコライザーメニューでは、次の調整を行うことができます。

クローズ状態で行います

イコライザーカーブの呼び出し [131ページ]

オープン状態で行います

31/16バンド グラフィックイコライザーの調整 [108ページ]

3バンド パラメトリックイコライザーの調整 [111ページ]

フラット機能 [114ページ]

イコライザーカーブのメモリー機能 [128ページ]



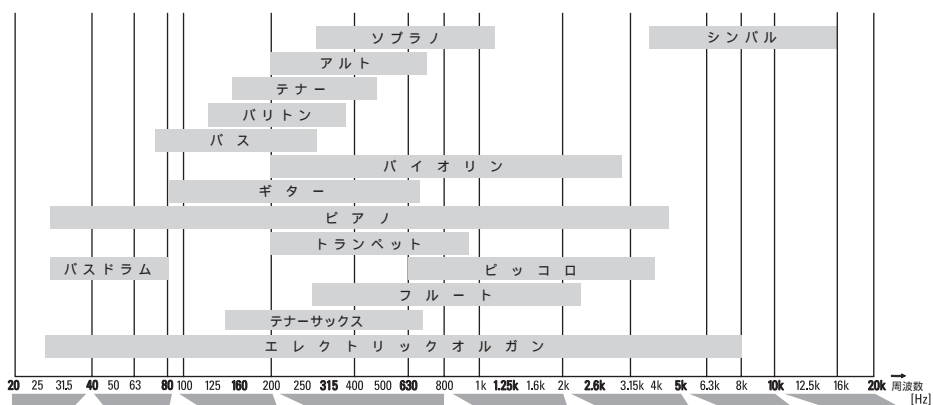
イコライザーメニューを解除するには

BANDボタンを押すと、イコライザーメニューが解除されます。[89ページ参照]



## 周波数特性と音質の関係

一般的に、周波数によって次のような音質の特徴があります。調整の際の参考にしてください。



ほとんど圧力に感じられる帯域で、強すぎると耳が圧迫される感じになります。

低音感に必要な帯域です。不足すると力のない低音になり、強すぎるとこもった音になります。クリアーに再生することで音に厚みを造ります。

音の芯に必要な帯域で、不足すると芯のない音になります。全体の音質バランスを整える上で重要な帯域です。

音の華やかさ、明るさを演出する帯域です。不足するとこもった音になり、強すぎると金属音が耳につくようになります。

重低音が感じられる帯域です。体で振動を感じる帯域で、強すぎると音のクリアー感が損なわれます。

音の情報密度が最も濃い帯域で、音の輪郭をつくり出します。不足すると温かみのない音になり、強すぎると不明瞭な音になります。

金管楽器やエレキギターのシャープな響きや伸び、音色を感じる帯域ですが、強すぎると聞き疲れする音になります。

シンバルの音色、輝きに必要な帯域です。しかし、ほとんどの楽器の基本周波数は含まれていないため、多小不足気味でも音質が大きく劣化することはありません。



### イコライザーカーブ調整のポイント

レベル調整は、接続したスピーカーの再生周波数帯域を考慮して行ってください。例えば再生周波数帯域が80 Hz~4 kHzのスピーカーを接続したときに、50 Hzや10 kHzのレベル調整を行っても効果がありません。低域と高域をバランス良く調整することをおすすめします。サブウーファーを接続しない場合は、低域が不十分になりやすいため、高域も低域に合わせて多少小さく調整しておくこと、全体のバランスが良くなります。

走行中はロードノイズのために、低域が不足しているように聞こえます。100 Hz以下のレベルを多少大きく調整しておくこと、走行中はバランスが良くなります。

音楽を聞いているときに、どこか不足していたり、大きすぎるなど気になる音があるときは、その付近の周波数を一度最大/最小レベルまで変化させて、気になる音の周波数を確認してからレベル設定をすることをおすすめします。

## 31/16バンド グラフィックイコライザーの調整

本書では、31バンドグラフィックイコライザーの画面イラストで操作説明を行っています。16バンドグラフィックイコライザーでは、調整できる周波数は16バンドですが、操作方法は同じです。

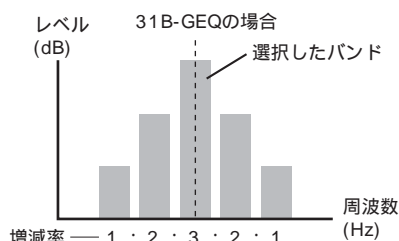
### グラフィックイコライザーの調整方法について

グラフィックイコライザーを調整するには、次の2つの方法があります。

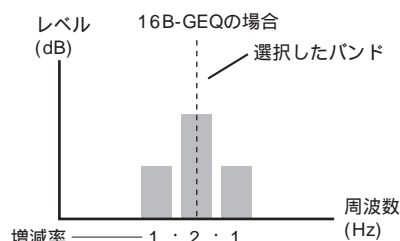
#### クイック調整 < QCK >

本機に「RS-P70x」を接続した場合は、この機能はありません。

選択したバンド (周波数) を中心にして、その両側のバンドも同時に調整します。自然な音場感を損なわずに、全体をバランス良く、しかも手早く調整することができます。



選択したバンドを中心にして、その両側2バンド分を同時に調整します。(計5バンドを同時に調整します。)  
 選択したバンドを3.0dB増減させると、その隣りのバンドは2.0dB、さらに隣りのバンドは1.0dB増減されます。



選択したバンドを中心にして、その両側1バンド分を同時に調整します。(計3バンドを同時に調整します。)  
 選択したバンドを2.0dB増減させると、その隣りのバンドは1.0dB増減されます。

#### ファイン調整 < FIN >

選択したバンド (周波数) だけを調整します。1バンドずつレベルの増減を行うため、思い通りの音場を創造することができます。

## イコライザーカーブの調整

調整周波数 (31B-GEQ) : 20 Hz ~ 20 kHz (1/3オクターブ間隔, 計31バンド)

(16B-GEQ) : 20 Hz ~ 20 kHz (2/3オクターブ間隔, 計16バンド)

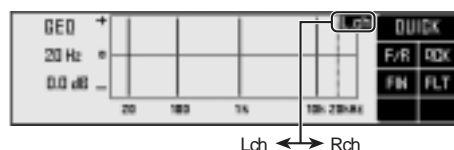
レベル調整幅 : -12 dB ~ +12 dB (1 dB/1ステップ)

-12 dB ~ +12 dB (0.5 dB/1ステップ) (「RS-P70x」接続時)

### 1 ファンクションボタン/1を押して, チャンネルを選びます

ボタンを押すごとに, チャンネルが切り換わります.

本機に「RS-P70x」を左チャンネル/右チャンネル独立モードで接続している場合は, 「Lch」は「左チャンネル」, 「Rch」は「右チャンネル」を示しています. (本機に「RS-P70x」以外のオーディオユニットを接続している場合は, 「Lch」は「フロント」, 「Rch」は「リア」を示しています.)

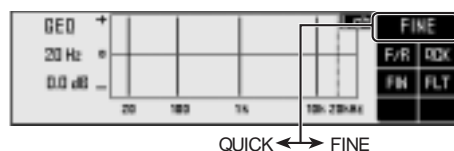
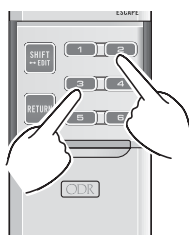


### 2 ファンクションボタン/2または3を押して, クイック調整かファイン調整を選びます (「RS-P70x」以外接続時)

本機に「RS-P70x」を接続した場合は, クイック調整とファイン調整の切り換えはありません. (ファイン調整のみ, 操作できます.)

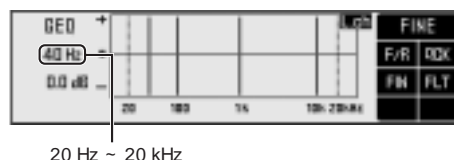
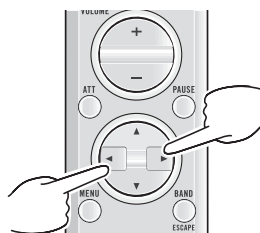
ファンクションボタン/2を押すと, クイック調整を行うことができます.

ファンクションボタン/3を押すと, ファイン調整を行うことができます.



### 3 ◀▶ ボタンを押して, 調整したいバンド (周波数) に合わせます

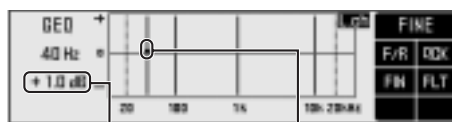
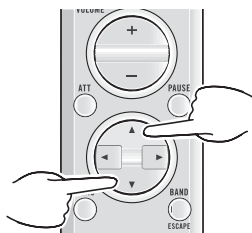
押し続けると連続して送られます.



次ページへ続く

## 4 ▲/▼ ボタンを押して、レベルを調整します

押し続けると連続して送られます。



選んだバンドのレベルが調整されます。

## 5 他のバンドを調整します

手順3, 4の操作を繰り返し行って、好みの音質が得られるように調整してください。

## 6 チャンネルを切り換えて、イコライザーカーブを設定します

手順1~5の操作を繰り返し行くと、LchとRchのイコライザーカーブを別々に設定することができます。



クイック調整とファイン調整は切り換えながら調整できます (「RS-P1x」,「RS-P50x」接続時)

他のバンドを選んだときに手順2の操作を行うと、クイック調整とファイン調整を切り換えながら、調整することができます。

クイック調整では、同時に調整される両側のバンドが、選んだバンドより先に最大/最小レベル ( $\pm 12.0$  dB) に達すると、それ以上選んだバンドの調整を行うことができなくなります。

## イコライザーカーブ設定の便利な方法

ベースメモリーには、お客様の車独自の周波数特性を考慮した、車内音場がフラットになるようなイコライザーカーブを記憶させておきます (販売店にて測定器を用いて調整することをおすすめします)。そのベースメモリーを呼び出してからお好みに合わせて調整を加えると、短時間でバランスの良いカーブに上げることができます。メモリー操作については128ページをご覧ください。

## RCA入力アンプにサブウーファーをモノブリッジ接続しているときは (「RS-P70x」接続時)

サブウーファーからは、左右チャンネルの調整値がほぼ平均されて出力されますので、100 Hz 以下の帯域を左右同じように調整すると、バランスよく出力されます。

## イコライザーの効果を確認するには

フラット機能を使用すると、効果を確かめながら調整を行うことができます。[114ページ参照]

## サブウーファーのイコライザー調整

(「RS-P1x」,「RS-P50x」接続時)

サブウーファーに対するイコライザー調整は、フロント側で行います。(サブウーファーはフロント出力側に接続するため、リア側で調整しても効果はありません。)

## センタースピーカのイコライザー調整

(「RS-P1x」,「RS-P50x」接続時)

センタースピーカーに対するイコライザー調整は、フロント側で行います。

## 調整が終わったら

調整した内容は、調整後すぐにメモリーすることをおすすめします。[128ページ参照]

### 3バンド パラメトリックイコライザーの調整

#### パラメトリックイコライザーの調整内容について

パラメトリックイコライザーでは、次のような調整を行うことができます。

#### フロント/リア独立 3バンド調整

フロントとリアのイコライザーカーブを別々に設定することができます。また、調整の中心となるバンド (周波数) を、31周波数の中からフロント/リアそれぞれ3バンドずつ選択して、レベル調整を行うことができます。

周波数ポイント：20 Hz ~ 20 kHz (1/3オクターブ間隔、計31ポイント)

レベル調整幅：-12 dB ~ +12 dB (1 dB/1ステップ)

次のようなシステム構成では、フロント/リアの独立調整は行うことができません。

\*「RS-A1x(II)」または「RS-A2x(II)」1台のオーディオユニット構成の場合。

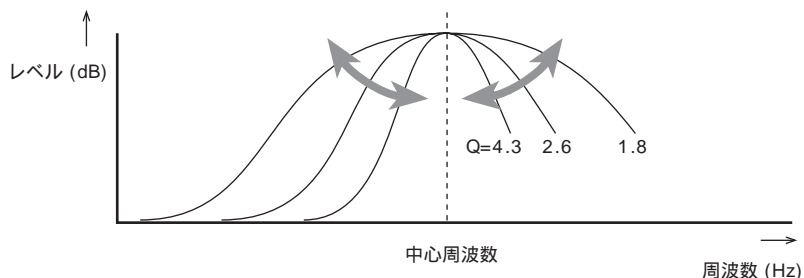
\*「RS-A1x(II)」, 「RS-A2x(II)」のフェーダーの設定が、フロント側またはリア側どちらか一方の場合。

#### Qセレクト機能

調整の中心となるバンドのQファクター (イコライザーカーブの傾き) を、それぞれのバンドで別々に設定することができます。

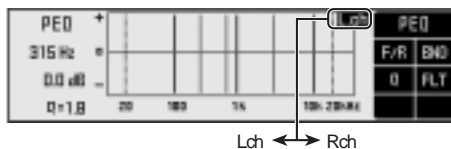
設定値：1.8, 2.6, 4.3 dB/oct.

値を大きくすると、イコライザーカーブの特性が鋭くなります。

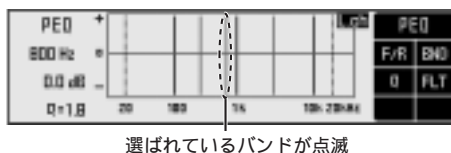


## イコライザーカーブの設定

- 1 ファンクションボタン/1を押して、フロントまたはリアを選びます  
ボタンを押すごとに、Lch(フロント)とRch(リア)が切り換わります。

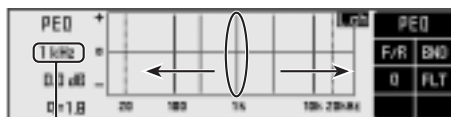
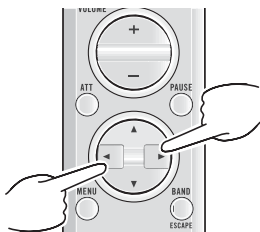


- 2 ファンクションボタン/2を押して、調整するバンドを選びます  
ボタンを押すと、次のバンドに切り換わります。



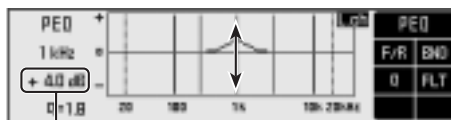
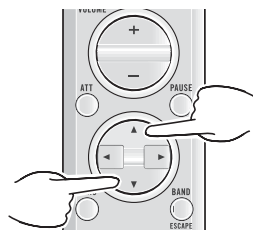
- 3 ◀▶ ボタンを押して、調整したい周波数に合わせます  
押し続けると連続して送られます。

隣り合った2バンドの間隔を、1オクターブ未満に設定することはできません。



20 Hz ~ 20 kHz  
(1/3 オクターブ間隔, 計 31 ポイント)

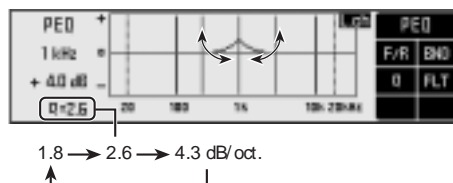
- 4 ▲▼ ボタンを押して、レベルを調整します  
押し続けると連続して送られます。



- 12.0 dB ~ + 12.0 dB  
(1 dB/1 ステップ)

5 ファンクションボタン/3を押して、Qファクター（イコライザーカーブの傾き）の調整を行います

ボタンを押すごとに、次の順で数値が切り換わります。好みのQファクターに設定してください。



6 他のバンドを調整します

手順2～5の操作を繰り返し行って、好みの音質が得られるように調整してください。

7 フロントとリアを切り換えて、イコライザーカーブを設定します

手順1～6の操作を繰り返し行くと、フロントとリアのイコライザーカーブを別々に設定することができます。



### イコライザーカーブ設定の便利な方法

ベースメモリーには、お客様の車独自の周波数特性を考慮した、車内音場がフラットになるようなイコライザーカーブを記憶させておきます（販売店にて測定器を用いて調整することをおすすめします）。そのベースメモリーを呼び出してからお好みに合わせて調整を加えると、短時間でバランスの良いカーブに上げることができます。メモリー機能については128ページをご覧ください。

#### イコライザーの効果を確認するには

フラット機能を使用すると、効果を確認しながら調整を行うことができます。[114ページ参照]

### サブウーファースのイコライザー調整

（「RS-P1x」、「RS-P50x」接続時）

サブウーファーに対するイコライザー調整は、フロント側で行います。（サブウーファーはフロント出力側に接続するため、リア側で調整しても効果はありません。）

### センタースピーカースのイコライザー調整

（「RS-P1x」、「RS-P50x」接続時）

センタースピーカーに対するイコライザー調整は、フロント側で行います。

### 調整が終わったら

調整した内容は、調整後すぐにメモリーすることをおすすめします。[128ページ参照]

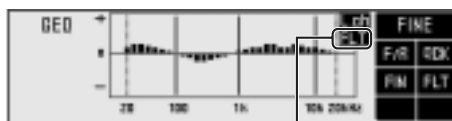
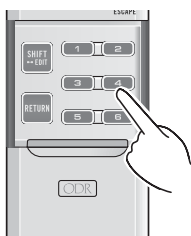
## フラット機能 < FLT >

- 31/16B-GEQ, 3B-PEQ共通の機能 -

フラット機能により、調整したイコライザーカーブを一時的に初期状態 (レベルが全て0 dB) に戻すことができます。

調整したイコライザーカーブの効果を確かめたいときに便利です。

- 「RS-P1x」, 「RS-P50x」, 「RS-A1x (II)」, 「RS-A2x (II)」 接続時—  
ファンクションボタン/4を押して、フラット機能をONにします  
もう一度押すと解除されます。

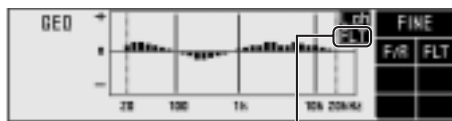
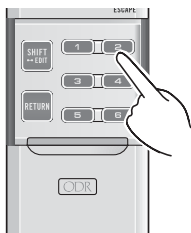


ON にすると表示されます。

- 「RS-P70x」 接続時—

ファンクションボタン/2を押して、フラット機能をONにします

もう一度押すと解除されます。



ON にすると表示されます。



フラット機能がONのときは

フラット機能がONになっているときは、イコライザーの調整やイコライザーカーブのメモリー操作を行うことはできません。



## ネットワークメニュー < NETWORK >

### マルチアンプシステムとは？

高音・中音・低音・重低音域など、それぞれの音域 (バンド) を専用のスピーカーユニットで再生するシステムをマルチスピーカーシステムといいます。そして、それらのスピーカーユニットを専用のパワーアンプを介して駆動する方法を、マルチアンプシステムといいます。

スピーカーの設置が限られているカーオーディオでは、高音質化のために大口径スピーカーをドアやダッシュボードに取り付けることは困難です。そこで、ツイーター (高音域用スピーカー) をダッシュボード上などに設置して音像を上昇させたり、サブウーファー (重低音域用スピーカー) をリアトレイに設置して低音再生能力向上を図るなど、マルチスピーカーシステムにすることにより、定位を補正し、音質を大幅に向上させることができます。

さらに、マルチアンプシステムでは、各音域用スピーカーユニットを、専用のパワーアンプで直接駆動するため、次のような特徴があります。

低音域の強い信号で、高音域の信号が影響を受けることがなく、混変調歪率を低減することが可能になる。

各音域の特性にあったアンプ、スピーカーを使用することができるため、各ユニットでの負担が軽減し、性能を最大限に引き出すことが可能になる。

マルチアンプシステムでは、ネットワークによって、オーディオ信号を各音域 (バンド) ごとに分割し、その設定条件を厳密にコントロールする必要があります。

ODRシステムでは、ネットワークをオーディオユニットが内蔵しており、次の調整を全て車内で行うことができます。

タイムアライメント調整 ..... 各スピーカーユニット間の距離差を補正。

フィルター調整 ..... 各スピーカーユニットの再生周波数帯域 (L.P.F. , H.P.F.の遮断周波数) やレベル、位相などの設定。

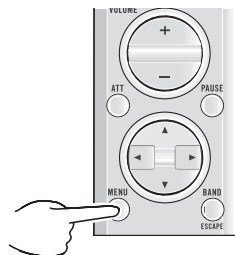
また、ネットワークによるオーディオ信号の処理は、デジタル信号で行われるため、音質を劣化させることなく、車内空間に最もふさわしい音響特性の創造が可能です。

## ネットワークメニューに切り換える

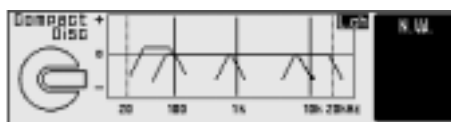
MENUボタンを押して、ネットワークメニューに切り換えます

[89ページ参照]

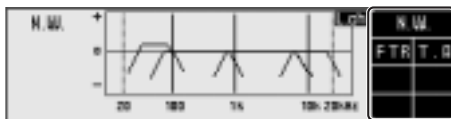
タイトル画面の後、ネットワークメニューの操作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。



クローズ状態  
ネットワーク基本画面



オープン状態  
ネットワーク調整画面



ファンクションボタンの機能表示

### ネットワークメニューでの操作

ネットワークメニューでは、次の調整を行うことができます。

オープン状態で行います

タイムアライメント調整 [117ページ]

フィルター調整 [122ページ]

調整したネットワークのメモリー機能 [128ページ]



ネットワークメニューを解除するには

BANDボタンを押すと、ネットワークメニューが解除されます。[89ページ参照]

調整が困難な場合は

ネットワークの調整には、組み合わせたアンプ、スピーカーなどの製品知識および熟練した技術が必要となります。調整が困難な場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

販売店ですでに調整が行われている場合は、お客様の車独自の音響空間を考慮した、最適な設定が、ベースメモリーとして記憶されています。ベースメモリーを呼び出して、ご使用ください。[128ページ参照]

調整が終わったら

調整した内容は、調整後すぐにメモリーすることをおすすめします。[128ページ参照]

ネットワークの調整後、必要に応じて、メインメニューのポジション微調整機能で、全体的な定位バランスの調整を行ってください。[99ページ参照]

センタースピーカーを接続した場合は、ポジション微調整機能の調整後、メインメニューでセンタースピーカーのフィルター調整を行ってください。[94ページ参照]

## タイムアライメント調整

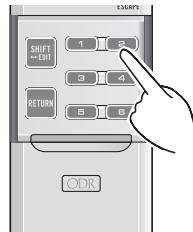
車室内では、各スピーカーユニットから乗車位置までの距離に大きな違いがあるため、それぞれの音が耳に届くまでの時間にずれが生じます。マルチアンプシステムにした場合は、そのずれは各音域(高・中・低・重低音域)の時間の遅れになるため、音像の定位や全体的なバランスが悪くなったり、また、周波数特性が乱れたりします。

タイムアライメント機能では、距離的に近いスピーカーユニットの信号に遅延をかけることにより、音の到達時間をそろえることができます。

### タイムアライメント調整モードに切り換える

選択画面のときに、ファンクションボタン/2を押します

タイムアライメント調整画面に切り換わり、タイムアライメントの調整を行うことができます。



タイムアライメント調整画面

		FRONT-R				REAR-C	T.O.	
		S.W.	LOW	MID	HIGH	STR		
FRT	L		0.00	0.00	0.00	0.00	+BD	+BD
	R		0.95	0.95	0.95	0.00	+DN	+DN
REAR	L	0.00					UNT	L/R
	R	0.00						

ファンクションボタンの機能表示

現在の設定の状態が表示されます。

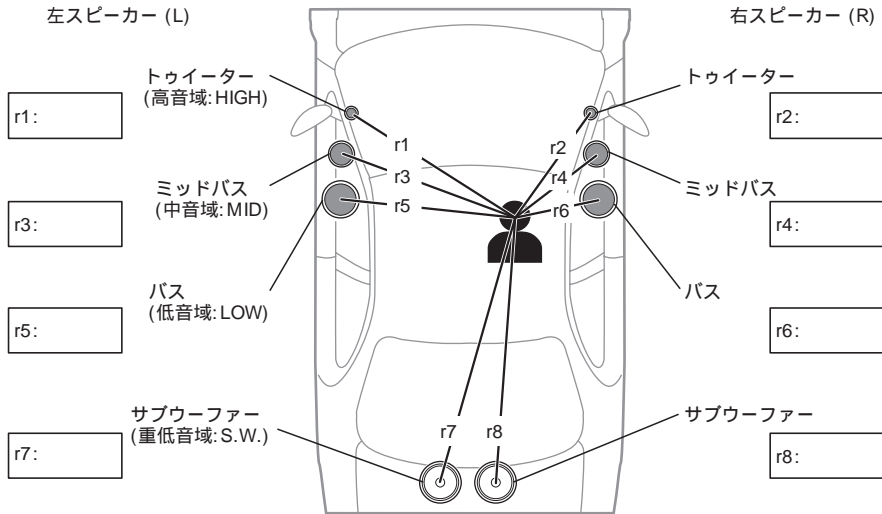
### 補正距離 (遅延時間) の算出方法

各スピーカーユニットの時間差を補正するために、遅延時間を算出する必要があります。ODRシステムでは、タイムアライメント調整をより簡単に行うために、組み合わせたオーディオユニットによって、乗車位置と各スピーカーユニットまでの距離を入力するか、スピーカーユニットとスピーカーユニットの距離の差(補正距離)を入力するだけで、遅延時間の設定を行うことができます(遅延時間はODRシステムが自動的に算出します)。

各スピーカーユニットからの距離は乗車位置によって異なりますが、最初の設定は車の運転席に対して行います。一度運転席に対して設定を行っておくと、ポジションセレクター機能[98ページ]でリスニングポジションを切り換えるだけで、乗車位置に対する最適な遅延時間が設定されます(ODRシステムが自動的に算出して、設定を行います)。

例：右ハンドル車の運転席に対して補正をする場合

- 1 運転席に座ったときの頭の位置と各スピーカーユニットの距離 (r) を計測します  
距離の単位は、すべて cm(センチメートル)または inch(インチ) です。



- 2 運転席から一番遠いスピーカーユニットまでの距離と、その他のスピーカーユニットまでの距離の差 (補正距離) を計算します (「RS-P70x」以外接続時)

本機に「RS-P70x」を接続した場合は、以下の計算は「RS-P70x」が自動的に行います。

運転席から一番遠いスピーカーユニット ..... サブウーファー (L)  
 サブウーファー (L) と運転席との距離 ..... r7 (この値が基準になります。)  
 r7 とその他のスピーカーユニットの距離の差 ..... (この値を入力します。)

補正距離の算出が終わったら、次ページを参照して、補正距離の入力操作を行ってください。

左スピーカー (L)		右スピーカー (R)	
D1 = r7 - r1 =	<input type="text"/>	(フロントトゥイーター)	D2 = r7 - r2 = <input type="text"/>
D3 = r7 - r3 =	<input type="text"/>	(フロントミッドバス)	D4 = r7 - r4 = <input type="text"/>
D5 = r7 - r5 =	<input type="text"/>	(フロントバス)	D6 = r7 - r6 = <input type="text"/>
D7 = r7 - r7 =	<input type="text" value="0"/>	(サブウーファー)	D8 = r7 - r8 = <input type="text"/>



**補正距離を算出するときは**

後日お役に立つこともありますので、の中に記入しながら測定することをおすすめします。

上記の例以外のシステムの場合も、同様にして補正距離を算出してください。

**センタースピーカーを接続した場合は (「RS-P70x」以外接続時)**

センタースピーカーは次の値を入力してください。

- \* 補正距離の場合：272.0 cmまたは107.2 inch
- \* 遅延時間の場合：8.00 msec.

**遅延時間で入力することもできます**

(「RS-P70x」以外接続時)

遅延時間は、手順2で計算した補正距離を音速 (C) でわり算をして算出します。

例：T1=D1/C

C：約343.5 cm/sec. または約135.2 inch/sec.

## 補正距離 (遅延時間) の入力のかた

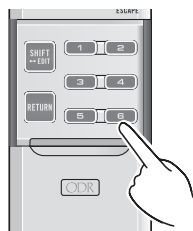
調整範囲： 0 ~ 340.0 cm (1.7 cm/1ステップ)

0 ~ 134.0 inch (0.6 または 0.7 inch/1ステップ)

0 ~ 10.00 msec. (0.05 msec./1ステップ)

- 1 ファンクションボタン/6を押して、車の運転席 (ポジション) を選びます  
ボタンを押すごとに “ FRONT- R ” と “ FRONT- L ” が切り換わります。前ページで補正距離を算出したときのポジションを選んでください。

この操作を行わないと、補正距離の入力は行えません。



		FRONT-R					T.D.	
		SW	LOW	MID	HIGH	STR	+BD	+BD
FRT	L		0.00	0.00	0.00	0.00	+BD	+BD
	R		0.95	0.95	0.95	0.00	+DN	+DN
REAR	L	0.00					UNT	L/R
	R	0.00						

FRONT- L ← FRONT- R

- 2 ファンクションボタン/5を押して、入力する単位を選びます

補正距離を入力する場合は “ cm ” または “ inch ”，遅延時間を入力する場合は “ msec ” を選びます。

本機に「RS- P70x」を接続した場合は，“ msec. ”での入力はできません。(“ msec. ”に切り換えたときは、遅延時間が表示されますので、参考にしてください。入力は “ cm ” または “ inch ”で行ってください。)

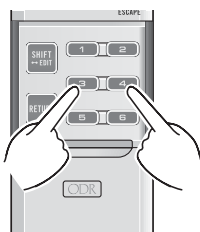


		FRONT-R					T.D.	
		SW	LOW	MID	HIGH	STR	+BD	+BD
FRT	L		0.0	0.0	0.0	272.0	+BD	+BD
	R		32.3	32.3	32.3	272.0	+DN	+DN
REAR	L	0.0					UNT	L/R
	R	0.0						

msec. → inch → cm

- 3 ファンクションボタン/3, 4を押して、入力するスピーカーチャンネルを選びます

本機に「RS- P70x」を接続した場合は、サブウーファーからFRT/LまたはFRT/Rを選んだときに、入力するバンドがLOWに移動します。



		FRONT-R					T.D.	
		SW	LOW	MID	HIGH	STR	+BD	+BD
FRT	L		0.0	0.0	0.0	272.0	+BD	+BD
	R		32.3	32.3	32.3	272.0	+DN	+DN
REAR	L	0.0					UNT	L/R
	R	0.0						

選ばれている項目が反転表示します。

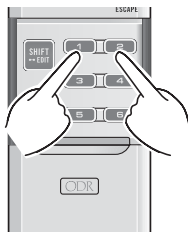
- FRT/L : フロント左スピーカー
- FRT/R : フロント右スピーカー
- REAR/L : リア左スピーカー
- : サブウーファー左 ( 「RS- P70x」接続時 )
- REAR/R : リア右スピーカー
- : サブウーファー右 ( 「RS- P70x」接続時 )

#### 4 ファンクションボタン/1, 2を押して, 入力するバンドを選びます

本機に「RS-P70x」を接続している場合は, LOW, MID, HIGHからREAR/LまたはREAR/Rを選んだときに, 入力するバンドがサブウーファーに移動します。

本機に「RS-P1x」, 「RS-P50x」, 「RS-A1x(II)」, および「RS-A2x(II)」を接続している場合は, サブウーファーには, REAR/LまたはREAR/Rチャンネルを選んだときだけ移動します。

センタースピーカーには, FRT/Lチャンネルを選んだときだけ移動します。



		FRONT-R				CH	T.O.	
		S.W.	LOW	MID	HIGH	STR		
FRT	L		0.0	0.0	0.0	272.0	+BD	+BD
FRT	R		32.3	32.3	32.3	272.0	+CH	+CH
REAR	L	0.0					UNT	L/R
REAR	R	0.0						

選ばれている項目の数値が反転表示します。

S.W. : サブウーファー (重低音域)

LOW : ローレンジ (低音域)

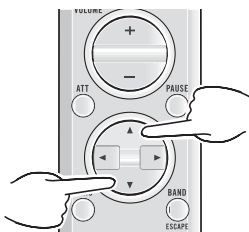
MID : ミッドレンジ (中音域)

HIGH : トウィーター (高音域)

#### 5 ▲/▼ ボタンを押して, 補正距離 (遅延時間) を入力します

118ページで算出した補正距離 (D) を入力してください。

本機に「RS-P70x」を接続している場合は, 118ページで計測した「運転席に座ったときの頭の位置と各スピーカーユニットの距離 (r)」を入力してください。



		FRONT-R				CH	T.O.	
		S.W.	LOW	MID	HIGH	STR		
FRT	L		0.0	0.0	0.0	272.0	+BD	+BD
FRT	R		32.3	32.3	32.3	272.0	+CH	+CH
REAR	L	0.0					UNT	L/R
REAR	R	0.0						

選んだバンド / チャンネルの値が調整されます。

0 ~ 340.0 cm/0 ~ 134.0 inch/0 ~ 10.00 msec.

#### 6 他のスピーカーユニットのタイムアライメント調整を行います

手順3 ~ 5の操作を繰り返し行って, 全てのスピーカーユニットに対して補正距離を入力してください。



#### 調整が終わったら

調整した内容は, 調整後すぐにメモリーすることをおすすめします。[128ページ参照]

#### 調整はシステムに合わせて行ってください

システムによっては, 接続していないスピーカーユニットの値も表示される場合があります。組み合わせたシステムを確認し, 接続したスピーカーユニットの使用バンドを正しく調整してください。

#### サブウーファーの調整について

デジタルアンプ「RS-A1x(II)」, 「RS-A2x(II)」のネットワークモードをS.W.- MONO (サブウーファーモノラルモード) に設定して, サブウーファーを1つだけ接続した場合でも, S.W.のREAR/LとREAR/Rの両方の値が表示されます。この場合は, LチャンネルとRチャンネルの平均値が調整値として設定されますので, 両方に測定値を入力してください。

## ネットワーク選択画面に戻る

RETURNボタンを押します

ネットワーク選択画面に戻ります。



## フィルター調整

フィルター調整では、次の調整を行うことができます。接続したスピーカーユニットの再生周波数帯域や特性に合わせて、調整を行ってください。

フィルター周波数調整：1/3オクターブ間隔

レベル調整：0.5 dB/1ステップ

各バンド(サブウーファー、ロー、ミッド、ハイ)のH.P.F.とL.P.F.の遮断周波数、および各バンドの再生レベルをそれぞれ設定します。

	H.P.F.の遮断周波数	L.P.F.の遮断周波数	レベル調整幅
サブウーファーレンジ	20 Hz ~ 100 Hz	25 Hz ~ 250 Hz	- 24 dB ~ + 10 dB
ローレンジ	25 Hz ~ 250 Hz	250 Hz ~ 10 kHz	- 24 dB ~ 0 dB
ミッドレンジ	200 Hz ~ 10 kHz	2 kHz ~ 20 kHz	
ハイレンジ	1.6 kHz ~ 20 kHz	8 kHz ~ 20 kHz	

スロープ調整：PASS, - 6 dB/oct. ~ - 36 dB/oct.

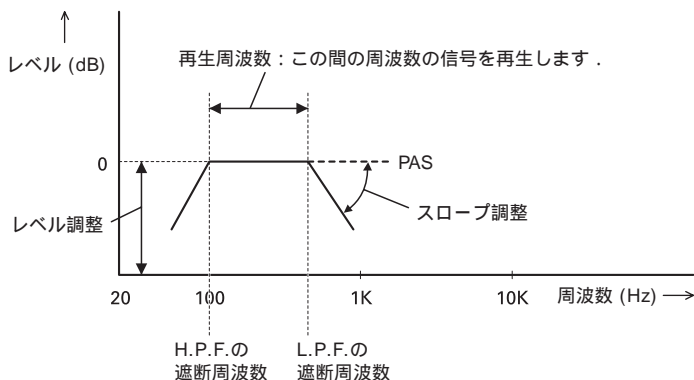
( - 6 dB/oct. 間隔, 計6ステップ)

各H.P.F., L.P.F.のスロープ(フィルター特性の減衰の傾き)を設定します。

スロープをPAS(パス)に設定すると、オーディオ信号はそのフィルター回路をパスする(通過しない)ので、そのフィルター回路の効果はなくなります。

スピーカーユニット保護のため、ミッドレンジおよびハイレンジのH.P.F.にPAS設定はありません。

位相切り換え：ノーマル/リバーズ



### H.P.F.およびL.P.F.について

H.P.F.は、設定した周波数から下の音域(低域)をカットして、高域を通すフィルターです。また、L.P.F.は、設定した周波数から上の音域(高域)をカットして、低域を通すフィルターです。

### スロープについて

周波数が1オクターブ高く(低く)なったとき、信号が何dB減衰するかを表す値です(単位: dB/oct.)。特性上の傾きを大きくすると、信号が減衰する度合いが大きくなります。

### フルレンジスピーカーを使用する場合は

ローレンジのH.P.F.およびL.P.F.のスロープをPAS(パス)に設定すると、フルレンジの設定になります。

### センタースピーカーのフィルター調整について

センタースピーカーのフィルター調整は、ネットワークメニューでは行うことができません。メインメニューで調整してください。[94ページ参照]

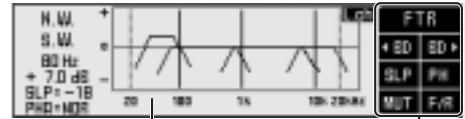


## フィルター調整モードに切り換える

ネットワーク選択画面のときに、ファンクションボタン/1を押します  
フィルター調整画面に切り換わり、フィルター調整を行うことができます。



フィルター調整画面



ファンクションボタンの機能表示  
現在の設定が表示されます。

## ミュート機能の使いかた

フロント/リアの各バンドごとに、ミュート機能をON/OFFすることができます。  
ミュート機能をONにすると、そのバンドの音が出られなくなります。必要に応じてON/OFFしながら、フィルター調整を行ってください。

本機に「RS-P70x」を接続している場合は、フロントの各バンドごとにミュート機能をON/OFFすることができます。また、「RS-P70x」を左チャンネル/右チャンネル独立モードで使用している場合は、左右それぞれのチャンネルの各バンドごとに、ミュート機能をON/OFFすることができます。

### 1 ミュート機能をONにするバンドを選びます

次ページの“フィルター調整のしかた”を参照して、バンドを選んでください。

### 2 ファンクションボタン/5を押して、ミュート機能をONにします

ボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります。



ミュート機能がONになっているバンドの  
フィルターカーブ表示が消えます。



ミュート機能をONにすると表示されます。



## フィルター調整を行う前に

タイムアライメント調整 [117ページ] で、遅延時間の調整を行った後、ポジションが運転席側になっている状態で、フィルター調整を行うことをおすすめします。

フィルター調整の内容は、2種類（「RS-P70x」接続時は4種類）まで記憶させることができます。ポジションセレクター機能 [98ページ] で設定したリスニングポジションの位置や、お聞きになるソースなどによって異なるフィルター特性を記憶させて、必要に応じて切り換えてお使いください。メモリー操作については128ページをご覧ください。

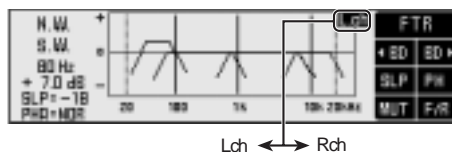
## フィルター調整のしかた

最初に、接続したスピーカーユニットの再生周波数帯域や特性を考慮して、各バンドの適当な使用帯域を決定しておきましょう。

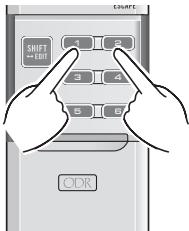
- 1 ファンクションボタン/6を押して、調整したいチャンネルを選びます  
ボタンを押すごとに、チャンネルが切り換わります。

本機に「RS-P70x」を接続している場合は、「Lch」は「左チャンネル」、「Rch」は「右チャンネル」を示しています。(本機に「RS-P70x」以外のオーディオユニットを接続している場合は、「Lch」は「フロント」、「Rch」は「リア」を示しています。)

本機に「RS-P70x」を左チャンネル/右チャンネル共通モードで接続しているときは、左チャンネル/右チャンネルの切り換えはできません。(表示が「Lch」に固定され、左右同じ設定になります。)

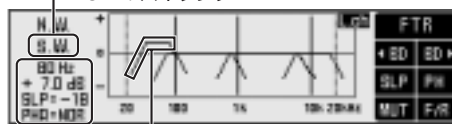


- 2 ファンクションボタン/1, 2を押して、調整するフィルターを選びます  
ボタンを押すごとに、調整するバンドとH.P.F./L.P.F.が順に切り換わります。



選んだバンドが表示されます。

S.W. : サブウーファー  
LOW : ローレンジ  
MID : ミッドレンジ  
HIGH : ハイレンジ



選んだフィルターが点滅します。

選んだバンド(フィルター)の現在の設定が表示されます。



### サブウーファーのフィルター調整について (「RS-P70x」接続時)

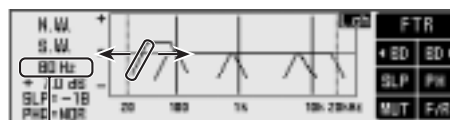
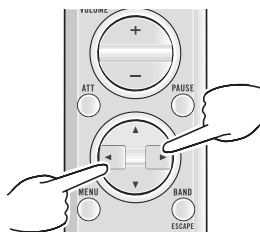
本機に「RS-P70x」を左チャンネル/右チャンネル共通モードで接続しているときは、L.P.F.の遮断周波数およびレベルの調整は、メインメニューでも行うことができます。

### サブウーファーのフィルター調整について (「RS-P70x」以外接続時)

L.P.F.の遮断周波数およびレベルの調整は、メインメニューでも行うことができます。[94ページ参照]

- 3 ◀▶ ボタンを押して、選んだフィルターの遮断周波数 (クロスオーバー周波数) を設定します

押し続けると連続して送られます。



調整しているフィルターの遮断周波数が表示されます。

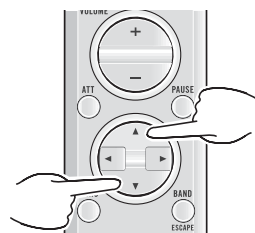
- 4 全てのバンドの各フィルターの遮断周波数を設定します

手順2, 3を繰り返し、それぞれのバンドの使用帯域とクロスオーバー周波数が適当な位置にくるように、各フィルターを調整してください。

- 5 ▲/▼ ボタンを押して、各バンドのレベルを調整します

押し続けると連続して送られます。

それぞれのバンドに切り換えて、全体的にバランスが良くなるように、レベル調整を行ってください。



現在のレベルが表示されます。

次ページへ続く



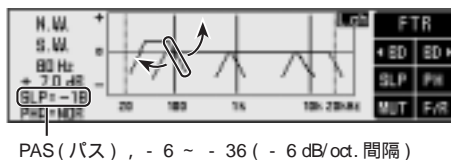
#### 遮断周波数調整上のポイント

ミッドレンジやハイレンジに使用するスピーカーは、ローレンジのスピーカーと比べて、耐入力が低く設定されているのが一般的です。H.P.F.の遮断周波数を必要以上に低く設定すると、低音域の強い信号が入力されて、スピーカーを破損する恐れがありますので、ご注意ください。

#### レベル調整上のポイント

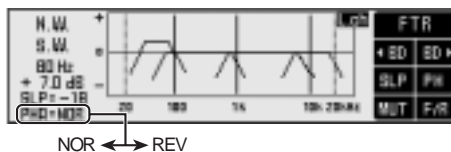
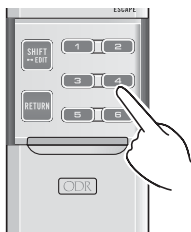
ローバンドには音の周波数特性上、多くの楽器の基本周波数が含まれています。最初にローバンドのレベル調整を行い、ミッド、ハイ、サブウーファアの順で調整を行うことをおすすめします。

- 6 ファンクションボタン/3を押して、各フィルターのスロープを調整します  
ボタンを押すごとに設定値が切り換わります。  
スロープは、H.P.F./L.P.F.別々に設定することができます。それぞれ隣りのバンドとのつながりを考慮して、設定を行ってください。



- 7 ファンクションボタン/4を押して、各バンドの位相を調整します  
ボタンを押すごとに、NOR (正相) とREV (逆相) が切り換わります。  
それぞれ隣りのバンドとのつながりが良い方に設定してください。

本機に「RS-P70x」を左チャンネル/右チャンネル独立モードで接続している場合でも、左右おなじ位相になります。(左右別々の位相の設定はできません。)



- 8 チャンネルを切り換えて、フィルター調整を行います  
手順1~7を繰り返し行って、LchとRchのフィルター調整をそれぞれ行ってください。



### 調整が終わったら

調整した内容は、調整後すぐにメモリーすることをおすすめします。[128ページ参照]

### スロープ調整のポイント

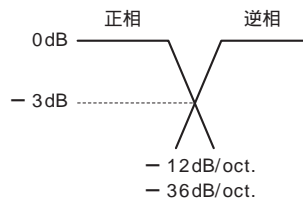
スロープの絶対値を小さく (傾きをゆるやかに) すると、隣り合ったバンドとの干渉によって、周波数特性が影響を受けやすくなります。

スロープの絶対値を大きく (傾きを急に) すると、各バンド間のつながりが悪くなり、音が分離して聞こえるようになります。

全帯域を出力したり、ミュート機能 [123ページ] で隣り合った2バンドだけを出力したりして、各バンド間のつながりを聞きながら、調整してください。

### 位相調整のポイント

クロスオーバーポイントでのスロープの設定値を、両側のフィルター共に  $-12 \text{ dB/oct.}$  または  $-36 \text{ dB/oct.}$  に設定したときは、フィルターの遮断周波数において位相が  $180^\circ$  反転します。この場合は、逆相に設定した方が音のつながりが良くなります。



## ネットワーク選択画面に戻る

RETURNボタンを押します

ネットワーク選択画面に戻ります。



### より良い周波数特性のために

イコライザー機能 [105ページ] と合わせて、フィルターの調整を行うと、車内空間をより自然な音響環境に上げることができます。

### サブウーファースの効果的な調整のしかた

H.P.F.のスロープは、通常PAS (パス) に設定しますが、H.P.F.によって、すっきりした、質の良い低域になることもあります。その場合は、遮断周波数は20 ~ 40 Hz、スロープは - 18 ~ - 36 dB/oct.の間で調整してください。

サブウーファースをリアトレイに設置した場合、L.P.F.のスロープをゆるやか (- 6, - 12 dB/oct.) に設定すると、音が後ろに傾くような感じになり、前方定位が乱れます。スロープは - 18 dB/oct.以上、遮断周波数は100 Hz以下に設定することをおすすめします。

### ローレンジの効果的な調整のしかた

サブウーファースを接続し、ローレンジを 10 cmまたは 13 cm未満の小型のスピーカーユニットで構成した場合は、ローレンジのH.P.F.をPAS (パス) に設定すると、強い低域成分が入ったときに歪が増える可能性があります。この場合は、H.P.F.を設定して、サブウーファースとの干渉を避けてください。

### ハイレンジの効果的な調整のしかた

スピーカーユニットによっては、H.P.F.の調整時、ツイーターでの低域成分 (およそ 2 kHz以下) の信号が入力されると、歪が発生することがあります。この場合は - 18 ~ - 36 dB/oct.の急なスロープ設定を行います。このときに、ミッドレンジとツイーターの音が分離しないように調整してください。

L.P.F.は通常PAS (パス) で使用します。但し超高域が耳につくような場合は、- 6 dB/oct.程度のなだらかなスロープ設定をすることができます。

## 調整したオーディオメニューのメモリー機能

ODRシステムでは、調整したイコライザー、ネットワークの内容を、それぞれ次のようにメモリーすることができます。( )内の数字はメモリー可能な数です。

- 「RS-P1x」、「RS-P50x」、「RS-A1x (II)」、「RS-A2x (II)」接続時—  
イコライザーおよびネットワークの内容は、それぞれ独立して記憶されます。

### イコライザー [105ページ]

ベースメモリー (2) ..... お客様の車独自の周波数特性を考慮した、基本となる補正特性のイコライザーカーブを記憶させておきます。音質調整のベースになるメモリーです。

カスタムメモリー (3) ..... お好みに合わせて調整したイコライザーカーブを、記憶させておくメモリーです。

### ネットワーク [115ページ]

ベースメモリー (2) ..... より自然な音響特性が得られるように、お客様のシステムに合わせた、最適なネットワークの設定内容を記憶させておくメモリーです。

タイムアライメント調整とフィルター調整の内容を、同時に記憶します。

- 「RS-P70x」接続時—

イコライザーおよびネットワークの内容は、同時に記憶されます。

ベースメモリー (2) ..... お客様の車独自の周波数特性を考慮した、基本となる補正特性のイコライザーカーブと、より自然な音響特性が得られるように調整したネットワークの設定内容を記憶させておくメモリーです。

カスタムメモリー (2) ..... お好みに合わせて調整したイコライザーカーブやネットワークの設定内容を、記憶させておくメモリーです。

メモリー操作 (記憶や呼び出しなど) は、全てそれぞれのメニュー画面で行います。本書では、メモリーに関する操作で、全メニュー共通の部分は、主に31バンドグラフィックイコライザーの画面イラストで説明を行っています。他のメニューでも同様の操作を行ってください。



調整内容はオーディオユニットが記憶します

オーディオ調整の内容は、オーディオユニットの中でアドレス1に設定した製品が記憶します。

## メモリーモードに切り換える

メモリー操作は、それぞれのオーディオメニューのメモリーモードで行います。

### イコライザーメニューの場合

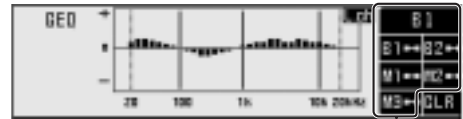
イコライザー調整画面のときに、SHIFTボタンを押します

イコライザーメモリー操作画面に切り換わり、メモリー操作を行うことができます。もう一度押すと、元の画面に戻ります。

フラット機能がONのときは、この操作を行うことはできません。



イコライザーメモリー操作画面



メモリー番号表示

### ネットワークメニューの場合

ネットワーク選択画面のときに、SHIFTボタンを押します

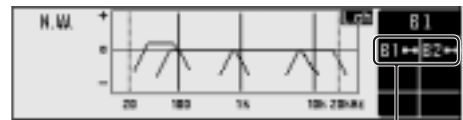
ネットワークメモリー操作画面に切り換わり、メモリー操作を行うことができます。もう一度押すと、元の画面に戻ります。

本機に「RS-P70x」を接続している場合は、イコライザーのフラット機能がONになっていると、この操作を行うことはできません。

フィルター調整画面や、タイムアライメント調整画面のときは、この操作を行うことはできません。



ネットワークメモリー操作画面



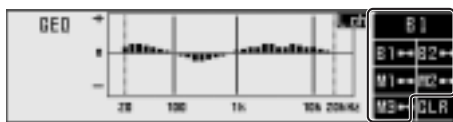
メモリー番号表示

## 調整内容の記憶のしかた

- それぞれのオーディオメニューの調整を行います  
イコライザー [105ページ]  
ネットワーク [115ページ]
- SHIFTボタンを押して、それぞれのメニューのメモリーモードにします  
[129ページ参照]  
それぞれのメニューのメモリー操作画面に切り換わります。



イコライザーメモリー操作画面

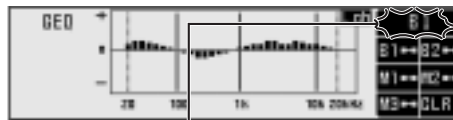


メモリー番号表示

- 記憶させたいメモリー番号のファンクションボタンを2秒以上押し続け、記憶させます

すでに調整内容が記憶されている場合は、前の記憶が消去されて、新しい内容が記憶されます。

例：ベースメモリーB1に記憶させるとき



記憶が完了すると点滅が終了します。

- もう一度、SHIFTボタンを押して、メモリーモードを解除します  
元の画面に戻ります。



## メモリーを誤って消去したくないときは

メモリーを新しく書き上げてしまうことを防ぐために、プロテクト機能を設定することができます。

[133ページ参照]

## リモートコントローラー使用時のご注意

メモリー機能でのリモートコントローラーのボタン操作は、必ず、リモートコントローラーを本体のリモートコントローラー受光部に向けて行ってください。リモートコントローラーの位置によっては、メモリーの操作が正しく行われないことがあります。

## プロテクト機能について

プロテクト機能がONになっていると、そのメモリーボタンに記憶させることはできません。他のメモリーボタンに記憶するか、プロテクト機能を解除してください。

なお、プロテクト機能の解除は、解除するメモリーを呼び出してから行うため、現在設定している調整内容はリセットされてしまいます。プロテクト機能の解除を行った後、もう一度調整しなおしてください。



## メモリーの呼び出しかた

メモリーを呼び出すには、次の2つの方法があります。

順送り/逆送り - イコライザーの機能 -

リモートコントローラーのカバーが閉じた状態のときに操作することができます。メモリー番号 (対応したファンクションボタンの番号) の順送り/逆送りで、記憶させた内容を読み出します。

ネットワークメニューでは、この呼び出し操作は行えません。

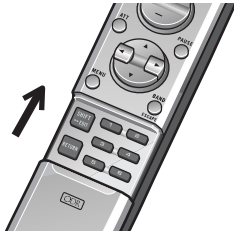
メモリー番号を直接指定する

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。メモリーを直接呼び出します。

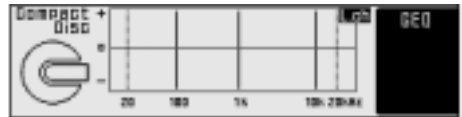
順送り/逆送りで呼び出す - イコライザーの機能 -

- 1 リモートコントローラーのカバーを閉じます

メニュー表示がクローズ状態になります。



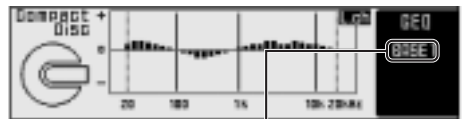
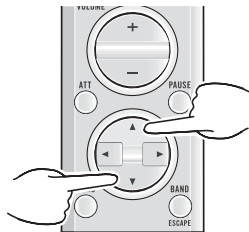
例：イコライザー基本画面



- 2 ▲/▼ボタンを押して、メモリー番号を読み出します

ボタンを押すごとに、メモリー番号が順送り、逆送りされます。

イコライザーのフラット機能がONのときは、メモリーの呼び出し操作は行えません。



呼び出しているメモリー番号が表示されます。

BASE : ベースメモリー

MEMO : カスタムメモリー



### 調整操作を行ったときは

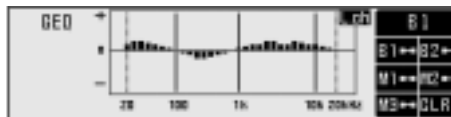
メモリーの呼び出しを行うと、調整した内容はリセットされます。調整した内容は、必要に応じてメモリーに保存してください。[130ページ参照]

## メモリー番号を直接指定する

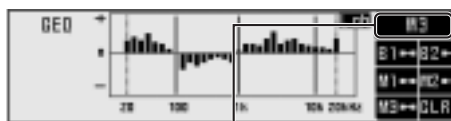
- 1 SHIFTボタンを押して、それぞれのメニューのメモリーモードにします  
[129ページ参照]  
それぞれのメニューのメモリー操作画面に切り換わります。



イコライザーメモリー操作画面



- 2 ファンクションボタンを押して、メモリーを呼び出します  
呼び出したいメモリー番号と対応しているファンクションボタンを押してください。  
例：カスタムメモリー-M3を呼び出すとき



呼び出したメモリー番号が表示されます。



### イコライザーメニューのフラット機能について

本機に「RS-P1x」、「RS-P50x」、「RS-A1x (II)」、および「RS-A2x (II)」を接続している場合、フラット機能がONになっているときは、イコライザーメニューのメモリーを呼び出すことはできません。

本機に「RS-P70x」を接続している場合、フラット機能がONになっているときは、イコライザーメニューおよびネットワークメニューのメモリーを呼び出すことはできません。

## メモリーのプロテクト機能

メモリーした内容を誤って消去したり，新しく上書きしてしまうことを防ぐために，ベースメモリー (B1, B2) およびカスタムメモリー (M1, M2) に対してプロテクト機能を設定することができます．

プロテクト機能をONにすると，調整内容の記憶操作を受け付けなくなります．

プロテクト機能は，ベースメモリーとカスタムメモリーをそれぞれ独立して設定することができます． (B1とB2またはM1とM2は同時に設定されます．)

本機に「RS- P1x」,「RS- P50x」,「RS- A1x(II)」, および「RS- A2x(II)」を接続している場合の，カスタムメモリー (M3) には，プロテクト機能は設定できません．

### 1 プロテクト機能の設定を行うメモリーを呼び出します

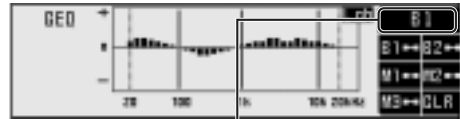
[129ページ参照]

メモリー番号を直接指定して，メモリーを呼び出してください．

例：ベースメモリー-B1を呼び出すとき



例：イコライザーメモリー操作画面



呼び出したメモリーに対して，クリアー操作を行います．

### 2 RETURNボタンを2秒以上押し続け，プロテクト機能をONにします

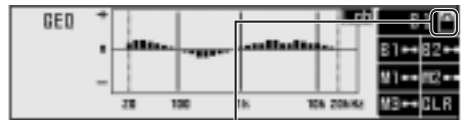
もう一度2秒以上押し続けると，プロテクト機能は解除されます．



### プロテクト機能のON/OFFのときは

プロテクト機能のON/OFFを行っても，ディスプレイには何も表示されません．

プロテクト機能をONに設定したときは，そのメモリー番号に新しく記憶させようとするとき，次のようにロックマークが表示されて，記憶ができないことを知らせます．



ボタンを押している間，表示されます．

## メモリーのクリアー操作

- 「RS-P1x」, 「RS-P50x」, 「RS-A1x (II)」, 「RS-A2x (II)」 接続時—  
イコライザーのメモリーをクリアーして、調整前の初期状態に戻すことができます。

イコライザー機能は、常にON状態になっています。カスタムメモリーの1つに、フラットカーブをメモリーしておく、イコライザーで音場補正を行わない状態にすることができます。

- 「RS-P70x」 接続時—

各メモリーをクリアーして、調整前の初期状態に戻すことができます。

メモリーをクリアーすると、そのメモリー番号に記憶されているイコライザー、ネットワークの設定が全て消去され、そのメモリーは初期状態に戻ります。

### 1 クリアー操作を行うメモリーを呼び出します

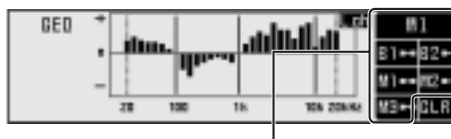
[131ページ参照]

メモリー番号を直接指定して、メモリーを呼び出してください。

例：カスタムメモリー-M1を呼び出すとき



例：イコライザーメモリー操作画面



呼び出したメモリーに対してクリアー操作を行います。

### 2 ファンクションボタン/6を2秒以上押し続け、メモリーをクリアーします

プロテクト機能がONのときは、クリアー操作を行うことはできません。



## オーディオ設定者の表示機能について

オーディオメニューのベースメモリー (イコライザーおよびネットワーク) の設定者の名前やメッセージを入力して、本機に記憶させておくことができます。各オーディオメニューに切り換えると、最初に各メニューのタイトル画面が表示されます。このオーディオメニューのタイトル画面上に、記憶させた内容が表示されます。

最大20文字まで記憶できます。

全てのオーディオメニューのタイトル画面上に、同じ内容が表示されます。

例：メインメニュータイトル画面

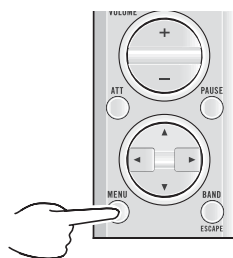


記憶させた内容が表示されます。

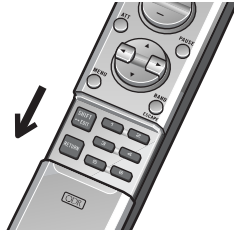
## 文字を入力する (編集モードに切り換える)

文字の入力は、編集モードで行います。

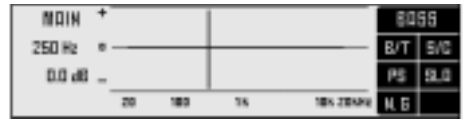
- 1 MENU ボタンを押して、オーディオメニューに切り換えます  
全てのオーディオメニュー (メイン/イコライザー/ネットワーク) から、編集モードに切り換えることができます。メニューのどれかに切り換えてください。



2 リモートコントローラーのカバーを開けます



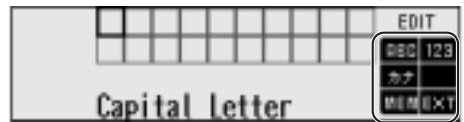
例：メインメニューに切り換えたとき



3 SHIFTボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換えます  
文字入力画面に切り換わり、文字を入力することができます。



文字入力画面



ファンクションボタンの機能表示

4 記憶させたい内容を入力して、記憶させます

22ページを参照して、入力を行ってください。

5 記憶させた内容が、ディスプレイ上に表示されます

オーディオメニューを切り換えると、タイトル画面上に記憶させた内容が表示されます。



車のバッテリーを取り外したときは

オーディオ設定名は、本機で記憶しています。車のバッテリーを外したときは、記憶は消去されます。

# 付録

“あれ？故障かな？”と思ったときは、修理に出す前に必ず「故障かな？と思ったら」の項をお読みください。また、「オーディオ調整情報」では、メモリー内容を控えるためのメモリーデータメモを記載しました。本書の検索には、「機能別索引」をお役立てください。

## 内 容

故障かな？と思ったら .....	138
チェック表 .....	139
アフターサービスについて .....	141
オーディオ調整情報 .....	142
ポジションセレクターの初期設定値 .....	142
メモリーデータメモ .....	143
機能別索引 .....	146
仕様 .....	148
メモ .....	149

## 故障かな？と思ったら

ちょっとした操作のミスで故障と間違えることがあります。故障かな？と思ったら、次のことを行ってください。

### 1 “チェック表” にしたがって、操作をもう一度確認してください

取付説明書および組み合わせたそれぞれの製品の“故障かな？と思ったら”の項もあわせてご覧ください。

### 2 操作にミスがなかった場合は、本機のリセットボタンを押してください

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

接続が終わった後

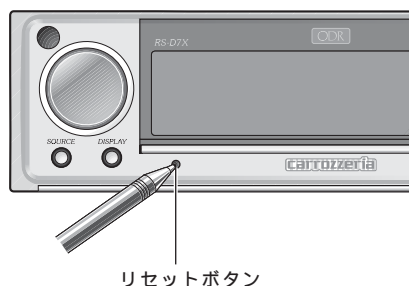
本機が正しく動作しないとき

ディスプレイが正しく表示されないとき

リセットボタンを押すと、本機の記憶（環境設定の内容やチューナーのプリセットなど）が消去されます。もう一度セットしなおしてください。

### 3 リセットボタンを押しても直らないときは...

“アフターサービスについて” [141ページ] をお読みになり、修理を依頼してください。分解したり、注油することはやめてください。





## チェック表

### 共通項目 / オーディオメニュー

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが 正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、 もう一度確認してください。	—
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れた ヒューズを同じ容量のものと交換してください。	—
音が出ない。 音が小さい	音量を下げている。	音量を上げてください。	28
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。	29
	音量バランスが適切でない。	正しく調整してください。	91
前または後ろのスピーカー から音が出ない。	フェーダーの調整を誤っている。	正しく調整してください。	91
左または右のスピーカー から音が出ない。	バランスの調整を誤っている。	正しく調整してください。	91

### リモートコントローラー

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
リモートコントローラーが きかない。	電池が入っていない。	電池を入れてください。	5
	電池が弱っている。	電池を交換してください。	
	電池の ⊕ ⊖ の向きを逆に 入れている。	正しく入れてください。	
	足元やシートに向けて操作して いる。	リモートコントローラー受光部 に向けて操作してください。	vii, 5
	リモートコントローラー受光部 に直射日光が当たっている。	直射日光をさえぎってください。	5

### テレビ / ラジオ

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
“ジージー、ザーザー”と いう雑音が多い。	放送局の周波数またはチャン ネルに合っていない。	正しい周波数またはチャンネルに合 わせてください。	45, 81
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。	45, 81
	回りに障害物があるなど 受信状態がよくない。	受信状態が良くなると、雑音も少 なくなります。	—
自動選局で受信できない。	強い電波の放送局がない。	手動選局で選局してください。	45, 81

## CD

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
大きな雑音が出る。 再生がストップしてしまう。	ディスクに大きなキズやそりがある。	他のディスクと交換してください。 良くなればディスクの不良です。	32
	ディスクが極端に汚れている。	ディスクの汚れをふき取ってください。	33
	ディスクに曇りや水滴が付いている。	ディスクの曇りや水滴をふき取ってください。	33
	ディスクの表裏を逆にセットしている。	ディスクのタイトル面を上にしてセットしてください。	34
CDの再生ができない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で EJECT ボタンを 2 秒以上押すと、CD を取り出すことができます。もう一度入れ直してください。	—

## CD プレーヤーのエラー表示

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
ERROR 11, ERROR 12 ERROR 17, ERROR 30	CD が汚れているとき。	CD の汚れをふき取ってください。	33
	CD にキズやひびがあるとき。	CD を交換してください。	32
ERROR 14	CD- R/CD- RW を録音しないまま使用しているとき。	CD- R/CD- RW は録音してからお使いください。	32
ERROR 10, ERROR 11 ERROR 12, ERROR 14 ERROR 17, ERROR 30 ERROR A0	電気系, 機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか, CD 再生を一度やめてから, もういちど CD 再生にしてください。	—
HEAT	本機の内部温度が高いとき。	内部温度が下がるまでお待ちください。	—
ERROR 44	全ての曲がトラックスキップ指定されているとき。	CD を交換してください。	32

マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

## アフターサービスについて

### 保証期間について

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

### 保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買いあげの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

### 保証期間経過後の修理について

お買いあげの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

### 補修用性能部品の最低保有期間

当社は本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

### ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買いあげの販売店にお問い合わせください。

## オーディオ調整情報

### ポジションセレクターの初期設定値

ポジションセレクター機能 [98ページ] で選択したそれぞれのポジションでは、各スピーカー間の遅延時間およびレベル差の初期値として、次の値が設定されています。

ポジションセレクターがOFFのときは、すべての値が0に設定されます。

ネットワークメニューのタイムアライメント調整 [117ページ] で遅延時間の設定を行った場合は、ポジションセレクター機能の遅延時間の設定値 (表の値) は、全て0 msec. になります。

選択したポジション		スピーカー			
		フロント左	フロント右	リアー左	リアー右
FRONT-R	遅延時間	0.00 msec.	0.95 msec.	0.05 msec.	1.00 msec.
	レベル差	0 dB	0 dB	- 10 dB	- 10 dB
FRONT-L	遅延時間	0.95 msec.	0.00 msec.	1.00 msec.	0.05 msec.
	レベル差	0 dB	0 dB	- 10 dB	- 10 dB
FRONT	遅延時間	0.00 msec.	0.00 msec.	0.00 msec.	0.00 msec.
	レベル差	0 dB	0 dB	- 10 dB	- 10 dB
ALL	遅延時間	0.00 msec.	0.00 msec.	0.00 msec.	0.00 msec.
	レベル差	0 dB	0 dB	- 15 dB	- 15 dB

## メモリーデータメモ

故障などの予期しないトラブルで、調整した各項目が消失しても元に戻せるように、調整した数値は、メモすることをおすすめします。

### イコライザー

周波数	B1		B2		M1		M2		M3	
	FRT	RER	FRT	RER	FRT	RER	FRT	RER	FRT	RER
20 Hz										
25 Hz										
31.5 Hz										
40 Hz										
50 Hz										
63 Hz										
80 Hz										
100 Hz										
125 Hz										
160 Hz										
200 Hz										
250 Hz										
315 Hz										
400 Hz										
500 Hz										
630 Hz										
800 Hz										
1 kHz										
1.25 kHz										
1.6 kHz										
2 kHz										
2.5 kHz										
3.15 kHz										
4 kHz										
5 kHz										
6.3 kHz										
8 kHz										
10 kHz										
12.5 kHz										
16 kHz										
20 kHz										

### ネットワーク：タイムアライメント

B1	ポジション：				単位：
	S.W.	LOW	MID	HIGH	センタースピーカー
FRT	/				/
RER					

B2	ポジション：				単位：
	S.W.	LOW	MID	HIGH	センタースピーカー
FRT	/				/
RER					

M1	ポジション：				単位：
	S.W.	LOW	MID	HIGH	センタースピーカー
FRT	/				/
RER					

M2	ポジション：				単位：
	S.W.	LOW	MID	HIGH	センタースピーカー
FRT	/				/
RER					

M3	ポジション：				単位：
	S.W.	LOW	MID	HIGH	センタースピーカー
FRT	/				/
RER					

## ネットワーク：フィルター特性

		B1						B2					
		L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相	L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相
		周波数	スロープ	周波数	スロープ			周波数	スロープ	周波数	スロープ		
FRT	HIGH												
	MID												
	LOW												
	S.W.												
RER	HIGH												
	MID												
	LOW												
	S.W.												
センタースピーカー													

		M1						M2					
		L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相	L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相
		周波数	スロープ	周波数	スロープ			周波数	スロープ	周波数	スロープ		
FRT	HIGH												
	MID												
	LOW												
	S.W.												
RER	HIGH												
	MID												
	LOW												
	S.W.												

		M3					
		L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相
		周波数	スロープ	周波数	スロープ		
FRT	HIGH						
	MID						
	LOW						
	S.W.						
RER	HIGH						
	MID						
	LOW						
	S.W.						

センタースピーカーの調整は、メインメニューで行います。また、センタースピーカーの調整内容は記憶されません。

## 機能別索引

## 共通

オーディオメニュー解除 .....	89
オーディオメニュー切り換え .....	89
オーディオメニューメッセージ入力 .....	135
音量調節 (ボリューム) .....	28
瞬時に音量を小さくする (アッテネーター) .....	29
ソース切り換え .....	26, 27
ディスプレイオフ機能 .....	30
デタッチャブル フロントパネル .....	8
電源を入れる .....	26, 27
電源を切る .....	26, 27
フロントパネルの開閉 .....	7
ミュート機能 .....	30
文字の入力 .....	22

## 初期設定

一般環境の設定 .....	17
外部機器の名称入力 .....	18
環境設定モード .....	11
供給電圧表示 .....	19
時報合わせ .....	13
操作確認音のON/OFF .....	20
ディスプレイ明るさ調節 .....	15
ディスプレイの設定 .....	15
ディマー .....	15
時計の設定 .....	12
時計表示のON/OFF .....	13
背景パターン選択 .....	16
反転表示のON/OFF .....	16
メニューロックの設定 .....	21
AUX (外部機器) の設定 .....	17
FMダイバーシティー .....	20

## 内蔵CD

スキャン再生 .....	38
選曲 (トラックサーチ) .....	37
タイトル入力 .....	40
ディスプレイ切り換え .....	39
早送り/早戻し .....	37
ポーズ .....	39
ランダム再生 .....	38
リピート再生 .....	37
「CD TEXT」 .....	33, 41
CD再生のON/OFF .....	34

## チューナー

選局 .....	45
バンド選択 .....	44
プリセットチューニング .....	48
プリセットメモリー .....	46
放送局名変更 .....	50
チューナーのON/OFF .....	44
BSM .....	47

## マルチCD

再生モード .....	58
スキャン再生 .....	60
選曲 (トラックサーチ) .....	57
タイトル入力 .....	62
ディスクナンバーサーチ .....	55
ディスクリスト .....	64
ディスプレイ切り換え .....	61
早送り/早戻し .....	57
ポーズ .....	61
マルチCD再生のON/OFF .....	54
ランダム再生 .....	59
「CD TEXT」 .....	63



## DVDプレーヤー

再生モード .....	73
スキップ再生 .....	75
タイトル入力 .....	77
チャプター (トラック) 選択 .....	72
ディスクナンバーサーチ .....	70
ディスクメニュー画面 .....	68
ディスプレイ切り換え .....	76
早送り/早戻し .....	72
ポーズ .....	76
ランダム再生 .....	74
DVD再生のON/OFF .....	69
DVDプレーヤーの設定 .....	68

## テレビ

音声切り換え .....	86
チャンネル選択 .....	81
テレビのON/OFF .....	80
バンド選択 .....	80
プリセットチューニング .....	84
プリセットメモリー .....	82
BSSM .....	83

## メインメニュー

サブウーファー簡易調整 .....	94
センタースピーカー調整 .....	94
バス/トレブル調整 .....	92
フェーダー/バランス調整 .....	91
ポジションセレクター .....	98
ポジション微調整 .....	99
リスニングポジション調整 .....	97
CD ノイズゲート .....	104
SLA .....	102

## イコライザーメニュー

クイック調整 .....	108
ファイン調整 .....	108
フラット機能 .....	114
31/16バンド グラフィックイコライザー調整 .....	108
3バンド パラメトリックイコライザー調整 .....	111

## ネットワークメニュー

タイムアライメント調整 .....	117
フィルター調整 .....	122
補正距離 (遅延時間) の算出 .....	117
補正距離 (遅延時間) の入力 .....	119
マルチアンプシステム .....	115
ミュート機能 .....	123

## メモリーモード

記憶のしかた .....	130
クリアー操作 .....	134
プロテクト機能 .....	133
メモリーモード切り換え .....	129
メモリー呼び出し .....	131

## 仕様

### CDプレーヤー部

形式	コンパクトディスクオーディオシステム
使用ディスク	コンパクトディスク
信号フォーマット	サンプリング周波数：44.1 kHz
	量子化ビット数：16ビット直線
周波数特性	5 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)

### FMチューナー部

受信周波数帯域	76.1 ~ 89.9 MHz
実用感度	9 dBf (0.8 $\mu$ V/75 , モノラル) (S/N : 30 dB)
S/N 50 dB感度	14 dBf (1.4 $\mu$ V/75 , モノラル)
S/N	70 dB (IHF- Aネットワーク)
高調波歪率	0.3% (65 dBf入力 , 1 kHz , ステレオ)
周波数特性	30 ~ 15,000 Hz (± 3 dB)
ステレオセパレーション	40 dB (65 dBf入力 , 1 kHz)

### AMチューナー部

受信周波数帯域	522 ~ 1,629 kHz (9 kHz)
実用感度	18 $\mu$ V (S/N : 20 dB)
実効選択度	50 dB (± 9 kHz)

### 共通部

使用電源	DC 14.4 V (10.8 ~ 15.1 V使用可能)
アース方式	マイナスアース方式
最大消費電流	4.0 A

#### 寸法

... Dマウント (フレーム未使用時) :	取付寸法 : 178 (W) × 50 (H) × 165 (D) mm
	ノーズ寸法 : 170 (W) × 45 (H) × 15 (D) mm
... DINマウント (フレーム使用時) :	取付寸法 : 178 (W) × 50 (H) × 160 (D) mm
	フロントフェイス寸法 : 188 (W) × 58 (H) × 20 (D) mm

#### 重量

..... 本体 : 1.7 kg (コードユニット含まず)

#### 信号フォーマット

.....	サンプリング周波数 : 44.1 ~ 96 kHz
デジタル出力	光出力 (44.1 kHz)
デジタル入力	光入力 (44.1 ~ 96 kHz)

### 付属品

コードユニット	1
リモートコントローラー	1
取付ネジ類	1式
取扱説明書	1
取付説明書	1
保証書	1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	1
乾電池	2

上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

この説明書のカバーには、ダイオキシンなどの有害物質や有毒ガスを発生させない素材を使用しています。

---

メモ



この説明書の印刷には、植物性大豆インキを使用しています。

## お客様ご相談窓口 (全国共通フリーフォン)

### カスタマーサポートセンター

カーオーディオ / カーナビゲーション商品のお問い合わせ窓口

 0070-800-8181-11

カタログのご請求窓口

 0070-800-8181-33

<ご注意> PHS, 携帯電話, 自動車電話, 列車公衆電話, 船舶電話, ピンク電話, および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

修理に関しては、別添えの『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

<http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html>

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2001

< KSNZF/00D00001 > < CRA3139-A >